



AVG PC TuneUp 2014

取扱説明書

文書改訂 2014.07 (5/26/2014)

Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.
その他すべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。

目次

1. AVG PC TuneUp へようこそ!	4
1.1 システム要件.....	4
1.2 ヘルプ&サポート.....	4
2. スタートセンター	5
3. PC モード	8
3.1 エコノミー モード.....	8
3.2 スタンダード モード.....	12
3.3 ターボ モード.....	12
4. フライトモード	17
5. 最適化の可能性	18
6. メニューバー	20
7. ダッシュボード	21
7.1 システムのメンテナンス.....	22
7.2 パフォーマンスの向上.....	25
7.3 問題の修正.....	27
7.4 システム保護.....	27
8. 最適化	30
8.1 システムの負荷の減少.....	31
8.2 レジストリとパフォーマンスの最適化.....	42
9. クリーンアップ	53
9.1 Windows とプログラムを整理する.....	54
9.2 ブラウザのクリーンアップ.....	56
9.3 破損したショートカットを削除する.....	57
9.4 Windows の機能を無効化.....	58
9.5 重複ファイルを検索して削除.....	59
9.6 大容量データを検出して削除.....	60
9.7 データを確実に削除する.....	64
10. 問題の修正	68
10.1 典型的な問題の修正.....	69

10.2 ハードディスク エラーを検査.....	70
10.3 削除されたファイルの復元.....	72
10.4 実行中のプロセスを管理する.....	74
10.5 システム情報を表示する.....	76
11. カスタマイズ.....	78
11.1 オプションと動作を個々にカスタマイズ.....	79
11.2 Windows の外観をカスタマイズする.....	98
12. すべての機能.....	111
12.1 レジストリの編集.....	116
12.2 更新の確認.....	117
12.3 AVG 最適化レポートの表示.....	118
13. プログラムの評価機能.....	119
14. AVG PC TuneUp ガジェット.....	121
15. タスクバー通知領域の AVG PC TuneUp.....	123

1. AVG PC TuneUp へようこそ!

AVG PC TuneUp をお選びいただき、ありがとうございます。これはPC を最適化するための、30以上にわたる様々なツールの総合セットでございます。このソフトウェアを使用すると、PC やノートパソコン、あるいはネットブックをあまり費用をかけることなく最適な状態にできます。

AVG PC TuneUp を使用することで、オペレーティングシステム、ゲーム、プログラムなどのパフォーマンスを最高レベルへ復元できます。AVG PC TuneUp を使えば、ハードディスクやレジストリのクリーンアップなど、重要なメンテナンスタスクを自動で、またはユーザーが手動で行えます。乱雑で動作の重いコンピュータはユーザーにとってはもはや過去のものです。AVG PC TuneUp は、システムに問題があるかどうかを識別し、シンプルな解決方法を提案します。AVG PC TuneUp では、Windows システムの表示画面をカスタマイズできます。

AVG PC TuneUp を使って、最適な状態の PC をお楽しみください。

1.1. システム要件

AVG PC TuneUp をインストールして実行させるには、お使いのコンピュータが次の要件を満たしている必要があります:

- Windows R XP (Service Pack 3 以上)、Windows R Vista、Windows R 7 または Windows R 8 (32ビットまたは 64ビット版)
- 最低 300 MHz のプロセッサ
- 256 MB のメモリ
- 1024x768 ピクセル以上の画面解像度
- オンライン版: 150 MB 以上のハードディスク空き領域
- CD 版: 400 MB 以上のハードディスク空き領域 (それに CD-ROM あるいは DVD のドライブ)
- Internet Explorer 6 以上

1.2. ヘルプ&サポート

ヘルプとサポートはオンライン (www.avg.com/customer-support) でご利用いただけます。そこからサポート オプションの詳細情報もご覧いただけます。

2. スタートセンター

新しいAVG PC TuneUp スタートセンターは、すべての機能と最適化オプションにアクセスできます。



PC モード

PC モードの領域では、Windows のオペレーション システムのためにはどのモードをオンにするべきかを決定することができます。

詳細は、[PC モード](#)をご覧ください。

フライトモード

このエリアはノート型パソコンのみで有効で、その他はグレーとなります。シンプルなスイッチにより、ノート型パソコン上のすべてのワイヤレス ネットワークをオフにできます。

詳細は、[フライトモード](#)をご覧ください。

最適化の可能性

最適化の可能性は、AVG PC TuneUpにより提供されたオプションをどの程度すでに使用しているかを示します。

詳細は[最適化の可能性](#)をご覧ください。

メニューバー

メニューバーではAVG PC TuneUpの中央設定ダイアログやこのプログラムと個々のモジュールについての情報にアクセスできます。

詳細は[メニューバー](#)をご覧ください。

5つのカテゴリ

AVG PC TuneUp スタートセンターのメイン領域は5つのカテゴリからなり、AVG PC TuneUpの重要な機能にすばやく、テーマごとにアクセスできます。

スタートセンター内の5つのカテゴリはAVG PC TuneUpの重要なタスクエリアを示しています。第1のカテゴリは4つの中心的チューニング領域のステータスを表示します。緊急措置の必要性あるいは最適化の可能性があるかどうかが一目でわかります。他の4つのカテゴリは、AVG PC TuneUpのさまざまなモジュールへの便利なリンクを提供します。

ダッシュボード

ダッシュボードカテゴリでは、システムの現在の状況についての概観や状態をさらに改善するための推奨事項を得ることができます。右端にはシステム保護のステータスがあります。

詳細は[ダッシュボード](#)をご覧ください。

最適化

最適化では、不要なプログラムを無効あるいはアンインストールし、システムやデータをクリーンアップすることができます。

詳細は、[最適化](#)をご覧ください。

クリーンアップ

クリーンアップでは、システムティックに不要なデータをシステムから削除できます。

詳細は[クリーンアップ](#)をご覧ください。

問題の修正

問題の修正では、万が一発生した問題の簡単な解決法が見つかります。

詳細は[問題の修正](#)をご覧ください。

カスタマイズ

カスタマイズでは、作業環境を自分の望みどおりにカスタマイズすることができます。

詳細は[カスタマイズ](#)をご覧ください。

すべての機能

カテゴリの右側に**すべての機能**があります。ここでは、AVG PC TuneUpで使用するすべての機能をアプリケーション領域ごとに整理して一覧表示します。



詳細は[すべての機能](#)をご覧ください。

3. PC モード

PC モードの領域では、Windows のオペレーション システムのためにはどのモードをオンにするべきかを定めることができます。



エコノミー モード

AVG エコノミーモードを使って、ディスプレイやハードウェア コンポーネント、あるいは不要な機能をオフにすることにより、コンピュータの電力消費を低減させることができます。

詳細は、[エコノミーモード](#)をご覧ください。

スタンダード モード

スタンダードモードは、Windows の通常オペレーションでもあります。

詳細は、[機内モード](#)をご覧ください。

ターボ モード

AVGターボモードを使って、システムにいつでもパフォーマンス強化を追加でき、個人のニーズに合わせてカスタマイズすることができます。

詳細は、[ターボモード](#)をご覧ください。

3.1. エコノミーモード

この章では、**どんなときにエコノミーモードが便利であり、エコノミーモードをオンにすると何が起るかを説明します。**さらに、どのようにエコノミーモードをオンにし、設定するのかの手引きも得られます。

エコノミーモードとは？

エコノミーモードは、電力を節約する **AVG PC TuneUp** のインテリジェントなモジュールです。エコノミーモードでは、必要なときにすぐに省電力に配慮できます。コンピュータをエコノミーモードに切替えると、現在バックグラウンドで実行されているけれども、特に必要ではないハードウェアやタスク、プログラム、機能が消費している電力が低下します。これらはオフになるので、消費電力（電気代も）が明らかに低下します。

エコノミーモードをオンにするのはどんな場合ですか？

エコノミーモードを使えば、デスクトップPCの電力消費を明確に低減したり、コンセント電源が利用できない時にラップトップのバッテリー稼働時間を長くすることができます。エコノミーモードをオンにすることで、いくつかの機能がオフになりますが、エコノミーモードをオフにすると再び使用できるようになります。

エコノミー モードでどのくらい電力が節約できるか、どこでわかりますか？

ランプ方式を使って、**エコノミー モードのウィザード**は、その設定によって実際にどのくらい電力を節約しているかを表示します。全体的節約の右隣のバーが緑の場合は、省電力が高いことを示しています。黄色いバーは省電力が中レベル、赤は低いレベルであることを示しています。

例えば、**サーブ**の領域で省電力がどの程度かは、領域の右隣にあるナビゲーションバーにバーの色で直接表示されます。

コンピュータをエコノミー モードに切り替える方法

AVG PC TuneUp スタートセンターの左下に3つのスイッチがあります。左側のスイッチがエコノミー モード用です。このスイッチをクリックすると、コンピュータがエコノミー モードに切り替わります。AVGアイコンがタスクバーの通知領域に表示され、エコノミー モードがオンであることを知らせます。



また、エコノミー モードのスイッチには、タスクバーの通知領域にある **AVG PC TuneUp** アイコンから直接アクセスすることもできます。それには、アイコンを左クリックします。ポップアップウィンドウが開き、左下にエコノミー モードのスイッチが表示されます。

エコノミー モードがオンになっているかどうかを知る方法

エコノミー モードがオンになると、タスクバーの通知領域(右下隅の時刻の隣)にエコノミー モードがオンになっていることを知らせるための **AVG PC TuneUp** アイコンが表示されます。さらに、スタートセンターのスイッチでもそれがわかります。

AVGエコノミーモードを設定する方法

最初にエコノミー モードをオンにするとウィンドウが開き、そこでカスタマイズしたエコノミー モードが設定できます。ここでエコノミー モードにプリセットされたオプションを適用するか、あるいはニーズに合わせて自分で設定するかを決めます。

詳細は、[エコノミーモードの設定](#)をご覧ください。

3.1.1. エコノミーモードの設定

AVG エコノミーモードを設定するためのウィザードを開始するには、スタートセンターにあるメニューバーの **設定** をクリックした後、**エコノミーモード** エリアを選択して、そこにある**[設定ウィザードを開く]** ボタンをクリックします。別の方法として、**AVGエコノミーモード**を設定するためのウィンドウを開くには、AVG スタートセンターに行き、**最適化** カテゴリを選択して、**エコノミーモードを設定** リンクをクリックします(システムの負荷を減少させるエリアにあります)。

エコノミー モードが既にオンになっている場合、ウィザードを再度実行する必要はありません。エコノミー モード設

定を、AVG の中央設定ダイアログ (エコノミー モード項目) で直接変更することができます。適切なボックスをチェックし (もしくはチェックを外し)、[適用] をクリックするだけです。

エコノミー モードを自分なりに構成するには、エコノミー モードがオンになっている間、どのハードウェア コンポーネント、サービス、機能が省電力のため一時的にオフにしてよいかを選択します。オフにする項目が多ければ多いほど、省電力が顕著になります。

一般設定

システムのパフォーマンスを低下させ、視覚効果をオフにする設定の機能もいるかどうか、ここで指定します。さらに、コンピュータが再起動したときに、エコノミー モードはオンのままにするかどうかを選択できます。

画面

コンピュータの画面は、例えばハードディスクやプロセッサのようなハードウェア コンポーネントよりもっと電力を消費しかねません。画面の明るさを下げたり、コンピュータを現在使っていないときに画面を早めにオフにすると、電力消費は明確に低減します。

画面の明るさ (ノート型パソコンのみ)

全般: このオプションでは、エコノミー モードがオンである場合、全般的な画面の明るさをどのくらい下げべきかを指定します。

暗くする場合: このオプションでは、エコノミー モードがオンのときに暗くする場合、画面の明るさをどのくらい下げべきかを指定します。

画面の動作

オフにする: このオプションでは、エコノミー モードがオンである場合、どのくらい経ったら画面をオフにするべきかを指定します。

暗くする (ノート型パソコンのみ): このオプションでは、エコノミー モードがオンである場合、どのくらい経ったら画面を暗くすべきかを指定します。

ハードウェア

ハードウェア コンポーネントを一時的にオフにすると、コンピュータの電力消費は低減します。そのうえ、どのコンピュータでもバックグラウンドでは多数のサービスが働いていて、接続されたデバイスを認識したり、そのデバイスの使用に適した機能を提供しています。コンピュータの電力消費を下げるため、このサポートを制限することができます。

ハードウェア コンポーネント

ハードディスクのスタンバイ: このオプションでは、エコノミー モードがオンの場合、どのくらい経ったらハードディスクがスタンバイモードになるべきかを指定します。

省電力 プロセッサ: このオプションでは、エコノミー モードがオンの場合、プロセッサの省電力がどの程度であるべきかを指定します。

省電力 ワイヤレス アダプタ (Windows Vista および 7 のみ): このオプションでは、エコノミー モードがオンの場合、ワイヤレス アダプタの省電力がどの程度であるべきかを指定します。

外部デバイスとの接続

モバイルデバイスとの同期: このオプションでは、エコノミーモードがオンである場合に、アドレス、メール、音楽ファイルその他は携帯電話やポータブルのメディア再生デバイスと同期されず、それに関するプログラムもデバイスの接続後に自動起動されません。

デジタルカメラやスキャナーのサポートを制限: このオプションでは、エコノミーモードがオンである場合に、デジタルカメラの画像は取り込みやスキャンができません。

サービス

オペレーションシステムは、大部分のユーザーが認識しているよりはるかに多くのタスクを実行しています。バックグラウンドで必ずしも必要でない多数のプログラムやサービスが常時実行され、電力を不要に消費しています。これら機能が全く必要でない場合は、機能をオフにして、コンピュータの電力消費を長期的に低減することができます。

バックグラウンド機能

メディアライブラリのネットワーク共有: このオプションでは、エコノミーモードがオンである場合、他のネットワークデバイスはメディアライブラリにある画像、ビデオ、音楽にアクセスできません。エコノミーモードは、ネットワーク上のフォルダの共有には影響しません。

インデックス作成によるクイック検索: このオプションでは、エコノミーモードがオンである場合、Windowsはファイルやメールの索引を作成できません。このオプションをオフにすると、検索はかなり遅くなります。

エラー報告: このオプションでは、エコノミーモードがオンである場合、エラーについてのデータは収集されず、クラッシュしたプログラムやその他のエラーはMicrosoftへ報告されません。

仮想マシンのサポート: (このオプションを使用できるのは、仮想マシン用のソフトウェアがコンピュータにインストールされている場合のみです。)このオプションでは、エコノミーモードがオンの場合、仮想マシンを利用するためのバックグラウンド機能をオフにすることができます。

さまざまなサービス

ほとんど必要ないサービス: このオプションでは、エコノミーモードがオンである場合、特殊な環境(社内ネットワークなど)あるいは特殊な状況(新しいプログラムのインストールなど)でしか必要でないサービスはオフになります。

特殊な暗号化サービス: このオプションでは、エコノミーモードがオンである場合、ドメインへのログオンサービスはオフになります。

ネットワーク通信サービス: このオプションでは、エコノミーモードがオンである場合、ファックスやピアツーピアサービスのようめったにしか使わないネットワーク通信サービスはオフになります。

ディスプレイ

視覚効果を利用すると、Windowsのインターフェイスが洗練された外観になりますが、貴重なメモリが大量に消費されてしまいます。特にビデオカードの性能が高くない場合は、視覚効果をオフにすればコンピュータのパフォーマンスが向上します。

ヒント: これは、ネットブックのユーザーの間で、パフォーマンスを長期的に改善する方法として広く使用されています。

視覚効果

ウィンドウの視覚特殊効果: このオプションでは、エコノミーモードがオンである場合に、ウィンドウの透明効果や影、タスクバー上のウィンドウ縮小ビュー、ウィンドウ間の3Dナビゲーションはオフになります。

クラシックウィンドウスタイル: このオプションでは、エコノミーモードがオンである場合に、ウィンドウ、メニューおよびボタンの外観にクラシックなWindowsのデザインが使用されます。また、Windows XPではカラフルなWindowsインターフェイスが無効になり、より新しいバージョンのWindowsではタスクバーでのウィンドウの透明効果とサムネイルが無効になります。

デスクトップの背景

スライドショー: このオプションでは、エコノミーモードがオンの場合にデスクトップの背景のスライドショーはオフになります。

3.2. スタンダードモード

スタンダードモードはデフォルトでオンになっています ([エコノミーモード](#)または[ターボモード](#)に変更していない場合)。

スタンダードモードでは、AVG PC TuneUpのすべての機能が制限なしに使用できます。

3.3. ターボモード

この章では、**どんなときにターボモードが便利であり、ターボモードをオンにすると何が起こるかを説明します**。さらに、どのようにターボモードをオンにして設定するのかの手引きも得られます。

ターボモードとは?

ターボモードでは、必要なときにすぐにパフォーマンスを強化することができます。コンピュータをターボモードに切り替えると、現在バックグラウンドで実行されているタスク、プログラム、機能のどれが必ずしも必要でないが分析されます。必ずしも必要でないプログラムは停止または低速にされ、その分得られた処理能力は、ユーザーが実際に作業を行っているプログラムだけに割り当てられます。

ターボモード動作の詳細

以下の図に、コンピュータの内部と現在使用中のプログラム(緑色)、バックグラウンドで実行中のプロセス(青色)を示します。ターボモードをオンにしたときにコンピュータの負荷がどのように軽減されるかがわかります。



緑の円は、ターボモードによってスピードアップしたいプログラムを表します。ブルーダイヤモンドは、ターボモードがオンの時にまったく必要ないプログラムと機能です。それゆえこれらのプログラムと機能は、それらが必要とする全計算能力が使えるように、オフになります。

コンピュータ上では、ユーザーが現在使用しているプログラム(緑色)の他に、ユーザーの作業にとってそれほど重

要でない多数のプログラムがバックグラウンドで実行されています (青色)。バックグラウンドプロセスの中に、コンピュータの能力を過剰に消費するものがあつた場合、他のプログラムがスムーズに続行できるよう、その優先度が下げられます。

ターボ モードをオンにするのはどんな場合

例えばターボ モードを使用して、コンピュータゲームの速度を上げたり、性能を低下させるプログラムへの対処、また動画の再生中に止まったりフリーズすることを防ぐことができます。ただしターボ モードをオンにすることで幾つかの機能はオフになり、それらはターボ モードが再びオフになって初めてまた利用できるようになります。

コンピュータをエコノミー モードに切り替える方法

AVG PC TuneUp スタートセンターの左下に 3 つのスイッチがあります。ターボ モードの右側スイッチこのスイッチをクリックすると、コンピュータがターボ モードに切り替わります。AVGアイコンがタスクバーの通知領域に表示され、ターボ モードがオンであることを知らせます。



また、ターボ モードのスイッチには、タスクバーの通知領域にある **AVG PC TuneUp** アイコンから直接アクセスすることもできます。それには、アイコンを左クリックします。ポップアップウィンドウが開き、右下にターボ モードのスイッチが表示されます。

ターボ モードがオンになっているかどうかを知る方法

ターボ モードがオンになると、タスクバーの通知領域 (右下隅の時刻の隣) にターボ モードがオンになっていることを知らせる **AVG PC TuneUp** アイコンが表示されます。さらに、スタートセンターのスイッチでもそれがわかります。

AVG ターボ モードを設定する方法

ターボ モードを初めてオンにした場合は、**ターボモード設定 ウィザード**が開き、ユーザー個別のターボ モードを作成できます。ウィザードは、**AVG PC TuneUp** の新しい中央設定ダイアログに統合されています。

詳細は、[ターボモードの設定](#)をご覧ください。

3.3.1. ターボ モードの設定

AVG ターボモードを設定するためのウィザードを開始するには、スタートセンターにあるメニューバーの**設定**をクリックし、**ターボモード**エリアを選択して、そこにある**[設定 ウィザードを開く]** ボタンをクリックします。別の方法として、**AVG ターボモード**を設定するためのウィンドウを開くには、AVG スタートセンターに行き、**最適化** カテゴリを選択し、**ターボモードを設定** リンクをクリックします (**システムの負荷を減少させる** エリアにあります)。

ターボ モードが既にオンになっている場合、ウィザードを再度実行する必要はありません。ターボ モード設定を **AVG** の中央設定ダイアログ (ターボ モード項目) で直接変更することができます。適切なボックスをチェックし (もしくはチェックを外し)、**[適用]** をクリックするだけです。

ターボモード設定ウィザードで、個人的なターボモードを6つの簡単なステップで作成するには、ターボモードがオンになっている間パフォーマンス強化のために一時的にオフにしてもよいタスク、プログラム、機能を選択します。オフにする項目が多ければ多いほど、パフォーマンスの強化が顕著になります。ここで提案される機能やタスクはすべて、一時的にオフにしても問題が生じません。インターネットセキュリティのため、あるいはウイルスから保護するためのソフトウェアの機能はオフにされません。

ステップ 1: 自動メンテナンスタスクを延期する

バックグラウンドで自動実行されるメンテナンス措置は、コンピュータを手入れするうえで重要ですが、通常は急を要しません。そのため、メンテナンス措置の実行を延期し、使用中のプログラムのためにリソースを解放することができます。

スケジュールされたデフラグを延期する: このオプションでは、Microsoft やその他大手のメーカーによるスケジュールされたハードディスクのデフラグを、ターボモードがオンである場合に起動させないようにできます。

スケジュールされたメンテナンスタスクを延期する: このオプションでは、Microsoft やその他大手のメーカーによるスケジュールされたメンテナンス措置を、ターボモードがオンである場合に起動させないようにできます。これに該当するのは、**AVG自動メンテナンス**やバックアップの自動作成です。

自動更新を延期する: このオプションでは、ターボモードがオンである場合にもプログラム更新の利用可能性は通知されますが、自動的にダウンロードやインストールはされません。

ステップ 2: 外部デバイスとの接続を制限する

どのコンピュータでも、バックグラウンドでは多数のサービスが働いていて、接続されたデバイスを認識したりそのデバイスの使用に適した機能を提供しています。こういったサービスの数を制限することで、使用中のプログラムのためにリソースを解放することができます。

モバイルデバイスとの同期をオフにする: このオプションでは、ターボモードがオンである場合に、アドレス、メール、音楽ファイルその他は携帯電話やポータブルのメディア再生デバイスと同期されず、それに関するプログラムもデバイスの接続後に自動起動されません。

デジタルカメラやスキャナーのサポートを制限: このオプションでは、ターボモードがオンである場合に、デジタルカメラの画像は取り込みやスキャンができません。

ステップ 3: 視覚効果を削減

視覚効果を利用すると Windows のインターフェイスが洗練された外観になりますが、貴重なメモリが大量に消費されてしまいます。特にビデオカードの性能が高くない場合は、視覚効果をオフにすればコンピュータのパフォーマンスが向上します。

ヒント: これは、ネットブックのユーザーの間で、パフォーマンスを長期的に改善する方法として広く使用されていません。

視覚特殊効果をオフにする: このオプションでは、ターボモードがオンである場合に、ウィンドウの透明効果や影、タスクバー上のウィンドウ縮小ビュー、ウィンドウ間の 3D ナビゲーションはオフになります。

クラシックスタイルのウィンドウデザインに替える: このオプションでは、ターボモードがオンである場合に、ウィンドウ、メニュー、ボタンがクラシックな Windows デザインで表示されます。また、Windows XP ではカラフルな Windows インターフェイスが無効になり、より新しいバージョンの Windows ではタスクバーでのウィンドウ

の透明効果とサムネイルが無効になります。

ステップ4: パフォーマンスが最適になるようコンピュータのリソースを設定する

コンピュータのリソースは、貴重な資源です。リソースの上手な分配は、コンピュータのパフォーマンスの向上に大きく貢献します。

ヒント: この設定は機能に制約を加えるものではないため、継続的な使用をお勧めします。

電力消費を考慮に入れずにパフォーマンスを最適にする: このオプションでは、ターボモードがオンである場合、Windowsの省電力プラン「高パフォーマンス」が使用されます。これは最適なパフォーマンスを目指し、省エネは全く考慮していません。

ステップ5: バックグラウンド機能をオフにする

オペレーションシステムは、大部分のユーザーが認識しているよりはるかに多くのタスクを実行しています。バックグラウンドで、必ずしも必要でない多数のプログラムやサービスが常時実行され、貴重なリソースを消費しています。これら機能が全く必要でない場合は、機能をオフにして、コンピュータのパフォーマンスを長期的に向上させることができます。

ローカルネットワーク上のメディアライブラリの共有をオフにする: このオプションでは、ターボモードがオンである場合、メディアライブラリにある画像、ビデオ、音楽にはアクセスできません。ターボモードは、ネットワーク上のフォルダの共有には影響しません。

インデックス作成によるクイック検索をオフにする: このオプションでは、ターボモードがオンである場合、Windowsがファイルとメールのキーワードインデックスを作成しないようにします。この機能をオフにすると検索はかなり遅くなります。

エラー報告をオフにする: このオプションでは、ターボモードがオンである場合、エラーについてのデータは収集されず、クラッシュしたプログラムやその他のエラーはMicrosoftへ報告されません。

仮想マシンのサポートをオフにする: (このオプションを使用できるのは、仮想マシン用のソフトウェアがコンピュータにインストールされている場合のみです。)このオプションは、ターボモードがオンの場合、仮想マシンを利用するためのバックグラウンド機能が、オフになるようにすることができます。

ステップ6: 追加のパフォーマンス強化を付与する

Windowsがアップロードされるたび、ごくたまに、あるいは全く使われないサービスも起動します。このようなサービスは大きなシステムリソースを必要とし、PCを低速化します。このようなサービスが必要になったときに機能しなくなるのを防ぐため、パフォーマンス強化を追加するために、一時的にオフにすることもできます。

ほとんど必要ないサービスをオフにする: このオプションでは、ターボモードがオンである場合、特殊な環境(社内ネットワークなど)あるいは特殊な状況(新しいプログラムのインストールなど)でしか必要でないサービスはオフになります。

特殊な暗号化サービスをオフにする: このオプションでは、ターボモードがオンである場合、ドメインへのログオンのサービスはオフになります。

ネットワーク通信サービスをオフにする: このオプションでは、ターボモードがオンである場合、ファックスやピアツーピアサービスのようなめったにしか使わないネットワーク通信サービスはオフになります。

ステップ7: ターボ モードをオンにしておく時間

ターボ モードは、コンピュータのシャットダウン時に自動的にオフにするか、または手動でオフにするまでオンのままにすることができます。ターボモードを長い間 オンのままにしておくと、起動プロセスが速くなることもあります。

ただし、システムのパフォーマンスを向上させるために、設定 ウィザードで選択した機能をオフにすることを検討してください。ターボ モードをオンにしているときに、必要な機能が実行されない場合は、ターボ モードをオフにして設定を変更し、もう一度ターボ モードをオンにしたとき、その機能がまた利用できるようにします。

終了 [をクリック](#)してウィザードを閉じます。

4. フライトモード

この機能はノート型パソコン上でのみ有効で、それ以外ではセクション全体がグレーで表示されます。

フライトモードスイッチは、ノートパソコン上のネットワークアクティビティを部分的にオフにすることができます。詳細は次の通りです:

- *Wifi* - 電子デバイスがデータの交換をできるようにする、またはインターネットに電波を使用してワイヤレスに接続できるようにする技術です。
- *Bluetooth* - 短波長無線を使用して短距離間のデータ通信を行うワイヤレス技術規格です。

この機能を初めて使用される際は、**フライトモード**を本当にアクティベートするかどうかを尋ねるダイアログが表示されます。しかし、このメッセージは次回から表示しないように選択できます (該当するチェックボックスにチェックすることで行えます)。

5. 最適化の可能性

最適化の可能性は最適化の進行状態を示すユーザーのためのインジケータです。これはPC モードエリアの横にあるAVG PC TuneUp スタートセンターで見ることができます。

最適化の可能性とは？

最適化の可能性は、グラフや関連の通知を使用して、AVG PC TuneUpのオプションをすでにどのくらい使用しているかを明らかにすることで、パフォーマンスを向上させ、システムをメンテナンスし、システムを最適化できる可能性がどこにあるかを示します。

最適化の可能性は、すでに完了した最適化の詳細と最適化可能な領域の可能性を示すだけでなく、残されている未使用部分の可能性を認識して利用するための手助けを行います。

グラフ

グラフでは、左の青いセクションがこれまでに実施した最適化に使用したモジュールを示し、右の薄いグレーのセクションは未だ行っていない最適化の可能性を表しています。メッセージがグラフの各セクションに割り当てられます：青いセクションのメッセージは純粹に情報として提供されており、実行済みの最適化について通知します。グレーのセクションにあるメッセージは、実施できる最適化の可能性を示す、よりインタラクティブなメッセージであり、ユーザーが問題に直接アクセスしてすくに対処できるものです。

メッセージ

グラフの下には、すでに実行済みの最適化とこれまでまだ利用されていない可能性についての最新メッセージがあります。いずれかのセクションにマウスのカーソルを動かすと、対応するメッセージが表示されます。セクションに未使用の可能性が含まれる場合、いくつかのボタン（[今すぐスキャン]、[今すぐ解決]、[詳細を表示] など）が使用できるようになり、それらをクリックすることで、未使用の可能性を利用するために使用できる適切なAVG PC TuneUp モジュールが開きます。

システムが今日は完璧に最適化されていても、例えば新しいプログラムのインストールやシステム設定の変更などで明日にはまた少し変わることもあり、最適化の可能性はあります。長期にわたってシステムを最適な状態に保ち、良好な最適化の可能性を維持するため、未使用の可能性についてのメッセージには注意しましょう。

最適化の可能性算出の際に考慮されるものとは？

AVG PC TuneUpは、システムにどのような最適化を実行できるかを分析します。その可能性はグラフを通して表示され、システムが100%最適化からまだどれだけ距離があるかを示しています。可能な限り推奨される最適化の可能性をすべて実施し、最適化の可能性が100%完璧に達成されると、完全なグラフとなります。

グラフは異なるセクションから構成されています。左側のセクション（ブルーで表示）は既に実行された最適化を示し、右側のセクション（グレーで表示）は、最適化の可能性を示しています。最適化の可能性は次のセクションの分析結果に基づいて計算されます。

メンテナンス

このセクションが最適化済みとみなされるには、以下の条件が満たされなければなりません：

- 自動メンテナンスでは必要なすべてのメンテナンスタスクが有効であるか、
- AVG ワンクリックメンテナンスでは必要なすべてのメンテナンスタスクが、使用日数14日以内に

実行されるか

- AVG Registry Cleaner およびAVG Shortcut Cleanerは 14 日以内に実行され、一時ファイルは最大 14 日間の使用で削除されます。

一時ファイルを削除するには、スタートセンターで**クリーンアップ**カテゴリを開きます。ここで、**Windows とプログラムを整理する**ダイアログ (**ディスク領域を開放して利用データを削除する**エリアにあります) を開きます。その後 **一時的な Windows ファイル** セクションのすべてのボックスにチェックを入れ、**[クリーンアップ]** ボタンをクリックします。

ライブ最適化

このセクションを最適化済みとみなすには、**ライブ最適化**の両方のオプションを有効にします。その際両方のオプションの重きは同等におかれます。

PC パフォーマンス

システムに対する適切な推奨事項を入手するには、ユーザーのプロファイルに関する質問に答える必要があるのでご注意ください。

このセクションを最適化済みとみなすには、以下の条件が満たされている必要があります：

- すべての推奨事項を適用した、あるいは非表示にした。

30日間非表示にした推奨事項は、期間終了後にふさわしいステータスの新規格付けを行ない、推奨事項を新たに表示する。

PC ヘルス

このセクションを最適化済みとみなすには、以下の条件が満たされている必要があります：

- すべての問題を修正した、あるいは非表示にした。

30日間非表示にした問題は、期間終了後、ふさわしいステータスの新規格付けを行ない、問題を新たに表示する。

プログラムを無効にする

最適化の可能性は存在するプログラムがメモリなどのシステムリソースをどれくらい使用しているかを分析して、**AVG Program Deactivator**または**AVG StartUp Manager**による最適化を推奨します。その際最適化の可能性は、システムの負荷になっているにもかかわらず多くのプログラムがユーザーに重要と格付けされており、有効のままにしておくべきことを考慮に入れます。それゆえ、グラフのこのセクションは、無効化のある特定の比率にしたがって、最適化済みとみなされます。

6. メニューバー

メニューバーでは **AVG PC TuneUp** の中央設定ダイアログやこのプログラムと個々のモジュールについての情報にアクセスできます。

[設定]メニュー

設定 をクリックすると **AVG PC TuneUp** の中央設定ダイアログに移動します。ここでは、プログラムを必要に応じて調整し、メンテナンス設定を適用し、**AVG ライブ最適化**、**AVG ターボモード**、**AVG PC TuneUp**の更新確認とその他多数のモジュールを設定することができます。

[ヘルプとサポート]メニュー

ヘルプとサポート メニューではこのプログラム ヘルプへのアクセスができます。また、リンクを使ってそこから直接 **AVG** ウェブサイトに移動することもできます。**情報** を入力すると、ウィンドウが開き、**AVG PC TuneUp** の詳しいバージョン情報が表示されます。バージョン情報は、技術サポートと連絡を取る際に必要です。**更新の確認** をクリックすると **AVG Update Wizard** モジュールが起動し、**AVG PC TuneUp** に新しい更新があるかどうかをチェックします。

7. ダッシュボード

ダッシュボード カテゴリで、AVG PC TuneUpが提供する3つの重要な機能領域の現在のステータスが表示されます。警告あるいは推奨事項がある場合は、対応しているボタンから、すぐに警告されている問題に対処したり、あるいは推奨事項を見ることができます。4番目の領域ではAVG Rescue Centerの保護がいつでも変更を元に戻せるよう有効になっているかどうかを見ることができます。



メンテナンス

メンテナンス領域のステータスは、コンピュータがどのくらいの頻度でメンテナンスされているかを表示します。ここでは、自動メンテナンスが大事なメンテナンスタスクを含めて定期的に行われているか、あるいはここ数日以内にワンクリックメンテナンスが手動で実行されたかが考慮されます。

ステータスインジケータの下に今すぐスキャンボタンがあります。それをクリックすると、ワンクリックメンテナンスが、AVG PC TuneUpのデフォルト設定、あるいはユーザーが変更したメンテナンス設定で実施されます。

今すぐスキャンの隣にあるギアウィールボタンをクリックすると、中央設定ダイアログが開き、そこで鼓動メンテナンスおよびワンクリックメンテナンスによって実行されるメンテナンスタスクを指定できます。自動メンテナンスを実行するタイミングを指定することができます。

詳細は、[システムの管理](#)をご覧ください。

PC パフォーマンス

PC パフォーマンス領域のステータスフィールドでは、AVG PC TuneUpがコンピュータのパフォーマンス向上の可能

性を見つけたかどうかを表示します。たとえば、インターネットの接続速度を上げるための推奨事項や、長期間使用していないプログラムのアンインストールまたはハードウェアのアップグレードといった提案が表示されます。

個人的にあわせたパフォーマンス推奨事項からユーザーが益を得るためには、まずユーザーはそのプロファイルについて2、3の質問に答える必要があります。このダイアログをトリガするには、**今すぐスキャン**ボタンをクリックし（初回にPCパフォーマンステストを実行しない場合は、**今すぐスキャン**ボタンの隣にある**ギア**ウィールボタンを使用します。）

推奨事項がある場合は、**詳細を表示**か、推奨事項へのリンクをクリックして詳細を見ることができます。各推奨事項の詳細な説明が表示され、ほとんどの推奨事項はクリック1つで実行できます。さらに、個々の推奨事項を非表示にすることもできます。すべての推奨事項が実行されたか、非表示にされた時点で、その領域のステータスが再び緑色になります。

詳細は、[パフォーマンスの向上](#)をご覧ください。

PCヘルス

PCヘルス領域のステータスは、コンピュータが良好な状態にあるかどうか、システムの状態に悪影響があるような重大な問題が検出されたかどうかを示します。たとえば、Windowsの重要な設定が正しく設定されているか、システムドライブに十分な空き領域があるか、重要なセキュリティプログラムがインストールされているかが検査されます。

問題が見つかった場合は、**問題の修正**をクリックします。各問題の説明が表示され、問題をすくに解決するか、非表示にしておくかを決定できます。すべての問題が解決されるか、非表示にされた時点で、その領域のステータスが再び緑色になります。

詳細は、[問題の修正](#)をご覧ください。

Rescue Center

Rescue Centerの右端に、AVG Rescue Centerの現在のステータスが表示されます。**変更を元に戻す**をクリックするだけで、AVG PC TuneUpによって実行された変更をいつでも元に戻すことができます。

AVG Rescue Center モジュールは、AVG PC TuneUpを使用したユーザーによるシステムへの変更を観察し、後にそれらの変更を復元できるようにします。復元ポイントの管理にはAVG Rescue Centerを使用することもでき、AVG PC TuneUpを使用しなかったシステムの変更も復元することが可能です。

変更を元に戻すボタンの隣にある**ギア**ウィールボタンをクリックすると、中央設定ダイアログが開き、AVG Rescue Centerによって保護されるモジュールを指定でき、さらに保存されているバックアップの数および削除の頻度を指定できます。

詳細は、[変更を元に戻す](#)をご覧ください。

7.1. システムのメンテナンス

この章では、システムが素早く確実に動作できるように、**ワンクリックメンテナンス**または**自動メンテナンス**が、システムのパフォーマンスが最適化された状態およびコンピュータがクリーンな状態をどのように維持するのについて説明します。

7.1.1. ワンクリック メンテナンス

ワンクリック メンテナンス は、メンテナンスの実行時刻を自分で決め、メンテナンスの進行状況を確認したいというユーザーに適しています。1-Click Maintenance の開始のリンクは、スタートセンターのメンテナンスカテゴリにあるステータスフィールドにあります。ワンクリック メンテナンスを実行した後、さらに見つけた問題の詳細が表示されます。

デフォルトでは、次のタスクがワンクリック メンテナンスで実行されます：

- レジストリをクリーンアップします

時間が経つにつれて、中心の Windows レジストリは不要なエントリでいっぱいになります。不要なエントリとは、存在しないファイルへの参照、以前に削除されたプログラムの残り、誤ったエントリなどです。レジストリをクリーンアップすることで、Windows を迅速かつ安定した状態に維持できます。

- レジストリをデフラグ

上記のクリーンアップが行われた後でも、レジストリは自動的に縮小するわけではありません。なぜなら、クリーンアップによって空になったディスク領域も、すぐには使用可能な状態にならないからです。デフラグにより初めて隙間がなくなり、レジストリが縮小されます。

- 破損したショートカットを削除

ワンクリック メンテナンスは、デスクトップ、スタートメニュー、クイック起動バーに壊れたショートカットがないかどうかチェックし、それを全自動で削除します。同時に、Windows Media Player や Microsoft Office といった各種プログラムの履歴リストに壊れたエントリがないことを調べます。

- 不要なファイルを削除してディスク領域を解放

いわゆる一時ファイルは困りものです。Windows とプログラムはハードディスク上に一時ファイルを作成し、特定の設定やデータを一時保管します。プログラムが終了するたびに、本来はこれらのファイルはプログラムから削除するべきです。しかし各プログラムは後片付けをよく忘れるため、ハードディスクには長い間にデータのごみが溜まります。ワンクリック メンテナンスは、ハードディスク上の一時ファイルと一時フォルダをすべて確実に削除します。

- ブラウザをクリーンアップ

インターネットの閲覧中に、インターネット ブラウザは多数のさまざまなデータをコンピュータに保存します。ワンクリック メンテナンスはブラウザのキャッシュとダウンロード履歴をクリーンアップします。

- システムの起動 とシャットダウンを最適化

システムが起動するたびに実行されるプログラムの中には、コンピュータの起動速度を無駄に低下させるものがあります。その中でも不要なことが確実にあるものがオフにされます。

- ハードディスクをデフラグ

AVG PC TuneUp は読み込みが早くなるように、ファイルとフォルダの配置をバックグラウンドで変更します。最適化は定期的に行う必要があります。ハードディスクのデータ構造が頻繁に変更される(たとえば、ファイルの移動と削除や新しいプログラムのインストールによって) 場合は特にそうです。ただしデフラグは、必要な場合のみ実行されます。さらに - 必要性が検出された場合 - 徹底的なデフラグとクイック デフラグのどちらを実行するか、また、それを分析結果に応じて決定するかどうか指定できます。

ソリッドステートドライブ(SSD)がAVG PC TuneUpによって検出されました。デフラグによるSSDドライブの最適化は不可能で、それによって損傷することがあるため、SSDは分析もデフラグもされません。

7.1.2. 自動メンテナンス

自動メンテナンスは、コンピュータのメンテナンスの心配をしたくないというユーザーに便利です。名前のおり自動メンテナンスは完全自動で定期的にシステムの重要なメンテナンスタスクを行ない、Windowsを迅速かつ安定した状態に保ちます。

自動メンテナンス機能も、すべてのメンテナンスタスクを実行できるように設定されています。ただし、自動メンテナンスはバックグラウンドで実行されるので、バルーンによる通知が表示されて初めて、実行されたことがわかります。

メンテナンスの実行

自動メンテナンスについては、バックグラウンドで全く自動的に実行するかどうか、またいつ実行するかを指定することができます。特別なのは、アイドル時にのみ実行させることもできることです。つまりメンテナンスは、コンピュータで作業しておらず、プログラムがバックグラウンドで必要でないときのみ起動します。そのため、自動メンテナンスのために作業を中断する必要がありません。このオプションを選択すると、指定した日数を経た後に、コンピュータがアイドル状態になり次第、メンテナンスが実行されます。標準では3日が選択されています。

コンピュータに十分アイドル時間がなくて、1週間が過ぎてもメンテナンスを完全に行うことができなかつた場合は、強制的にメンテナンスが行われます(このオプションを有効にしてある場合)。これにより、コンピュータが長期にわたってメンテナンスされない事態を避けることができます。

スケジュールに従ったメンテナンスの実行を選択した場合も同様です。メンテナンスが予定されている日時にコンピュータが起動していない場合は、次の起動から5分後に自動メンテナンスが実行されます。このオプションも無効にすることができます。

ポータブルのコンピュータで作業している場合は、バッテリーの駆動時間をむやみに短くしないよう、もう一つオプションを指定して、バッテリー使用の時にはメンテナンスを行わないようにすることができます。このオプションは既定では有効になっています。

7.1.3. メンテナンス設定を変更する

スタートセンターで、ダッシュボードカテゴリのメンテナンスエリアでギアウィールボタンをクリックします。AVG PC TuneUp 中央設定ダイアログは、自動メンテナンスおよびワンクリックメンテナンスの各領域を伴って、開きます。ここでそれぞれの設定を行います。

代わりに、中央設定ダイアログのウィンドウを開くもう一つの方法は、スタートセンターのすべての機能よりAVG PC TuneUpの項目で設定を選択します。あるいは、スタートセンターでメニューバーの設定をクリックし、領域の自動メンテナンスあるいはワンクリックメンテナンスを選択します。

AVG PC TuneUpはコンピュータの総合的なメンテナンスを行うことを目指しているため、自動メンテナンスとワンクリックメンテナンスのどちらも、メンテナンスタスクがデフォルトで有効になっています。特定のメンテナンスタスクを実行したくない場合は、そのタスクをメンテナンス対象から除外することができます。たとえばハードディスクのデフラグを別に行いたい場合は、ハードディスクをデフラグのチェックボックスをオフにします。

7.2. パフォーマンスの向上

この章では、**パフォーマンスを向上させる**を使用して不必要なタスクやサービスをオフにすることで、どのようにシステムのパフォーマンス向上を実現できるのか、またそれを行う重要性について説明します。

システムのパフォーマンスは、バックグラウンドで実行されていて、日常めったに使わない、あるいは全く必要でないタスクやサービスをオフにすることによって、向上します。タブレット PC との互換性（つまり コンピュータを画面からペンで操作する可能性）のため、あるいはネットワークサーバーのためのテクノロジー。さらに、プログラムをアンインストールすることで、コンピュータのパフォーマンスは向上させることができます。それゆえ、忘れてしまうほど長いこと使用していないプログラムや、システムを無用に低下させているプログラムを探し出します。**AVG PC TuneUp** は、コンピュータのハードウェアがパフォーマンス不足である場合も認識します。

インターネットの設定 が原因で、インターネット接続の通信速度や処理能力が最適な状態で活用できないことがあります。同時に並行してダウンロードやインターネットサイトの転送をすると、Windows の基本設定により低速になります。この領域でも、最適化の可能性が表示されます。

コンピュータが不必要な **ビジュアルエフェクト** のせいで、低速になった場合には表示されます。

AVG PC TuneUp は、コンピュータ上でそのようなパフォーマンス低下の原因を検出し、パフォーマンスを改善するための推奨事項を表示します。

AVG PC TuneUp が総合的な推奨事項を提示できるように、初めてソフトウェアを起動する前にプロフィールへの入力を行う必要があります。プロフィールの入力後、高速かつ簡単なパフォーマンスの改善が可能になります。

これはスタートセンターの **ダッシュボード** カテゴリで、**PC パフォーマンスを向上させる** のステータスフィールドから推奨事項があるかどうかを知ることができます。推奨事項を非表示にした場合は、推奨事項があってもステータスが変わりません。詳細ウィンドウを開くには、**詳細を表示** ボタンをクリックします。

このウィンドウを初めて開いた時には、まずプロフィール ウィザードによる簡単な質問に答える必要があります。それにより、最適化をユーザーのニーズや状況にカスタマイズすることができます。プロフィール情報を変更または更新する場合、**ギア** ウィールボタンをクリックします（今すぐスキャン/詳細を表示 ボタンのすぐ隣にあります）。詳細は、[プロフィール](#) をご覧ください。

概要

タブの **概要** で詳細ウィンドウが開き、そこでチェックした領域にパフォーマンス向上の可能性があるかどうかわかります。**インターネットの設定** と **視覚効果** の領域では、**すべて最適化** のボタンをクリックし、最適化の推奨事項をすべてまとめて実行することができます。その際、ユーザーにとって重要な機能は制限を受けません。

それに対し **ハードウェアとソフトウェア** の領域では、推奨事項はユーザーの使用の仕方に強く関わっています。この理由から、個別にし適用できません。

タブの切り替え

推奨事項の1つをクリックするか、**詳細** のボタンをクリックすると、別のタブに切り替わり、各推奨事項の詳細が表示されます。もう一つの方法として、タブの名前をクリックすることもできます。

推奨事項を実行

インターネットの設定 と **視覚効果** のタブでは、**すべて最適化** のボタンをクリックし、最適化の推奨事項をすべ

てまとめて実行することができます。また、左側の列にある推奨事項をクリックする方法もあります。ウインドウの右側に詳しい説明が開き、右下にあるボタンをクリックすると、推奨事項が適用されます。

ハードウェアとソフトウェアタブでは、各推奨事項について簡単な質問に答えると、続行に見合った可能性が表示されます。答えられない質問があるときや、決定を延期したいときは、その推奨事項を非表示にでき、それには右下にある **推奨事項を非表示** のボタンをクリックします。

ハードウェアに関連する推奨事項は、もちろん簡単に適用できないので、適用しないときは非表示にします。

推奨事項の表示と非表示

推奨事項を適用したくない場合は、**推奨事項を非表示** をクリックします。その後ずっと非表示にするか、30日間だけ非表示にするかを指定します。非表示にした推奨事項の数は、常に下部バーの右側に表示されます。この表示を1クリックするだけで、推奨事項を再び表示することができます。

プロフィールを変更

右上にある **プロフィールを変更** ボタンをクリックすると、最適化の推奨事項の基礎となるプロフィールが開きます。

7.2.1. プロフィール

最初に **AVG PC TuneUp** を使用するとき、プロフィールの入力が求められます。これにより、ユーザーに合わせたパフォーマンスを向上させるための推奨事項が表示されます。プロフィールには、以下の質問が含まれます：

通常 どのようにコンピュータをインターネットに接続していますか？

インターネット接続の種類をリストから選択してください。それによりネットワークやインターネット、ブラウザの設定（パケットサイズなど）をインターネット回線に最適になるよう調整されます。

ビジュアルエフェクトを最適化するための条件とは？

最大のパフォーマンス（表示品質とは関連なし）を選択すると、すべての効果とカラフルな Luna のテーマ（Windows XP）、または Aero ガラスのテーマ（Windows の最近のバージョン）は無効になります。パフォーマンスが低下したコンピュータでは特に、これを選択することを強くお勧めします。精巧なインターフェイスを表示すると、処理能力が大幅に下がるからです。

コンピュータの画面が少し揺れたり、ウインドウの表示が遅い場合は、まず **バランスの取れたパフォーマンスとデザイン** に設定します。このオプションでは、しゃれたインターフェイスは維持されますが、出力を多く必要とする効果はオフになります。

高性能なビデオカードが搭載されたシステムでは、Windows Aero をオフにしてもパフォーマンスは上がりません。

使用されていないプログラムは何日が経過した時点で削除対象の候補としますか？

コンピュータ上で長い間使われていないプログラムを検出し、それらがコンピュータを無用に低速化させないようにアンインストールの推奨とともに表示されます。ここでユーザーの使用行動に従って、使用していないプログラムを何日後に不要なプログラムとみなしアンインストール推奨に表示すべきかを入力します。

プロフィールを変更

スタートセンターのダッシュボードカテゴリにある**PC パフォーマンス**より **ギア ウィール** ボタンをクリックすることで、(**詳細を表示** ボタンの隣にあります)プロファイルの設定を後から変更することが可能です。

また、パフォーマンスを向上させる - 詳細のウィンドウで**プロファイルを変更**のボタンをクリックする方法もあります。

プロファイルは、すべての項目を入力しないと承認されません。

7.3. 問題の修正

この章では、どのように**問題の修正 - 詳細**機能を使ってシステムの状態を悪化させている問題を修正するか、そしてなぜそれが有用なのかを説明します

システムの状態に影響を及ぼす問題があるかどうかを明らかにするには、**ダッシュボード**カテゴリのスタートセンターから、**PC ヘルスステータス**フィールドをみてください。

たとえば、Windows の重要な設定が正しく設定されているか、システムドライブに十分な空き領域があるか、重要なセキュリティプログラムがインストールされているか、新しいWindows の更新プログラムあるかどうか点が点検されます。問題を非表示にした場合は、問題があってもステータスは変わりません。詳細ウィンドウを開くには、**詳細を表示**をクリックします。

概要

詳細ウィンドウに見つかった問題が表示されます。リストから問題を選択すると、詳細パネルに問題の簡単な説明と解決法の提案が表示されます。

問題の修正

検出された各問題に対し、それをすく解決するか、あるいは非表示にしたいかを決めることができます。最も簡単に問題を修正するには、提案された解決法のリンクをクリックします。

問題を非表示にする

どしあえず問題を修正したくない場合は、**問題を非表示**をクリックします。その後ずっと非表示にするか、30 日間だけ非表示にするかを指定します。

7.4. システム保護

本章では、**AVG Rescue Center** モジュールを使用して、**AVG PC TuneUp**で行われた変更を元に戻す方法を説明します。**AVG Rescue Center**を使って、システムの復元、すなわち**AVG PC TuneUp**を使わずに行った変更を元に戻すことができます。

システムの復元

AVG Rescue Center は、**AVG PC TuneUp** だけでなく他のアプリケーションで行った変更も取り消すことが可能です。**AVG Rescue Center** は、Windows システムの復元機能との組み込みが可能です。

Windows は定期的に復元ポイントを作成します。システムの調子がおかしくなった場合は、いつでもこの復元ポイントのうちの 1 つに戻れます。するとその時のシステムの状態が復元され、それ以後に加えられた変更はすべて無効となります。

AVG Rescue Center はどこにありますか？

AVG Rescue Center は、常にすぐに使用可能です。AVG Rescue Centerにアクセスするには、スタートセンター (Rescue Center 領域) の **ダッシュボード** カテゴリにある **変更を元に戻す** ボタンをクリックします。ボタンは各モジュールにあります。

7.4.1. 変更を元に戻す

AVG Rescue Centerモジュールを起動するには、スタートセンター (Rescue Center 領域) の **ダッシュボード** カテゴリにある **変更を元に戻す** ボタンをクリックします。

モジュールを開くもう一つの方法は、スタートセンターの**すべての機能** から、AVG PC TuneUpの**変更を元に戻す**を選択します。

AVG Rescue Centerは右側の欄に、モジュールあるいは日付別に並んだ、保存されているすべてのバックアップのリストが表示されます。それぞれに、変更された設定数、変更日時、変更によって解放されたディスク領域も挙げてあります。

詳細を表示

詳細のボタンをクリックすると、実行された変更の詳細なログが表示されます。このログは、見ることはできません。選択した変更のみを元に戻すことはできません。そのため、誤って削除してしまったファイルを1つ復元したいがために、多数の不要なファイルを同時に復元しなければならないこともあります。

削除

バックアップが必要ないことが確実である場合、このボタンを使用して完全に削除することができます。

復元

このボタンは、システムの状態を選択したバックアップ以前の状態に戻します。

7.4.2. システムの復元

Start the AVG Rescue Centerモジュールを起動するには、スタートセンターの **ダッシュボード** カテゴリにある **変更を元に戻す** ボタンをクリックします。(Rescue Center 領域)

モジュールを開くもう一つの方法は、スタートセンターの**すべての機能** から、AVG PC TuneUpの**変更を元に戻す**を選択します。

システムの復元 をクリックします。

AVG Rescue Centerの右側の列に、保存されているすべてのバックアップが表示され、各バックアップの変更日時があります。

バックアップの作成

このボタンは、システム復元ポイントを作成します。復元ポイントに、システムの状態を後で判別できるような名前を付けてください。

システム復元ポイントには、設定ファイルやシステムファイルの状態が保存されるので、システムの深いレベルに影響を与える変更（たとえばプログラムのインストールなど）を行う前に、必ず復元ポイントを作成することをお勧めします。そうすれば、インストール時に何かトラブルが生じた後、その後コンピュータがいつものように動作しなくなった場合、システムをいつでもオリジナルの状態に戻すことができます。

システム復元ポイントには、設定ファイルやシステムファイルの状態が保存されるので、システムの深いレベルに影響を与える変更（たとえばプログラムのインストールなど）を行う前に、必ず復元ポイントを作成することをお勧めします。そうすれば、インストール時に何かトラブルが生じた後、その後コンピュータがいつものように動作しなくなった場合、システムをいつでもオリジナルの状態に戻すことができます。

削除

バックアップが必要ないことが確実である場合、このボタンを使用して完全に削除することができます。

復元

このボタンは、システムの状態を、選択したバックアップ以前の状態に戻します。それには、システムの再起動が必要です。

この機能は、システムに変更を加えた後でコンピュータが正常に動作しなくなった場合に役立ちます。

まず、元に戻すシステム変更の数を最小に抑えるため、最新の復元ポイントを選択します。

7.4.3. 設定の変更

AVG Rescue Centerの設定を変更することができます。AVG Rescue Centerで、設定ボタンをクリックします。

また、ブート画面から設定にアクセスする方法もあります。[メニューバー](#)で、設定をクリックし、Rescue Center 保護項目（新たにトリガされた設定ダイアログの左側のリスト）をクリックします。

Rescue Center 保護

各 AVG PC TuneUp モジュールは、標準でAVG Rescue Centerにより保護されています。この関連チェックボックスのチェックを外すと、各モジュールへのサポートを無効にできます。

バックアップ

ここではAVG Rescue Centerの個々のバックアップを保存する期間を指定します。既定では、バックアップは2週間後に自動的に削除され、最大 60 のバックアップが保存されます。

ディスク領域を節約したいという理由でAVG Rescue Center 保護を過度に制限しないでください。この保護機能は問題が生じた際の最終的な復旧手段としてとても有用で、通常ハードディスクのディスク領域を多少節約するよりも重要です。

8. 最適化

コンピュータはときどき、思うように機能しないことがあります。ときたま個々のプログラムあるいはファイルのメモリの呼出しには永遠と思えるほどの時間がかかることがあります。コンピュータの能力を疑いたくなります。しかしハードウェアのせいではないことがよくあります。問題は、ユーザーが気が付かないうちに起動しているプログラム、あるいはアンインストールの際にコンピュータから完全に削除されなかったプログラムの残骸です。

システムへの変更はすべてAVG Rescue Centerによって監視されており、必要に応じて変更を取り消すことも可能です。



システムの負荷の減少

システムの負荷を減少させるの領域は、インストール済みのプログラムとサービスの処理に充てられています。その際、実際のプログラムに全く影響を与えないで、スタートアッププログラムを無効にする可能性は、個々のプログラムの手動アンインストールから、機能領域全体を自動的にオフにすることまでに渡っています。しかしそれだけではありません！この領域では、今までになかった機能へのリンクもあります。これまでに、アンインストールに代わる優れた方法はあったでしょうか。それが**AVG Programs-on-Demand Technology™**を使用するモジュール、**AVG Program Deactivator**を使用することによって実現します。

詳細は、[システムの負荷の減少](#)をご覧ください。

レジストリとパフォーマンスの最適化

プログラムを無効にする、あるいはアンインストールすることは、システムパフォーマンスを最適化する際の重要なポイントです。しかし、場合によってはこれらすべてはあまり役に立ちません。これは、Windows システムが、いまだ満

杯の「古い重荷」、つまりずっと以前にアンインストールしたが十分に除去されていないプログラムの残骸を隠し持っている場合です。当社のクリーンアッププログラムを利用すれば、本当に必要な項目だけをコンピュータに残し、システムの項目とデータをインテリジェントに整頓して、クリーンアップを完了し、こうしてプログラムとファイルの迅速な実行を可能にできます。

詳細は、[レジストリとパフォーマンスの最適化](#)をご覧ください。

8.1. システムの負荷の減少

プログラムを無効にする

AVG Program Deactivatorモジュールは、システムにインストールされているプログラムが、様々な時点で(システム起動時、動作中、シャットダウン時)、システムパフォーマンスにどれだけ重い負荷をかけているかを表示します。新しいAVG Programs-on-Demand Technology™のおかげで、パフォーマンスを奪うものを簡単に無効にでき、もはやすくさまアンインストールする必要はありません。後になってそのプログラムがまた必要になったときのために、それをコンピュータに保ったままにできます。

詳細は、[プログラムを無効にする](#)をご覧ください。

スタートアッププログラムを無効にする

AVG StartUp Managerモジュールは、システム起動の際にコンピュータで自動的に実行されるプログラムについて、推奨事項や追加情報を表示します。プログラムごとに自動実行をオフにし、コンピュータの起動を大幅に高速化することができます。

詳細は、[スタートアッププログラムを無効にする](#)をご覧ください。

プログラムをアンインストールする

AVG Uninstall Managerモジュールは、コンピュータにインストールされているすべてのプログラムを詳細情報と共に表示します。たとえば、使用頻度の低いプログラムを見つけ、必要に応じてアンインストールすることができます。それにより、コンピュータを整理し、ディスク領域を解放してシステムパフォーマンスを改善することができます。

詳細は、[プログラムを表示/アンインストールする](#)をご覧ください。

プログラムの評価機能

前述のこれら3つのモジュールには、便利な**プログラムの評価機能**が含まれています。多数のAVG PC TuneUpユーザーの経験に基づいて、どのプログラムが他のユーザーに有用と格付けされているかを表示できるので、どのスタートアッププログラムを無効にし、どのプログラムを無効化あるいはアンインストールするかを決定するのに役立ちます。

ライブ最適化を設定

AVGライブ最適化は、2つのインテリジェントな最適化措置から構成されており、コンピュータの使用状況をリアルタイムで監視し、必要に応じて低速化を防ぐ措置を講じます。どちらもシステムをスピードアップするのに役立ち、一方はプログラムの起動を、もう一方はコンピュータの応答速度を高速化します。

これは、実行中のプログラムをインテリジェントに優先付けすることで生じます。コンピュータの負荷が大きい状況でプログラムを起動すると、そのプログラムは、すばやく起動できるように一時的に最優先されます。あるバックグラウ

ンドプログラムが一旦度を越し、特にコンピュータの能力を過剰に要求すると、いま使用中のプログラムがスムーズに続行できるよう、その優先度が下げられます。それにより、コンピュータの使用率が高い場合でもスムーズな作業が可能となります。

エコノミー モードの設定

AVG PC TuneUpによるAVG エコノミーモードは、消費電力を抑えるインテリジェントなモジュールであり、同時にコンピュータのパフォーマンスを向上させることが可能です。AVGエコノミーモードでは必要なときにすぐに省電力に配慮できます。コンピュータをエコノミーモードに切替えると、現在バックグラウンドで実行されているけれども、特に必要ではないハードウェアやタスク、プログラム、機能が消費している電力が低下します。これらは停止かオフになるので、電力消費は明確に低下します。

ターボ モードを設定する

ここで設定ウィザードを開き、自分に合ったターボモードを設定できます。ターボモードがオンである時にどのタスク、プログラム、機能をパフォーマンス増強のために一時的にオフにしてもよいかを選ぶことができます。オフにする項目が多ければ多いほど、パフォーマンスの強化が顕著になります。後になってもう一度その決定を変える場合には、この設定ウィザードにいつでもまたアクセスすることができます。それには、ターボモードスイッチの右隣の小さなスパナ、またはターボモードにあるメニュー設定から到達できます。

詳細は、[ライブ最適化を設定](#)をご覧ください。

8.1.1. プログラムを無効にする

この章では、どのようにAVG Program Deactivatorモジュールを使用して、様々な状況でシステムに負荷を与えるプログラムを無効化するのか、またなぜそれが有用であるのかを説明します。

不要なプログラムをさけるのに、これまでユーザーには2つの選択しかありませんでした：プログラムを丸ごとシステムから削除するか、またはバックグラウンドのプログラムがシステムに負荷をかけるのを黙認するかです。アンインストールの後ではいつでも、そのプログラムに割り当てられているファイルがもう起動できなくなる危険性がありました。プログラムがコンピュータに入ったままだと、いつでも必要なときに利用できますが、システムのパフォーマンスが持続的に低下します。

AVG Program Deactivatorはシステム起動時だけではなく、実行中やシャットダウンの際にも、プログラムに付随するサービスやタスクから生じる、プログラムの負荷を軽減します。

AVG Programs-on-Demand Technology™

AVG Programs-on-Demand Technology™により、さらに3つめの可能性があります：必要がなくなったプログラムをまず無効にし、それらのプログラムなしでも作業に差し支えないかどうか見てみましょう。プログラムがまた必要と分かっても、もう問題はありません。AVG Programs-on-Demand Technology™は、まるで今まで無効になっていなかったかのように、バックグラウンドで再び有効にするので、プログラムをいつも通りに起動できます。改良されたAVG Programs-on-Demand Technology™では、プログラムは使用後に自動的に無効となるため、システムの負荷は常時可能な限り最小限に保たれます。

AVG Program Deactivator の設計

AVG Program Deactivatorは、インストールされたすべてのプログラム、インストールされたプログラムによる負荷、詳細の3つの領域に分かれています。メニューバーに追加されたはじめにボタンで、AVG Program Deactivatorへのスタートガイドをいつでも開くことができます。

インストールされたすべてのプログラム

インストールされたすべてのプログラムの領域には、システムにインストールされたすべてのプログラムとその負荷状態を一覧できるリストがあります。名前の欄にはプログラムが、システムへの負荷 - 高、中、低 - に従って並んでいます。システムに負荷をかけていないプログラムは、ステータスが「なし」で、名前は挙げてありません。負荷の値としては、常に起動時、実行中、シャットダウン時に最も高い値が出てきます。ステータスの欄では、プログラムの現在のステータスが見られます。

インストールされたプログラムによる負荷

インストールされたプログラムによる負荷の領域には3つのグラフがあり、システムの負荷が視覚的によくわかるようになっています。左のグラフがシステム起動時、中央がPCの通常の作業中、右がシャットダウンの際の負荷を表しています。グラフの下にはグラフの凡例と説明があります。リストにあるプログラムが1つ選択されると、それがグラフの隣のプログラム記号の表示で反映されます。

詳細

詳細パネルでは、選択したプログラムの名前、その現在のステータス、プログラムによるシステムの負荷が読み取れます。スイッチを使って、プログラムをそれぞれ有効または無効にすることができます。どのプログラムも選択されない場合は、どれだけの数のプログラムが有効/無効、あるいはシステムに必須か、その一覧が表示されます。複数のプログラムが選択された場合は、詳細パネルに異なるステータスのプログラム数が表示されます。スイッチの隣に表示されたステータスは、優勢であるステータスに合致しています。その隣りの欄では、各プログラムの現在のステータスが見られます。

可能なプログラムステータス

AVG Program Deactivatorには、4つの異なるプログラムステータスがあります。

希望のステータス

希望のステータスの欄には、どのステータスがプログラムのために選択されたかが表示されます。希望のステータスは、スイッチをクリックして変更することができます。

有効

プログラムは完全に有効化され、コンピュータに負荷をかけています。

無効

バックグラウンドで常に行われているプログラムのサービスはオフです。

システムに必須

これは AVG PC TuneUp がセキュリティのため、あるいはシステムの正常な動作のために必須であると格付けしているプログラムであり、これを無効化すると重大な結果を招く可能性があります。そのようなプログラムを変更するのは不可能なので、スイッチはグレー表示になっています。

負荷なし

プログラムはシステムに負荷がかかっていないので、無効にできません。この理由から、スイッチはグレー表示で変更不可です。

現在のステータス

現在のステータスの欄には、右隣にプログラムの現在の各ステータスについての詳細があります。

常時有効

プログラムは完全に機能可能で、今使用されていなくてもシステムには負荷がかかっています。

プログラムの起動まで無効

プログラムは完全に無効になり、手動で再び起動されるまでシステムに負荷はかかりません。その後プログラムはまた無効になります。

アイドルあるいは再起動後に無効

稼働中にはプログラムはオフにできず、次のアイドル時あるいはシステムの再起動時に、**Program Deactivator**が無効化を自動的に実行します。

再起動後に無効

稼働中にはプログラムはオフにできず、次のシステムの再起動時に、**Program Deactivator**が無効化を自動的に実行します。

無効にできません

これは、**Program Deactivator**がセキュリティのため、あるいはシステムの正常な動作のために必須であると格付けしているプログラムで、それを無効化すれば重大な結果を招く可能性があります。それゆえ無効にできません。

システムに負荷がかかりません

プログラムはシステムに負荷がかかっていないので、無効にできません。

設定の変更

設定で**Program Deactivator**のオプション終了後自動的に再び無効にする(推奨)をオフにすると、プログラムは次のようなステータスになります:

現在のステータス

有効

プログラムは完全に機能可能です。

無効

バックグラウンドで常に行われているプログラムのサービスはオフです。

無効化スケジュール済み

可能になり次第、プログラムは自動的に無効になります。

システムに必須

バックグラウンドで常に実行されているプログラムのサービスはオフです。

負荷なし

プログラムはシステムに負荷がかかっていないので、無効にできません。

ステータスの説明

現在のステータスの欄の右隣のステータスの説明に、各プログラムの現在のステータスについての詳細情報が
あります。

プログラムを無効にする方法

AVG Program Deactivator モジュールを起動するには、スタートセンターの最適化から、システムの負荷を減
少させるにあるプログラムを無効にするを選択します。

このモジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターのすべての機能から、インストール済みのプログ
ラムにある無効にするを選択します。

AVG Program Deactivator モジュールは、AVG Programs-on-Demand Technologyを使用しており、システムの
負荷を軽減し、システムパフォーマンスを向上させます。

プログラムを無効にする方法

1. 有効になっているプログラムをリストから一つ選択します。
2. プログラムを無効にするには、ステータス欄あるいは詳細パネルのスイッチで、またはツールバーのボタン
無効にするをクリックします。

プログラムを有効にする方法

1. ステータスが無効になっているプログラムを、リストから一つ選択します。
2. プログラムを有効にするには、ステータス欄あるいは詳細パネルのスイッチで、またはツールバーのボタン
有効にするをクリックします。

複数のプログラムを有効化、あるいは無効化する方法

複数のプログラムを同時に選択すると、おこる動作はステータスが優勢である方に従います。例えば選択
した2つのプログラムが無効で、1つのプログラムが有効だと、プログラムは有効にしかできません。これに対
し、有効なプログラムが2つで無効が1つの場合は、プログラムを無効にしかできません。

操作に引き続いて視覚化の領域の左にウィンドウが現れ、操作の結果を通知します。

Program Deactivator を設定する方法

スタートセンターの右上にメニューバーがあります。設定をクリックすると、AVG PC TuneUp の中央設定ダイアロ
グが開き、モジュールごとのオプションに加え、AVG PC TuneUp の最も重要な設定のリストが表示されます。

左側のProgram DeactivatorをクリックするとAVG Program Deactivatorの設定が開きます。

負荷ポイント

AVG Programs-on-Demand Technology™ はシステムの負荷を内部の点数システムに基づいて計算します。このため、AVG PC TuneUp は、各プログラムのバックグラウンドプログラムを検出します。つまりプログラムの本体と一緒にインストールされて、ユーザーが知らぬ間に絶えず実行され、システムの計算能力を「盗んでいる」プログラムやサービスです。1つのプログラムに対しバックグラウンドプログラムが多ければ多いほど、そのプログラムはコンピュータにより重い負荷をかけます。AVG TuneUp Programs-on-Demand Technology™ は、起動時、実行時、シャットダウン時など異なる時点で実行プログラムの量を計算します。負荷の欄には、この3つで最も高い値が表示されます。

8.1.2. スタートアッププログラムを無効にする

この章では、AVG StartUp Manager モジュールを使って、コンピュータの起動と作業の速度をスピードアップさせる方法となぜその必要があるのかを説明します。

コンピュータのスイッチを入れると、多数のプログラムがバックグラウンドで自動的に実行されます。このスタートアップは、重要な機能やサービス（ウイルススキャンプログラムやサウンドカードの構成コンソールなど）の場合にはとても有用です。

しかし多くの場合、たまにしか必要にならないプログラムや、まったく必要でないプログラムも自動実行されています。

スタートアッププログラムが1つ増えるたびに、一方ではWindowsのシステム起動が遅れ、他方ではバックグラウンドで常時実行されている個々のプログラムが、コンピュータの動作速度を低下させています。さらに、広告を表示してユーザーの作業を妨げるプログラムもあります。

スタートアッププログラムについての詳細

スタートアッププログラムには、インストールの際に[スタート]メニューの中に登録されるものがあり、[スタート]メニューからプログラムを削除するのは簡単です。しかし、大部分のスタートアッププログラムは、直接レジストリに登録されるため、スタートアップフォルダには表示されません。システムの起動時やユーザーのログオン時に、プログラムの自動実行が、スケジュールされたタスクという形で実行されることが多くあります。

AVG StartUp Managerは、スタートコマンドがいかにうまく隠されようと、自動的に起動するすべてのプログラムを見つけることが可能です。また、各スタートアッププログラムについての詳しい説明と自動実行の必要性に関する評価もご覧いただけます。

AVG StartUp Managerは、スタートアッププログラムを有効または無効にできるだけだけでなく、各プログラムについての情報を報告し、自動起動の各項目に対し推奨事項も提示することができます。

自動起動の無効化によってプログラムはアンインストールされるのではなく、単に自動起動を無効にして、コンピュータのシステム起動と作業速度を向上させるのです。

システムの起動を設定する方法

AVG StartUp Manager モジュールを起動するには、スタートセンターにある最適化のシステムの負荷を減少さ

せるにあるスタートアッププログラムを無効にするを選択します。

このモジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターですべての機能のインストール済みのプログラムにあるスタートアッププログラムを無効にするを選択します。

場合によっては、プログラム起動の前にプログラムの評価機能のスタートアップダイアログが現れることがあります。ここでこの機能を有効化するかどうかを決定しOKをクリックします。

AVG StartUp Managerはすべてのスタートアッププログラムのリストを開きます。このモジュールを初めて使用する時は、すべての項目が有効になっています。つまり、システムを起動するたびにこれらのプログラムが自動的にバックグラウンドで実行されます。

AVG StartUp Managerでは、次の機能を選択できます。

プログラムの自動起動を無効にする

これにより、そのプログラムは、次のシステム起動時にバックグラウンドで自動起動されなくなります。それでもリストにその項目は残るので、再び自動起動をいつでも全く簡単に有効にできます。

1. リストからスタートアッププログラムを選択します。
2. 直接、またはツールバーから無効にします。

システム起動の最適化のヒントにもかかわらず、プログラムの自動起動を無効にすべきかどうか判らない場合は、一度にスタートアッププログラムは1つだけ無効にし、コンピュータを再起動して、利用しているプログラムをいつものように起動してください。そうすれば、自動起動が本当に不要であるかどうか判断できます。再起動後にどこか不具合があれば、その項目を再び有効にします。まったく問題がない場合は、次のスタートアッププログラムを無効にしてみます。

プログラムの自動実行を有効にする

これにより、そのプログラムは、システムが起動するたびにバックグラウンドで自動実行されます。その後、自動起動はまたいつでも簡単に無効にすることができます。

1. リストからスタートアッププログラムを選択します。
2. スイッチ、またはツールバーにあるボタンを使って有効にしてください。

スタートアッププログラムを追加する

システムの起動時に自動起動されるプログラムを増やしたいときは、リストにプログラムを追加します。

1. ツールバーの追加ボタンをクリックします。また、右クリックでコンテキストメニューを開き、**プログラムを追加**エントリーをクリックする方法もあります。
2. リストから、システムの起動と同時に自動起動させるプログラムを選択します。該当するプログラムがリストにない場合は、参照をクリックして、開いたリストから選択します。

スタートアッププログラムをリストから削除する

自動実行させたくないプログラムがある場合は、リストから削除することができます。追加をクリックするか、AVG Rescue Centerを使用して、いつでも再びリストに追加することができます。

1. リスト内でスタートアッププログラムを選択します。
2. ツールバーの削除ボタンをクリックします。または、右クリックでコンテキストメニューを開き、削除をクリックする方法もあります。

システム起動を最適化するヒント

スタートアッププログラムとは、コンピュータの起動と同時に自動実行されるプログラムを指します。スタートアッププログラムは、ユーザーがまったく操作を行わない場合でもバックグラウンドで常にアクティブな状態にあり、システムを負荷しています。これは、たとえばウイルススキャンプログラムなどの場合にはとても意味があります。それに対し、その他のスタートアッププログラムにはシステムを無用に負荷しているものもあります。

コンピュータにスイッチを入れた際にバックグラウンドで自動的に起動するプログラムが、少なければ少ないほど、起動のプロセスはより速く完了します。さらに、バックグラウンドに不必要なプログラムがアクティブになっていないとコンピュータはより速く動作します。

AVGここで StartUp Manager はどのように役に立つのでしょうか。

以下の情報を参考にして、それぞれのプログラムをバックグラウンドで自動実行すべきかどうかを決定してください。

評価

大部分のスタートアッププログラムについて、AVG StartUp Managerは、評価を作成し、プログラムの自動起動が必要か、不必要、またはオプションのいずれであるかを表示します。AVG チームがきちんとメンテナンスしているデータベースによって、例えばセキュリティ関連のプログラムはすべて必要なものと評価されます。必要でないスタートアッププログラムは不要と判断されます。そのうえ、誤ってリストに表示されているプログラムも不要とされます。これはたとえば、リストのエントリがアンインストール済みのプログラムを参照している場合などです。

このように分類していくと、多数のプログラムが任意として評価されることになります。任意のプログラムについては、ユーザーが自分のニーズに合わせて決定を下します。詳しくは[オンライン検索](#)あるいは[プログラムの評価機能](#)の説明が役立ちます。

プログラムの評価機能がどのように判断に役立つかという情報は、[プログラムの評価機能](#)をご覧ください。

説明

リスト内でスタートアッププログラムを選択すると、よく編集されたデータベースを元に、そのプログラムの説明が表示されます。ユーザーは、この情報を参考にして決定を下すことができます。

AVG StartUp Managerはあまり普及していないプログラムの場合、認識できないことがあります。その場合は、リンクをクリックして[オンライン検索](#)を開始し、そのプログラムに関する情報を探すことができます。

また、AVGにプログラムの情報を[レポート プログラム](#)リンクを介して送り、今後そのプログラムの説明を表示させることもできます。

評価

有用性の列では、本人もしくは他の **AVG PC TuneUp** ユーザーがこのプログラムの有用性をどう評価しているか、情報を得ることができます。ご自分でまだ評価していなかったら、そのプログラムをここで評価できます。**AVG PC TuneUp** がサーバーデータベースから他のユーザーの評価を呼び出して表示します。これらの評価は定期的かつ自動的に更新されます。

この判断ヘルプを読んでもまだ、プログラムの自動起動を無効にすべきかどうか判らない場合は、一度にスタートアッププログラムを1つだけ無効にし、コンピュータを再起動して、利用しているプログラムをいつものように起動してください。

再起動後に不具合が生じた場合は、スタートアップを再びオンにします。何も問題がない場合は、また次の項目を1つ無効にし、システムの起動をさらに高速にします。

8.1.3. プログラムを表示/アンインストールする

この章では、**AVG Uninstall Manager**を使って、どのようにコンピュータにインストールされたプログラムを表示できるのか、またなぜアンインストールすることが有用なのか、どのようにそれを行うのかを説明します。

コンピュータで作業を行っているとき、時間とともにプログラムがどんどんたまっていきますが、その中には既に不要となっているものも少なくありません。Windows システムをすばやくスムーズに動作させるためには、使用されていないプログラムや不要なプログラムを定期的に削除することが大切です。

プログラムはすべて、コンピュータへのインストール時に Windows システムの奥深くに組み込まれ、完全にアンインストールするまでそこに残ります。プログラムが不要になった場合、それを開くために使っていたデスクトップ上のアイコンやプログラム ファイルを削除するだけでは十分ではありません。

大部分のプログラムは、ハードディスク上の複数の場所にファイルを分配して保存し、Windows レジストリにもエントリを残します。

AVG Uninstall Managerを使用すれば、使用頻度の低いプログラムや、特に大量のメモリを必要とするプログラムをすばやく検出できます。インストールされているプログラムを各種の基準で並べて表示できるので、プログラムのインストール日時、使用頻度などの追加情報を参考にしてそのプログラムがまだ必要か、それとすばやくアンインストールするかをすばやく判断できます。

プログラムをアンインストールする方法 **Uninstall Manager** モジュールを起動するには、スタートセンターの最適化から、システムの負荷を減少させるにある**プログラムをアンインストールする**を選択します。このモジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターのすべての機能から、**インストール済みのプログラムでアンインストールする**を選択します。

場合によっては、**プログラム起動の前にプログラムの評価機能のスタートアップダイアログが現れることがあります**。ここでこの機能を有効化するかどうかを決定し、**OK** をクリックします。

AVG Uninstall Manager はアンインストールしたプログラムを一覧表示します。メニューで**整理する**をクリックすると、一覧が列ごとに並び替り、**表示**でフィルターを選択すると、選んだプログラムだけが表示されます。これによりたとえば使用されていないプログラムや、ディスク領域を最も多く使用しているプログラムなどが一目でわかります。

リストの項目を選択すると、**詳細**の領域の右にプログラムの追加情報が表示されます。そこに表示されるのは、製造元、インストール日時、最後の利用日時、ハードディスク上のプログラム ファイルのサイズ、システム負荷、そしてプログラムの評価です。

AVG Uninstall Manager が提示するこれらの統計データを参考にしても、そのプログラムのは背後に何があるのかわからず、アンインストールすべきかどうか判断できない場合は、ツールバーにある**オンライン検索**をクリックします。

リスト内で選択したプログラムをインターネットで検索した結果が表示されます。そこでプログラムについての詳細を参照することができます。これらの情報も、プログラムをアンインストールするべきかどうかを決めるのに役立ちます。

有用性の欄には、他にも判断補助材料があります。本人もしくは他の **AVG PC TuneUp** ユーザーがこのプログラムをどう有用だと考えているか、ここで情報を得ることができます。ご自分でまだ評価していなかったら、そのプログラムをここで評価できます。**AVG PC TuneUp** サーバーデータベースから他のユーザーの評価を呼び出して表示します。これらの評価は定期的かつ自動的に更新されます。

プログラムをアンインストールする場合は、**アンインストール**をクリックします。

プログラムをコンピュータからきれいに削除するには、該当する項目を選択して、ツールバーの **アンインストール** をクリックします。また、エントリをダブルクリックして削除することも可能です。

開かれるアンインストール ウィザードは、プログラムごとに異なります。共通しているのは、ハードディスクからファイルを削除するだけでなく、それに付随するデスクトップ アイコン、[スタート] メニューの項目、そしてレジストリのエントリをすべて削除することです。アンインストール ウィザードの指示に従って、プロセスを完了してください。

プログラムをアンインストールしなくなったり、将来のためにこのリストには表示しないよう確保しておきたい場合は、コンテキストメニューでオプションの **エントリを削除** を選択してください。これでこのプログラムは **AVG Uninstall Manager** でアンインストールすることができなくなりました。これでプログラムをアンインストールするわけではないのでご注意ください。

8.1.4. ライブ最適化を設定

以下の章では、**なぜまたどのようにAVGライブ最適化** をオンにすることでコンピュータのパフォーマンスを向上させることができるのかを説明します。

AVGライブ最適化 は、2つのインテリジェントな最適化措置で構成されています。これらの措置は、コンピュータの使用状況をリアルタイムで監視し、必要に応じてコンピュータの低速化を防ぐ措置を講じます。両方の最適化措置は、一方でコンピュータの応答速度を、他方ではプログラムの起動速度を、それも必要なときだけ、スピードアップするのに役立ちます。

これは、実行中のプログラムをインテリジェントに優先付けすることで生じます。コンピュータの負荷が大きい状況でプログラムを起動すると、そのプログラムは、すばやく起動できるように一時的に高く優先づけされます。あるバックグラウンドプログラムが一旦度を越し、特にコンピュータの能力を過剰に要求すると、いま使用中のプログラムがスムーズに続行できるよう、その優先度が下げられます。それにより、コンピュータの負荷が大きい場合でも、迅速な作業が可能となります。

AVG ライブ最適化 モジュールを起動するには、スタートセンターから、**ダッシュボード** カテゴリの右側にある **ライブ最適化を設定** をクリックします。

モジュールを開く別の方法として、スタートセンターの**すべての機能** から、**AVG PC TuneUp** の **ライブ最適化を設定** を選択します。あるいは、スタートセンターでメニューバーの **設定** をクリックし、**ライブ最適化** を選択します。

ここで、2つの最適化措置を選択できます。どちらの最適化措置も、リアルタイムでインテリジェントに実行されるため、直ちに効果が現れるわけではありません。その代わりに、必要に応じてどちらの最適化にも取りかかれるよう、コンピュータの使用状況を監視することに重きをおきます。

必要に応じて実行する最適化措置を選択してください:

応答速度を向上

この最適化措置は、すべてのバックグラウンドプロセスを監視し、コンピュータの計算能力を過剰に消費しているプロセスの優先度を下げます。それによって応答速度が最適なレベルに維持され、ウィンドウやプログラムの動作がスムーズになります。この優れた最適化は、ニーズを認識して常にコンピュータの応答速度を最適に維持します。

以下の図は、オプション**応答速度を改善**を有効にする前とその後のコンピュータの内部です。PCの負荷がどのように軽減されるのかを説明します：



コンピュータ上では、ユーザーが現在使用しているプログラム（緑色）の他に、ユーザーの作業にとってそれほど重要でない多数のプログラムがバックグラウンドで実行されています（青色）。バックグラウンドプロセスの中に、コンピュータの能力を過剰に消費するものがあつた場合、他のプログラムがスムーズに続行できるよう、その優先度が下げられます。

プログラムの起動を高速化する

コンピュータの負荷が大きいときにプログラムを手動で起動すると、この最適化措置が実行されます。プログラムの起動直後のわずかの時間に対し、コンピュータの計算能力が一時的に分配し直され、起動しているプログラムは別々のパフォーマンスの押し上げを得られます。その際、起動するプログラムが一時的に最優先されます。

以下の図は、オプション**プログラムの起動を高速化する**を有効にする前とその後のコンピュータの内部です。新たに起動したプログラムでパフォーマンスの向上がどのように行われるのかを説明します：



プログラムの起動直後（オレンジ色）のわずかの時間に対し、コンピュータの計算能力が一時的に分配し直され、起動しているプログラムは別々のパフォーマンスの押し上げを得られます。その際、起動するプログラムが一時的に最優先されます。その他すべてのプログラム（緑色と青色）には影響が及びません。

ライブ最適化がアクティブであったことは、どのようにわかるのでしょうか？

ライブ最適化の特長は、バックグラウンドでインテリジェントに実行されることです。バックグラウンドでいずれかの最適化措置が実行されているときはいつも、タスクバーの通知領域にあるアイコンでわかります。

8.2. レジストリとパフォーマンスの最適化

レジストリをクリーンアップする

AVG Registry Cleanerモジュールは、Windows システムの中央データベースであるレジストリで壊れた項目を検出し、これを修復または削除します。レジストリをクリーンアップすることで、システムが不要な負荷やエラーから解放され、より速くよりよく作業できるようになります。

詳細は、[レジストリをクリーンアップする](#)を参照してください。

レジストリをデフラグする

AVG Registry Defrag モジュールを使用して、Windows システム中央データベース - レジストリ - の上書きを行います。それによりレジストリの隙間がなくなり、サイズが大幅に小さくなります。ささいな処理ですが、Windows のパフォーマンスの向上につながります。

詳細は、[レジストリをデフラグする](#)を参照してください。

破損したショートカットを削除する

AVGShortcut Cleanerモジュールを使用して、デスクトップ、スタートメニュー、Windows クイック起動バーにある無効になったショートカットを削除し、瞬間にコンピュータをクリーンアップします。無効なショートカットとは、たとえばプログラムのアンインストール時に削除されず、参照先を失ってしまったデスクトップ上のアイコンなどを指します。

詳細は、[壊れたショートカットを削除する](#)をご覧ください。

システムの起動とシャットダウンを高速化

AVG StartUp Optimizerモジュールを使って、システムの起動やシャットダウンを無用に遅らせるコンピュータの速度低下原因を検査することができます。分析の結果は、推奨事項の形で表示され、ユーザーは全部をまとめて実行することもできれば、1つ1つの推奨事項を詳しく検討することもできます。

詳細は、[システムの起動とシャットダウンを最適化する](#)をご覧ください。

ハードディスクをデフラグ

デフラグの際、AVG Drive Defragモジュールは、ハードディスクのディスク使用状況を分析し、必要に応じてデフラグを実行します。デフラグの際は、ディスク領域にある個々のデータブロックがインテリジェントに配置され、ディスク領域全体が新しく編成されます。それにより、システムの起動速度だけでなく、ドキュメントやプログラムの読み込み速度も大幅にアップします。AVG Drive Defrag には2種類のデフラグオプションが用意されており、一方は徹底的なデフラグで、もう一方はスピード重視のデフラグです。

詳細は、[ハードディスクをデフラグ](#)をご覧ください。

8.2.1. レジストリをクリーンアップする

以下の章では、どのように AVG Registry Cleaner モジュールがレジストリをクリーンアップできるか、またそれがなぜ重要なのかを説明します。

レジストリは、Windows システムの中核です。レジストリには、継続的にエントリ(値とキー)が保存されます。ま

た、それぞれ新規にインストールされたプログラムや新規に接続されたハードウェアは適切にレジストリに報告し、レジストリにキーと値を残します。プログラムを起動する際、Windowsがこのプログラムをよびだしますが、直接にではなく、プログラムのインストール時にすでにレジストリに作成されたキーから開きます。そのようなエントリは、このプログラムのアンインストールの際にもう必要なくなるので、本来はレジストリから削除されなければなりません。しかしWindowsはこれらのエントリをきれいに削除しないことが多いので、時と共にそこに多量の無効なエントリが蓄積されます。

そのようなエントリは、プログラムのインストールの際だけではなく、他の多数のタスクの際にも作成されます。たとえば、スタートメニューに表示される最近使ったファイルの履歴リストなども、レジストリのエントリを利用しています。このような参照は、参照先のファイルを移動したり削除したりした時点で無効になります。Windowsは定期的にレジストリをクリーンアップしないので、**AVG Registry Cleaner**を使ってユーザーが自分で行うことをお勧めします。

定期的にレジストリをクリーンアップすると、システム全体とすべてのプログラムが安定します。それゆえ、これは**AVG PC TuneUp**が**自動メンテナンス**の一部として実行できる機能の一つです。

クリーンアップを実行するには、まずレジストリ内で問題を検出する必要があります。見つかった問題は、まとめて修正することも、1つずつ修正することもできます。

レジストリをクリーンアップする方法

AVG Registry Cleaner モジュールを起動するには、スタートセンターの**最適化**カテゴリに行き、**レジストリとパフォーマンスの最適化**エリアから、**レジストリをクリーンアップする**を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターの**すべての機能**から、**レジストリにあるクリーンアップ**を選択します。

まずレジストリ内にある問題を検出する必要があります。2つの分析方法から1つを選択してください:

1. 完全な検査

レジストリ全体でエラーが検出されるよう完全な分析を行うことをお勧めします。

2. ユーザー定義の検査

レジストリの分析は、数分かかることがあります。分析が行われている間、進行状況が表示されます。

問題が検出された場合は、2つの方法で修正できます。

ディスプレイの問題

ディスプレイの問題をクリックして詳しい説明を表示し、**クリーンアップの問題を排除**します(AVG Registry Cleaner メインメニューのその他の機能を参照。)

問題を今すぐ解決する

見つかった問題すべてをすく修復するには、**オプションの問題をすく解決**を選択し、**続行**をクリックします。これにより、レジストリが完全に整理され、システムが安定します。

クリーンアップ終了後、**再び検索**ボタンが表示され、詳しい情報が見られます:

再び検索

場合によっては **再び検索** ボタンが表示され、ウィザードが検索のやり直しを提案することがあります。これはいつも、クリーンアップによってレジストリの新しいエントリが無効になった場合に起こります。これは、モジュールに問題があるわけではなく、特に **プログラムのコンポーネント** および **ファイルの種類** の各領域で起こりやすい連鎖反応によるものです。

例：

レジストリ内におけるエントリA からエントリB、つまり不明なファイル X を指します。1回目のスキャンで **AVG Registry Cleaner** はファイル X が見つからないと、エントリB は無効であることを判断します。そのため、クリーンアップの際に、エントリB を削除します。しかし、このクリーンアップによって、(削除済みの) エントリB を参照しているエントリA も無効になってしまいました。

1. **再び検索** をクリックします。

上記の2つのカテゴリのみで再び検索が行われます。

2. **終了** をクリックしてウィザードを閉じます。

クリーンアップは必要な回数だけ繰り返してください。メインウィンドウに問題がまったく表示されなくなれば、システムから古い重荷を取り除くことができたという心地よい感覚とともにモジュールを終了できます。

問題が検出されない場合 **終了** をクリックします。 **AVG Registry Cleaner** メインウィンドウが表示されます。

チェックの対象

次の表は、完全点検の際、 **AVG Registry Cleaner** がどの領域のレジストリを検査の対象としているのかを表したものです。この中から、ユーザー定義の分析を選択できます。

領域	説明
検査可能な信号	エラーメッセージなどのシステムまたはプログラムイベントが発生すると音が鳴ります。これは、レジストリ内の該当するエントリを呼び出すことで実行されますが、該当するサウンドファイルが削除されると、エントリが無効になります。
スタートアッププログラム	Windows と一緒に自動的に起動するプログラムは多数あります (ウイルススキャンなど)。これは、レジストリのスタートアップ領域にあるエントリを通じて実行されます。そのようなプログラムのアンインストール時に、これらのエントリは削除されないことがあります。
ファイルの種類	レジストリのこの領域でのエントリは、さまざまな情報 (たとえば、それを使って開くプログラムなど) を持つ1つあるいは複数の拡張子 (.txt や .doc など) とリンクしています。そのようなエントリは、プログラムのアンインストールなどで無効になることがあります。
データベースドライバ	多くのプログラムは、インストールの際にレジストリ内のデータベースドライバおよび

	データソースにエントリを残します。これらのエントリは、このプログラムのアンインストールあるいは移動、個々のデータソースの削除などによって無効になることがあります。インストールの際に無効なエントリが作成されることも珍しくありません。
共通ファイル	レジストリのこの領域には、複数のプログラムが使用するファイルおよびプログラムライブラリ(DLL)への参照が含まれています。そのようなプログラムのアンインストール時に、これらのエントリは削除されないことがあります。
ヘルプファイル	プログラムの多くは、ヘルプファイルの保存場所についてのエントリをレジストリ内に残します。そのようなプログラムのアンインストール時に、これらのエントリは削除されないことがあります。
インストール済みのプログラム	プログラムは、レジストリのこの領域にエントリを残します。これらのエントリをもとに、[コントロールパネル]のすべてのプログラム一覧が作成されます。プログラムのアンインストール時にこれらのエントリが削除されず、一覧に不整合が生じることがあります。
プログラム設定	コンピュータにインストールされた各プログラムには、レジストリのエントリにプログラム特有の情報(データやプログラムのパスなど)が格納されています。これらのエントリは、プログラムのアンインストール時に削除されないことがあります。
プログラムの拡張子	レジストリのこの領域は、音声やビデオのコーデック、あるいは Internet Explorer アドオンのような、個々のプログラムの機能を拡張する拡張強化への参照が含まれています。これらのプログラムや拡張機能をアンインストールした場合に、対応するエントリが削除されないことがあります。
プログラムコンポーネント	Windows プログラムの多くは、レジストリのこの領域にあるエントリを通じて ActiveX コンポーネントや COM コンポーネントにアクセスします。これらのエントリは、プログラムのインストール時に作成されますが、プログラムをアンインストールしても削除されないことがあります。インストールの際に無効なエントリが作成されることも珍しくありません。
プログラムパス	一部のプログラムでは、[スタート]メニューの[ファイル名を指定して実行]で直接実行できるようインストールフォルダがレジストリ内に保存されます。そのようなプログラムのアンインストール時に、これらのエントリは削除されないことがあります。
フォント	Windows では、コンピュータにインストールされているすべてのフォントに対し、レジストリのこの領域にエントリが作成されます。これらのエントリは、フォントをアンインストールしても削除されずに残ることがあり Windows を起動するたびに存在しないフォントの読み込みが試行されます。
履歴リスト	Windows や多数のプログラムには、前回どのファイルを編集したかなどを記録する履歴リストがあります。これは、レジストリ内に参照の形で保存されます。これらのエントリは、該当するファイルを削除または移動した場合に無効になります。
Windows ファイアウォール	Windows ファイアウォールは、どのプログラムがネットワーク接続の受信を許可されているかを保存し、レジストリ内に各プログラムのエントリを作成します。これらのエントリは、そのようなプログラムのアンインストールによって破損したり無効になったりすることがあります。

この一覧から、削除済みファイルによってレジストリ内にたくさんの不要な（抜け殻）が残されることがわかります。AVG Registry Cleanerは、これらの不要となったエントリをすべて検出し、削除することができます。そのため、完全なスキャンを実行されることを推奨します。

AVG Registry Cleaner メインメニューのその他の機能

クリーンアップ後の詳細の表示と問題の除去

左側の列で各領域をクリックすると、ウィンドウの上部に問題がどのようにして生じるのか詳しい説明が表示されます。

ある領域で問題が検出された場合は、さらに問題と詳細を表示した一覧が作成されます。一覧でエントリを選択すると、さらに詳しい問題分析が得られます。

また、一覧の中でチェックボックスをオフにすると、その問題がクリーンアップの対象外となります。

問題の説明が表示されていない場合は、ツールバーにある詳細をクリックする必要があります。

クリーンアップの実行

AVG Registry Cleanerのメインウィンドウからクリーンアップを開始するには、**クリーンアップを開始**をクリックします。クリーンアップの対象から除外した問題は、修正されません。

クリーンアップ終了後、**再び検索**ボタンが表示され、詳しい情報が見られます：

再び検索

場合によっては**再び検索**ボタンが表示され、ウィザードが検索のやり直しを提案することがあります。これはいつも、クリーンアップによってレジストリの新しいエントリが無効になった場合に起こります。これは、モジュールに問題があるわけではなく、特に**プログラムのコンポーネント**および**ファイルの種類**の各領域で起こりやすい連鎖反応によるものです。

例：

レジストリ内にあるエントリAからエントリB、つまり不明なファイルXを指します。1回目のスキャンでAVGRegistry CleanerはファイルXが見つからないとエントリBが無効であると判断します。そのため、クリーンアップの際に、エントリBを削除します。しかし、このクリーンアップによって、(削除済みの)エントリBを参照しているエントリAも無効になってしまいました。

1. **再び検索**をクリックします。

上記の2つのカテゴリのみで再び検索が行われます。

2. **終了**をクリックしてウィザードを閉じます。

クリーンアップは必要な回数だけ繰り返してください。メインウィンドウに問題がまったく表示されなくなれば、システムから古い重荷を取り除くことができたという心地よい感覚とともにモジュールを終了できます。

上級ユーザーのための機能

クリーンアップから除外すべき個々の領域がきちんとわかっている場合、あるいはレジストリ内のエントリを自分で確

認し、編集もしたい場合は、以下の機能に注目です:

問題を無視

分析の時に見つからないように、個々の問題をリストから削除できます。

これには次の手順を実施します:

1. 該当する領域のリスト内で問題を選択します。
2. **編集**メニューで**問題を無視**をクリックします。

この機能は、リストの各項目のコンテキストメニューにも表示されます。

無視した問題を再度含む

無視されていた問題を再び分析対象とすることができます。

これには次の手順を実施します:

1. メニュー **ファイル** で無視された問題をクリックします。
2. 表示されたリストからそれを選択し**削除する**をクリックします。

レジストリ内のエントリを表示

各領域の詳細な問題リストから、特定の問題に対応するレジストリ内のエントリを直接表示することができます。

これには次の手順を実施します:

1. リスト内で問題を選択します。
2. **編集**メニューで、**問題の詳細**、次に、**キーへジャンプ**を選択します。

この機能は、リストの各項目のコンテキストメニューにも表示されます。

レジストリの編集

ツールバーで **Registry Editor** を直接クリックしてAVG PC TuneUpモジュールを呼び出し、レジストリを編集します。

8.2.2. レジストリをデフラグする

この章ではどのようにAVG Registry Defragモジュールを使用してデフラグすることでレジストリのサイズを小さくできるか、またなぜRegistry Defragを実行することが重要であるのかを説明します。

レジストリは、Windows システムの中核です。レジストリには、継続的にエントリ(値とキー)が保存されます。また、新しくプログラムがインストールされるたび、新しくハードウェアが接続されるたびに、レジストリにキーと値が作成されます。

そのため、レジストリは絶えず大きくなっていきます。レジストリが大きくなればなるほど、今プログラムによって要求されている保管の特定の情報をシステムが探し出すのにもっと時間がかかるようになり、Windows の動作が遅くな

ります。プログラムのアンインストール時やレジストリの整理の際に、キーと値が再び削除されることが多いのですが、レジストリ自体は小さくなるわけではありません。これはなぜでしょうか。それは、削除されたキーが使用していた場所は、例えばその後使用されなくともそのままレジストリ内に残るからです。時間が経つうちに、レジストリは、エメンタルチーズのように穴ぼこだらけになってしまいます。

これはシステムパフォーマンスを犠牲にした、ハードディスクだけでなくメモリでの無駄遣いでもあります。**AVG Registry Defrag**は、レジストリを再び圧縮して大幅に小さくすることができます。小さくなることで、Windows システムの安定性が向上します。

AVG Registry Defragは、まずレジストリの分析を行い、その結果を元に安全な形のデータだけを正しい順に並べた新しいバージョンを作成します。古いレジストリはこのステップ終了後に削除され、再起動によって自動的に新しいバージョンと入れ替えられます。

レジストリをデフラグする方法

AVG Registry Defrag モジュールを起動するには、スタートセンターの**最適化**カテゴリに行き、**レジストリとパフォーマンスの最適化**エリアから**レジストリをデフラグする**を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターの**すべての機能**から、**レジストリにあるデフラグエントリ**を選択します。

モジュールにて、「ようこそ」という表示が現れます。次へをクリックして、分析を開始します。

AVG Registry Defragは、レジストリの断片化の度合いと最適化が必要かどうかを検出します。

分析の前に、他のすべてのプログラムを閉じることを指示するメッセージが表示されます。分析が行われている間は、**AVG Registry Defrag**の画面がグレーになり待機ウインドウが開きます。また、待機ウインドウの左上隅に、モジュールが作業中であることを示す小さな時計が表示されます。さらに進行バーも表示され、現在の状態が報告されます。この進行バーが数分間動かないことがあっても、何か問題が起きたわけではありません。

いつ最適化を実行したいかを選択します。モジュールによって、分析結果が表示されます。最適化を行うべき可能性があれば、レジストリの何パーセント、そしてキロバイトにしてどれだけのサイズを削減することができるのかがここに表示されます。

AVG Registry Defragがレジストリを書き換えられるのは稼働中ではなく、Windows の起動時だけです。コンピュータを**今すぐ再起動する**か、最適化を自動的に**次の Windows の起動時**に実行するかを選択してください。最適化は、数分かかることがあります。

急に最適化を実行したくなくなった場合や、分析結果だけを知りたい場合は、**キャンセル**をクリックしてプログラムを終了できます。

8.2.3. システムの起動とシャットダウンを最適化する

この章では、コンピュータの起動とシャットダウンをどのように簡単に**瞬間**に最適化するかを説明します。

ここでは不要なスタートアッププログラムを無効化する推奨事項が得られます。これらの推奨事項は、システム起動ならびにシャットダウンの最適化に役立ちます。

たとえば、システムの起動直後に必要ではないスタートアップサービスは、起動のタイミングが後にずらされます。それにより機能自体は失われることなく、同時にシステムの起動速度が上がります。さらに、サービス終了の待ち時間も短縮されます。そのようにしてシャットダウンの際、サービスは迅速に終了し、シャットダウン自身も迅速

に完了します。

これらの推奨事項は、すべてまとめてすぐ適用することもできれば、まず詳細な説明を読んでから個別に適用を決定することもできます。

システムの起動とシャットダウンを最適化する方法

便利な **AVG 起動の最適化** ツールを起動するには、スタートセンターの**最適化** カテゴリに行き、**レジストリとパフォーマンスの最適化** エリアから**システムの起動とシャットダウンの最適化** を選択します。AVG 起動の最適化 ウィンドウが表示されます。

このモジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターの**すべての機能** から、**推奨事項** にある**システムの起動とシャットダウンの最適化** を選択します。

ユーザーの状況にあった推奨事項を表示するには、場合によってはここでまずユーザーの**プロファイル**の情報を入力する必要があります：

コンピュータ上でどのサービスとデバイスを使用していますか？

ここで、使用していない機能をオフにすることができます。設定済みの機能やサービスのうち、現在必要とされていないものが表示されます。

たとえば、プリンタを使用しない場合は、バックグラウンドで実行されているプリンタ関連のプログラムをすべてオフにできます。それをここで指定します。

会社のネットワークまたはドメインへのアクセスが必要ない場合は、それ関連するサービスおよびバックグラウンドプログラムをオフにできます。それについても、リストで該当する回答を選択します。

不要な機能をここで無効にすればするだけ、コンピュータはより迅速に起動し動作します。Windows がこの最適化に従って、自動起動して常にアクティブなバックグラウンドプログラムを放棄するからです。

AVG 起動の最適化 の右上に位置する [プロファイルの変更] をクリックして、いつでも設定の変更を行えます。

コンピュータ上でどのサービスとデバイスを使用していますか？

ここで、使用していない機能をオフにすることができます。設定済みの機能やサービスのうち、現在必要とされていないものが表示されます。

たとえば、プリンタを使用しない場合は、バックグラウンドで実行されているプリンタ関連のプログラムをすべてオフにできます。それをここで指定します。

会社のネットワークまたはドメインへのアクセスが必要ない場合は、それ関連するサービスおよびバックグラウンドプログラムをオフにできます。それについても、リストで該当する回答を選択します。

不要な機能をここで無効にすればするだけ、コンピュータはより迅速に起動し動作します。Windows がこの最適化に従って、自動起動して常にアクティブなバックグラウンドプログラムを放棄するからです。

AVG 起動の最適化 の右上に位置する [プロファイルの変更] をクリックして、いつでも設定の変更を行えます。

概要

このビューでは、見つかった最適化の推奨事項の概要が表示されます。すべて最適化 をクリックするだけで、**全推奨事項** をまとめて適用できます。

詳細

推奨事項のいずれか、あるいは**詳細**のリンクをクリックすると、個々の推奨事項の詳細な説明が表示されます。また、**詳細** タブに切り替えることもできます。このタブでも、**すべて最適化** をクリックするだけで全推奨事項をまとめて適用できます。

[最適化の推奨事項]の欄でいずれかの推奨事項をクリックしてください。ウィンドウの右にプログラムの説明と推奨事項が開きます。最適化を許可する場合は、右下の**推奨事項を適用** をクリックします。

推奨事項の表示と非表示

推奨事項を適用したくない場合は、**推奨事項を非表示** をクリックします。その後ずっと非表示にするか、30日間だけ非表示にするかを指定します。非表示にした推奨事項の数は、常に下部バーの右側に表示されます。この表示を1クリックするだけで、推奨事項を再び表示することができます。

8.2.4. ハードディスクをデフラグ

この章では、**ハードディスクのデフラグが必要である理由** とAVG Drive Defragを使用してどのようにハードディスクのデフラグを行うかを説明します。

時が経つにつれコンピュータの動作が遅くなるのには、さまざまな原因があります。普段目に見えないハードディスクの断片化もその原因のひとつです。次のように考えてみてください：

空のハードディスクがあります。まず、新しいファイルが一つ、そしてもう一つ次々に並べて配置されます。次に、中央にあるファイルを1つ削除したとしましょう。それにより、ハードディスク上に隙間が生じます。Windows はあとでこの隙間を、ハードディスクに保存する次のファイルを入れるのに利用します。ファイルのサイズが隙間より大きい場合、Windows はファイルを分割し、後半部分を別の場所に配置します。時の経過とともにそのようになります。隙間ができ、ファイルはますます個々の部分(断片)に分割していきます。つまり、断片化の度合いが高くなります。

これは、コンピュータのパフォーマンスにブレーキをかけます。ファイルを呼び出すたびに、そのファイルがハードディスクから読み込まれますが、ファイルが1つの完全な形で保存されていれば読み込みがもっと速くなるのは明らかです。技術的に表現すれば、「断片化の度合いが高いと、ファイルの断片を読み込むためにハードディスクの読み込みヘッドの向きを何度も調整する必要がある」ということです。

そのため、**ハードディスクをデフラグ**すれば、簡単にシステムがスピードアップします。従来のデフラグは非常に時間がかかることから、**AVG Drive Defrag**では、2種類のデフラグが用意されています。デフラグの方法は、ユーザーが自分で決めることもでき、また**AVG Drive Defrag**に判断を任せることもできます。

2つのデフラグモードの実行についての詳細は下記をご覧ください：

詳細なデフラグ

このデフラグ方法は、ファイルを新たに配列し、特にインテリジェントに配置します。たとえば、頻繁に必要なシステムファイルはハードディスクの頭の方に配置されるため、Windows が瞬時に見つけることができます。

このような最適化は、単なるファイルの整頓より多少時間がかかります。**AVG Drive Defrag**は、特別に優先度が低く設定されており、そのまま作業を行えるようになっています。このプロセスはWindowsの起動を大幅にスピードアップします。頻繁に使用するプログラムの起動も速くなります。それにより、コンピュータ

のパフォーマンスも顕著に向上します。

高速 デフラグ

このモードでは、すべてのファイルが完全な形に戻されるため、読み込みにかかる時間が大幅に短縮されます。

この方法の利点は、すばやく実行できることです。それによりハードディスクのパフォーマンスが短時間で改善されます。

ハードディスクをデフラグする方法

AVG Drive Defrag モジュールを起動するには、スタートセンターの**最適化** カテゴリに行き、**レジストリとパフォーマンスを最適化** エリアにある**ハードディスクをデフラグ**を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターで**すべての機能**の**ハードディスクにあるデフラグ**を選択します。

ソリッドステートドライブ (SSD) が**AVG PC TuneUp**により検出されました。デフラグによる SSD ドライブの最適化は不可能で、それによって損傷するため、SSD は分析もデフラグもされません。

最適化の可能性を分析するハードディスクを指定します。

分析後にどのようにデフラグを実行するかを指定します。

AVG Drive Defragが行うデフラグの方法は2種類あるため、デフラグの方法が分析に依存すべきかどうかを分析前に指定する必要があります。

分析後に個人的な推奨事項が得られ、デフラグの方法を**自分で決める**ことができるので、4つあるオプションのうち1番目のオプションがプリセットされています。その他の3つのオプションでは、分析の完了後、直ちにデフラグが開始されます。ただし分析の結果、デフラグの度合いが非常に低いと分かった場合、**AVG Drive Defrag**によりデフラグが不要と判断されるため、それら3つのオプションの場合はデフラグを実行しません。

結果が出てから決定する

このオプションを推奨します。このオプションでは、分析完了後に、各ハードディスクに対し、高速のデフラグと徹底的なデフラグのどちらを実行するかを決定します。また、デフラグを実行しない選択肢もあります。

確認なしで推奨どおりに

AVG Drive Defragは自動的に判断を下し、分析の完了後、直ちに各ハードディスクを断片化の度合いに応じたモードでデフラグします。

確認なしで徹底的に

分析の結果とは無関係に、時間は多少かかってもハードディスクのパフォーマンスが細かいところまで最適化されます。

確認なしで高速に

断片化の度合いとは無関係に、各ハードディスクが高速でデフラグされます。時間を節約したい場合に適

したオプションです。

オプション結果が出てから決定するを選択した場合、ダイアログボックスが開き、ハードディスクごとにデフラグの方法を指定することができます。その他のオプションでは、分析後に自動的にデフラグが実行されるので、何もする必要はありません。

上の領域でハードディスクを選んでからデフラグのモードを選択します。

AVG Drive Defrag は速度と利便の関係を判断し、それから推奨事項を導き出します。

コンピュータをデフラグ終了後にシャットダウンするかどうか、指定してください。どのハードディスクに対しても必ずデフラグの方法を選択してください。

次へをクリックするとデフラグが開始されます。

デフラグが行われている間、各ハードディスクの使用領域がリアルタイムで変化するのを観察することができます。また、プログレスバーには、デフラグの進行状況と残り時間が表示されます。

詳しいヒントや詳細事項は、[NTFSとFATとの比較](#)

NTFS を FAT と比較

ハードウェアは、現在の Windows のバージョンで好んで取り入れられているような NTFS ファイルシステム、あるいは最初の Windows のバージョンでサポートされている古い FAT システムを、選択的に使用しています。これから行うデフラグのためのドライブの分析は、NTFS ドライブでは明確により速く進行します。FAT システムの場合、ユーザーの待ち時間が長く、待っている間に休憩ができるほどです。これ以外にも、古い FAT システムをモダンな NTFS システムに変換した方が良い理由はいくつもあります。

NTFS ファイルシステム (NTFS = New Technology File System) は Windows NT とそれ以降 (例えば Windows 2000、Windows XP、Windows Vista) から Windows 7 に至るまでのファイルシステムです。このシステムは、ファイルレベルに絞ったアクセス保護を提供し、融通性のある権限管理や 4GB 以上のディスク容量が可能で、ファイルシステムの自動エラー修正機能があり、今日普通のハードディスクサイズの場合で明白にメモリを効率的に利用できます。

お使いのハードディスクで FAT ファイルシステムが採用されている場合は、簡単に変換することができます。

変換は安全だとされていても、保存されているデータはすべて前もってバックアップを作成しておくべきです。

Windows のスタートメニューをクリックして、すべてのプログラムを開き、アクセサリにあるコマンドプロンプトをクリックします。コマンドラインに「`CONVERT.EXE C:/FS:NTFS`」というコマンドを入力すると、変換が始まります。

C: の代わりに他のドライブ文字を使用すれば、他のパーティションを変換できます。システムのパーティションが変わった場合は、コンピュータの再起動が必要です。この場合は画面の指示に従ってください。

9. クリーンアップ

お部屋と同じように、コンピュータにも時間が経つにつれて貴重なメモリを消費する不要なちが溜まってきます。時々大掃除をして、不要なファイルをシステムから削除することをお勧めします。

システムへの変更はすべてAVG Rescue Centerによって監視されており、必要に応じて変更を取り消すことも可能です。



機能	要素	サイズ	
Windows とプログラムを整理する	1,916	1,774.5 MB	開く
ブラウザをクリーンアップする	2,073	117 MB	開く
壊れたショートカットを削除する	52	0.1 MB	開く
Windows 機能を無効にする	1	32 MB	開く
クリーンアップの可能性:		4,042	1,923.4 MB

ディスク領域を解放して利用データを削除する

ディスク領域を解放して利用データを削除するのセクションでは、お使いのドライブからどれだけのアイテムを削除できるか見ることができます。選択するとすぐAVG PC TuneUp がクリック分析をバックグラウンドで実行し、[Windows とプログラムを整理する](#)、[ブラウザをクリーンアップする](#)、[壊れたショートカットを削除する](#)、[Windows 機能を無効にする](#)でお使いのドライブにどれだけのアイテムがあり、どれだけのディスク領域を使っているかを示します。それによりどのアイテムを削除し、どの Windows の機能を無効にするか決めることができます。

詳細は、[ハードディスクのクリーンアップ](#)をご覧ください。

ストレージ使用状況の解析とデータ削除

ストレージ使用状況の解析とデータ削除エリアでは、不要なデータがないか体系的にドライブを検索し、機微なデータを確実に削除することも可能です。

- 重複ファイルを検索して削除

AVG Duplicate Finder モジュールを使用すると、ハードディスクにある重複したさまざまなファイルやフォルダを見つけて削除し、ディスクの貴重なメモリ領域を使用可能にすることができます。

詳細は、[重複ファイルを検索して削除](#)をご覧ください。

- **大容量データを検出して削除**

AVG Disk Space Explorerモジュールを使用して、システムにある大きなファイルやフォルダを見つけることができます。そのデータをアーカイブに入れるか、あるいは将来もう使わないことがはっきりしていれば、全体的に消去することもできます。それゆえ場合によっては一挙に大きなディスク領域を解放できることもあります。

詳細は、[大容量データを検出して削除](#)

- **データを確実に削除する**

AVG Shredder で、機密データを確実に削除することができます。ここで、プロでさえもデータ復元が不可能なように、確実に削除できる3つの優れた方法が利用できます。

詳細は、[データを確実に削除する](#)をご覧ください。

9.1. Windows とプログラムを整理する

以下の章では、どのようにして**Windows とプログラムを整理する**で貴重なハードディスク領域を増やすことができるのか、**またなぜそれが重要なのか**を説明します。

Windows とプログラムを整理するでは、システムに悪影響を及ぼすことなく安全に削除できるWindows ファイル、古いバックアップ、使用できないログやレポート、不要な機能などのアイテムを体系的なリストとして見ることができます。

AVG PC TuneUp は、削除しても問題なく、不要と思われる多くの種類のファイルを検索します。その際ユニークなのは、ディスク領域がどれだけ解放されるか即座に表示されることです。もちろん、まず最初に削除対象の候補となるファイルのリストが表示されるので、ユーザーがその中から削除したいファイルを自分で選択します。

この作業では、特にセキュリティが重視されます。特定のパターンに従ってハードディスク内を闇雲に探していたこれまでの方法とは異なり、突然エラーメッセージが表示されたり、プログラムが機能しなくなるといったトラブルが生じません。

9.1.1. Windows とプログラムを整理する方法

スタートセンターから**クリーンアップ** カテゴリを選択します。

Windows とプログラムを整理する機能をクリックします。

不要なファイルと古いバックアップを削除し、Windows の機能を無効にするか、削除することができます。

不要なファイルまたは古いバックアップを削除する方法

1. リストから項目を選択します

検出ファイルまたは古いバックアップのすっきりと整理されたリストが表示されます。どれだけのディスク領域がそれぞれ節約できるかが一目でわかります。クリーンアップの対象から除外したいファイルまたはバックアップの種類がある場合は、該当する種類のチェックボックスをオフにします。

また、それぞれのファイルまたはバックアップの種類を選択し、その説明をウインドウの右側に表示することができます。

アイテムの表示 ボタンをクリックしても、削除を勧められたファイルまたはバックアップの完全な一覧を表示することができます。

2. クリーンアップをクリックします。

クリーンアップは、数分かかることがあります。クリーンアップの実施中、時として **AVG PC TuneUp** は応答していません、と表示されることがあります。これは技術上必要なものなので、心配ありません。クリーンアップが完了するとすぐ動き出し、完了メッセージが表示されます。このダイアログボックスは、閉じてかまいません。

9.1.2. 削除が推奨されるファイルの種類は？

AVG PC TuneUpは、通常問題なくハードディスクから削除できる、次の種類のファイルやバックアップを検索します。

種類	説明
Windows の一時ファイル	Windows はファイルの一時保存を作成しますが、もともとこれは編集終了後に再び削除されるべきものです。これらのファイルは、削除しても問題がありません。
Windows のレポートとプロトコル	Windows は、エラー分析、プログラムやサービスの行動についてなど、さまざまなレポートとプロトコルを保存します。
Windows の不要なファイル	フォルダとキャッシュのプレビューのカテゴリは、ディスク領域を解放するためにクリーンアップできます。
Windows のバックアップファイル	CHKDSK のような修復プログラムがハードディスクの損失クラスタを探し出し、安全のためにバックアップを取ります。このバックアップをユーザーが必要とすることはほとんどないので、削除できます。
Windows の履歴リスト	Windows は、前回どのファイルを編集したかなどを記録する履歴リストを作成します。これは、レジストリ内に参照の形で保存されます。これらのエントリは、該当するファイルを削除または移動した場合に無効になります。
プログラムの一時ファイル	多くのプログラムはファイルの一時保存を作成しますが、もともとこれは編集終了後に再び削除されるべきものです。これらのファイルは、削除しても問題がありません。
プログラムのレポートとプロトコル	多くのプログラムでは、行った動作の追跡に役立つログファイルを書き込みます。それにより、生じた問題を確認できます。このような利用をしない場合は、ファイルを破棄することも可能です。
プログラムの不要なファイル	画像のサムネイルはすばやくプレビューを表示するためにさまざまなプログラムで使用されています。プログラムのサムネイルやキャッシュは、ディスク領域を解放するためにクリーンアップできます。

プログラムのバックアップ ファイル	多くのプログラムでは、自動的に使用ファイルのバックアップが作成されます。後でそれがなくなってきたときは、削除できます。
プログラムの履歴リスト	多数のプログラムは、前回どのファイルを編集したかなどを記録する履歴リストを作成します。これは、レジストリ内に参照の形で保存されます。これらのエントリは、該当するファイルを削除または移動した場合に無効になります。

9.2. ブラウザのクリーンアップ

インターネットの閲覧中に、インターネット ブラウザは多数のさまざまなデータをコンピュータに保存します。

保存されたこれら閲覧の形跡は、もはやブラウザを使って自分で面倒な削除をするのではなく **AVG Browser Cleaner** が検索を行います。不要になったデータを選択するだけで、**AVG Browser Cleaner** がすくさまそれを削除します。

以下の章では **AVG Browser Cleaner** モジュールを使って、キャッシュ、クッキー、履歴を瞬間に消去し、インターネット ブラウザを実にすばやくクリーンアップする方法を紹介します。

9.2.1. ブラウザをクリーンアップする方法

AVG Browser Cleaner モジュールを起動するには、スタートセンターの**クリーンアップカテゴリ**へ行き、**ディスク領域を解放して利用データを削除する領域からブラウザをクリーンアップする**を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターの**すべての機能**へ行き、**利用データにあるブラウザをクリーンアップする**を選択します。

ブラウザで、クリーンアップを実施するインターネットブラウザを選択します。ここで選択できるのは、Internet Explorer, Mozilla Firefox, Google Chrome, Opera, Safari 並びにプラグインの Adobe Flash Player と Microsoft Silverlight です。

AVG Browser Cleaner は選択したブラウザの削除できるアイテムを検出します。ブラウザ名の下に、クリーンアップできるカテゴリがリストされます:

種類	説明
キャッシュ	インターネットで閲覧の際にブラウザに読み込まれた全ての画像、テキスト、アニメーションはキャッシュに保存されます。ホームページを再度訪れると ネット上から再度読み込む時間を短縮するために、これらのテキストや画像がすばやくキャッシュから表示されます。それでも時々 これらのキャッシュを空にするとよいでしょう
クッキー	クッキーは閲覧した Web サイトについての情報を含み、ネット閲覧をしている間に要求なくしてインターネット ブラウザによって保存されます。クッキーには Web サイトのログオン データあるいはユーザーのインターネット行動に関する情報が含まれていることがあります。
データベースを最適化する	ディスク領域を解放するため、Mozilla Firefox データベースが最適化されます。

ダウンロード履歴	ダウンロード履歴にはダウンロードしたファイルのリストが含まれています。
Webサイトのプロパティ	テキストサイズのような、Webサイトの特定のプロパティはブラウザに保存されません。
フォームデータ	例えばアドレスデータのような、Webフォームに入力されたデータはブラウザに保存されます。
保存されたパスワード	特定のWebサイトのパスワードは保存されることがあります。そのパスワードの削除は上級ユーザーのみが対象です。
Index.datファイル	Internet ExplorerのURLキャッシュはいわゆるIndex.datファイルに保存されます。これらのファイルのクリーンアップは上級ユーザーのみが対象ですので、ご注意ください。
インターネット履歴	インターネット履歴には閲覧したすべてのWebサイトのアドレスが保存されます。
前回のダウンロード保存先	ここにはファイルのダウンロードのため、前回手動で入力された保存パスが保存されます。
セッション	Mozilla Firefoxは前回と現在のセッションを、セッションごとにかかれたタブとWebサイトとともに保存します。
一時ファイル	ここにはブラウザの一時利用データが保存されます。
その他のMozillaファイル	Mozilla Firefoxはその他のファイルとして、バックアップ、更新、クラッシュとエラーのレポート、そしてプロトコルファイルを保存します。
その他のOperaファイル	クリーンアップできるその他のOperaファイルには、アイコン、サムネイル、VPS、一時ダウンロード、アプリケーションキャッシュがあります。
前回入力したURL	ここには前回手動で入力したWebサイトのアドレスが保存されます。

例外に指定してクリーンアップから除外することにより、特定のWebサイトのクッキーを保護することができます。そのためには、**特定のWebサイトのクッキーを保護** オプションの前にチェックを入れます。新しいダイアログが開くため、**削除**の下リストからクッキーを保護したいWebサイトを選択します。選択したら、両方のリストの間にある右方向の矢印をクリックするだけです。選択したWebサイトのクッキーはただちに保護されます。

オプション**1週間以内のアイテムを保護する**を使って、新しい日付の保存されたデータを保護できます。そのためには、このオプションにチェックマークを入れるだけです。そうすれば1週間以内のアイテムはクリーンアップから除外されます。

9.3. 破損したショートカットを削除する

この章では、**なぜShortcut Cleanerが有用なのか**、そして**どのようにAVG Shortcut Cleanerモジュールで無効になったショートカットや参照を削除し、システムをクリーンアップできるか**を説明します。

AVG Shortcut Cleanerモジュールを使うと、簡単にコンピュータを整理することができます。モジュールデスクトップ

ブ、スタートメニュー、クイック起動バーにあるすべてのショートカットが分析の対象となります。スタートメニューに含まれる空のフォルダも検出されます。空のフォルダは、スタートメニューを手動で整理したときなどに生じます。

AVG Shortcut Cleanerは、Microsoft Office プログラム、OpenOffice c、Windows Media Player、Nero c などのファイルの履歴リストを分析します。これらのリストには、プログラムで前回開かれたすべてのファイルへの参照が含まれています。これらのエントリも分析対象となります。削除または移動されたファイルを参照しているエントリがあった場合は、簡単に削除することができます。

このようにしてシステムは、一方で不要なものを除去し、他方で壊れた参照を呼び出している待ち時間をなくします。

9.3.1. 破損したショートカットを削除する方法

破損したショートカットを削除する方法

AVG Shortcut Cleanerモジュールを起動するには、スタートセンターでカテゴリコンピュータを整理するのディスク領域を解放して利用データを削除するにある壊れたショートカットを削除するを選択します。

このモジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターですべての機能の利用データにある壊れたショートカットを削除するを選択します。

作業インターフェイス(デスクトップ、[スタート]メニュー、クイック起動バー)や一部のプログラムの履歴リストから壊れたショートカットやエントリが検出されます。分析は、数分かかることがあります。

分析が終了すると**AVGShortcut Cleaner**によってすべての壊れたショートカットと参照のリストが表示されます。壊れた項目がなかった場合は、分析の対象となつた場所のリストのみが表示されます。この場合、閉じるをクリックし、この機能を閉じます。

壊れたショートカットをすべて削除すべきかどうかは、ユーザーが決めます。無効なショートカットや参照の中に、削除したくないものがある場合は、そのチェックボックスをオフにします。既定では、検出されたものがすべて削除されます。

クリーンアップをクリックします。クリーンアップは、通常、数秒しかかかりません。その後、削除された参照とショートカットの数について短いステータスレポートが表示されます。

終了をクリックして、**AVGShortcut Cleaner**を閉じます。

9.4. Windows の機能を無効化

このアイテムをクリックすると、各機能のステータスが表示されます。各機能に説明が表示されるので、それに基づいて処理を決定することができます。機能が有効な場合は、それがどれだけのディスク領域を使用しているかが表示されます。

次のオプションの Windows の機能は、無効あるいは、削除することができます:

休止状態のファイル

いわゆる休止状態ではコンピュータがシャットダウンされますが、開いているウインドウ、プログラム、または文書を終了する必要はありません。コンピュータのメモリにあるデータはすべて、ハードディスクに保存されます。コンピュータを再びオンにすると、中断した状態から作業を続行できます。以前に開いていたウインドウ、プログラム、および文書がすべてただちに復元されます。

休止状態が必要ない場合でも、休止状態のファイルは貴重なハードディスクメモリを消費します。その量

はメモリのサイズに正確に対応します。お使いのコンピュータに4ギガバイトのメモリが備わっている場合、休止状態のファイルは最大4ギガまで領域を占領します。これは、休止モードでは、メモリのコンテンツ全体が保存される必要があるためです。

休止状態機能を利用しない場合は、ここで無効にすれば、ディスク領域が解放されます。休止状態機能は、いつでもまた有効にすることができます。

Windows Messenger

プログラムのWindows Messenger を使用すると、友人とインスタントメッセージをやり取りできます。Windows Messengerを使用しない場合は、ここで簡単にコンピュータから削除することができます。

Windows デスクトップ検索のインデックス

デスクトップ検索は、ファイルとフォルダをすばやく検索するための Windows 機能です。これは、ファイルとフォルダのエントリを使用して検索インデックスを作成します。検索の問合せは (例えば Windows Explorer や Outlook で) ハードディスク全体ではなく、この検索索引のみを探すので、明確に早く機能します。このインデックスはサイズがハードディスク上のファイルの数に比例するため、多くのメモリを必要とします。

Windows デスクトップ検索を使用しない場合は、検索をオフにすることで、ディスク領域を解放できるだけでなく、コンピュータのパフォーマンスを上げることができます。

9.5. 重複ファイルを検索して削除

この章では、ハードディスクにある様々な重複したファイルやフォルダを見つけて削除するAVG Duplicate Finder モジュールの使用について紹介します。

ハードドライブとはまるでファミリーガレージのようです。不要なものが場所を取っています。SSD ドライブも比較的小さいと思われかもしれませんが、同様です。一目見ただけではわかりませんが、詳しく調べると、ハードドライブにある数十もの重複ファイル (あるいはフォルダ全体) が大切なディスク領域を占領していることが明らかになります。

AVG Duplicate Finder は、コンピュータから重複したフォルダを削除する、面倒だけれども大切な作業の助けとなります。これにより、デジタルジャンクの割合が顕著に減少するはずですが、同じ名前、同じサイズ、または同一の内容のファイルやフォルダを検索します。各ファイルまたはフォルダを調べ、どれを保持するかを決定するために役立ちます。最後に、小さなファイルは無視して、無駄の大きい重複ファイルだけに集中することも可能です。

9.5.1. 重複ファイルの発見方法

AVG Duplicate Finder モジュールを起動するには、スタートセンターのクリーンアップカテゴリから、ストレージ使用状況を解析しデータを削除するの重複ファイルを見つけて削除するを選択します。

次に、[重複を今すぐスキャン] ボタンをクリックし、ハードドライブ上の重複ファイルとフォルダの検索を開始します。デフォルトでは、ディスク全体がスキャンされます。ハードドライブの特定の領域を指定することで、的を絞ることができます。スキャンは通常数秒で完了します。完了すると、AVG Duplicate Finder は新しいダイアログを表示し、ユーザーはスキャンにより検出された重複をすべて見ることができます。

この時点で検出された重複を保持するか削除するかを判断できます。すべての重複はカテゴリごとに並んでいます (フォルダ、画像、音楽、動画、文書、その他)。右側のコラムの名前をクリックすることでカテゴリ表示を切り替えられます。ロールダウンメニューを使用して各カテゴリ (サイズや名前など) からファイルを昇順、降順で選択することもできます。ファイル (例えば、画像) の中には、簡素なプレビューがあるものもあり、ファイルの取扱いを判断する上で便利です。

重複ファイルを含んだフォルダは、重複したフォルダとしてみなされます。フォルダ内にある複数のファイルが同一の

場合、それらファイルは各カテゴリごと(画像、音楽など)に表示されますが、フォルダ全体はスキャン結果ダイアログに表示されません。さらに、フォルダに含まれるファイルが無視するように設定されている場合、そのフォルダが重複としてマークされることはありません。

次の手順は、削除するファイルまたはフォルダの選択です。非常に簡単です - ダイアログの右側にある名前のボックスにチェックを入れるだけです。同じファイルまたはフォルダのすべてのコピーを選択した場合、警告メッセージが表示され、本当にすべて削除してよいかどうかを尋ねられます。これはオリジナルバージョンを誤って削除してしまわないための安全対策です。

1 つまたは複数の重複ファイルかフォルダを選択すると、ダイアログの右下にある [削除] ボタンが有効になります。クリックして、選択した項目を Windows のごみ箱に移動させることを承認します。通常、削除プロセスは数秒で終わります。

カテゴリおよびファイル/フォルダのリストは適切に更新されます。モジュールを閉じるか、またはダイアログの左上にある矢印ボタンをクリックして、新たに重複したものがないかスキャンを開始します。

9.5.2. AVG Duplicate Finder の設定方法

AVG PC TuneUpの中央設定ダイアログにより、ユーザーはAVG Duplicate Finderの動作を調整できます。

これらの設定にアクセスするには、AVG PC TuneUp スタートセンターのメニューバーの設定をクリックし、ナビゲーションバー左側にあるモジュール名をクリックします。同じダイアログにAVG Duplicate Finder モジュールからでもアクセスできます - 画面右上の設定リンクをクリックするだけです。

これより小さなファイルは無視: テキストフィールドを使用して、AVG Duplicate Finder が無視するファイルサイズの最大値 (KB) を設定します。そのようなファイルは AVG Duplicate Finder 検索に含まれないため、モジュールはより大きな問題のある重複に的を絞ることができます。

非表示のファイルとフォルダは無視 チェックボックスを使用して、AVG Duplicate Finder 検索から、非表示のファイルとフォルダを例外として外すことができます。

これらのファイル拡張子は無視: テキストフィールドを使用して、スキャンしないファイルの種類 (拡張子) を指定します。単純にテキストフィールドにそれらの拡張子を入力し、各項目をコンマで区切ります (例、.xls, .doc)。

9.6. 大容量データを検出して削除

この章では、AVG Disk Space Explorer モジュールを使って、ハードディスクのメモリの使用状況をすばやく把握し、効率的に整理する方法を紹介します。

ここ数年で、ハードディスクやメモ리카ードの容量は大幅に増大しました。しかし同時にユーザーの要求度も高まったため、最新型の大容量ドライブでもいっぱいになってしまうことがあります。

デバイスが進化するにつれ、そのような膨大なデータ量の概要をとらえておくのは容易ではなくなってきました。これだけ多くのファイルがあり、フォルダ構造が複雑になっている中で、どうすれば大量のメモリ領域を(場合によっては無駄に)消費しているファイルを見つけることができるでしょうか。

AVG Disk Space Explorer は大容量ファイルを検出します。見つかったファイルは、CD、DVD、外付けハードディスクなどにコピーしてアーカイブできます。場合によっては、ファイルが不要であり、削除しても問題がないことに気付くかも知れません。この方法で、簡単に大量のメモリ領域が解放できます。

9.6.1. 分析を実行する方法

AVG Disk Space Explorer モジュールを起動するには、スタートセンターの **クリーンアップ** カテゴリから、**ディスク使用量** を分析してデータを消去 エリアにある **大容量のデータ** を検出して削除 をクリックします。

モジュールを起動するもうひとつの方法は、スタートセンターの **すべての機能** で **ハードディスク** の項の **大容量データ** を検出して削除 をクリックします。

分析する場所 を選択 してください。

ドライブを分析

コンピュータに接続されているドライブのリストから、大容量ファイルの検索の際に対象となるドライブを選択 します。各ドライブの合計サイズと空き容量 も表示 されます。特に空き容量の少ないドライブを選んで分析 することをお勧め します。

フォルダを分析

個々のフォルダを分析するには非常に時間がかかります。個々のフォルダを分析するには、**フォルダを分析** を有効に します。 **選択** ボタンをクリックすると、すべてのフォルダを含むツリー構造が開くので、その中からフォルダを選択 し、**OK** をクリック します。

次へをクリックして、分析を開始 します。

分析にかかる時間は、選択されたドライブあるいはフォルダの容量と使用量によってはしばらくかかります。分析が完了したら **終了** をクリックすると、メイン ウィンドウに結果が表示 されます。

9.6.2. 分析結果

フォルダ構造

分析後、AVG Disk Space Explorer のメイン ウィンドウが開きます。サービスは2つの領域に分かれています。ウィンドウ左側にはドライブとフォルダのツリーが、Windows エクスプローラと同様の形式で表示されています。ツリー表示で保管場所を選択すると、そこにあるデータは、ウィンドウ右の領域に表示 されます。既定では最近分析されたドライブがまず表示 されます。

中断 のボタンをクリックして分析を停止した場合は、メイン ウィンドウは開きますが、個々のドライブに関する情報は表示 されません。ここからも分析を開始 できますが、一度に分析できるドライブは1つに限られています。

情報の表示

ウィンドウ右側のデータの表示については、上部の各タブをクリックすればいろいろな表示を選択 できます。

どの表示形式でも、リストの列名をクリックするだけで列を昇順または降順に並び替えることができます。特に、サイズを基準に並び替えると、大容量のファイルを見つけやすくなります。

次のビューは、ディスク領域の使用量の表示に使用 されます。

• 概要

既定で有効になっているビュー **概要** は、ディスクのクリーンアップを行うときの最初の手順として最適です。その他すべてのビューからの最も重要な情報がまとめられており、全体的な概要が把握 できます。ウィンド

ウ上部にある、背景に色が付いた領域では、選択した要素についての情報をいつでもツリービューで見ることができます。ここでは個々のドライブについてサイズとメモリ領域の使用率が表示されます。一方、フォルダを選択した場合、この領域にはサブフォルダやファイルをすべて含めたフォルダのサイズが表示されます。また、フォルダの作成日や前回使用の情報も表示されます。

コンピュータ(または、Windows XP の場合はマイコンピュータ)ビューは、**サイズの大きいファイルとフォルダの概要**ではなく、各ドライブの使用領域が表示されるため、1 つ目の表に関する、ある種の例外を表します。

○ **サイズの大きいフォルダとファイルの概要**

ここでは、選択したドライブまたはフォルダのメモリの使用領域が円グラフとして表示されます。表示されたフォルダとファイル最高10個までのそれぞれについて、ここでサイズとメモリ使用率を読み取ることができます。10個以上の表示要素を見たい場合は、**リンク内容を表示**をクリックすれば、**内容**の表示に切り替えられます。

○ **ファイルの種類**

この表は選択された要素に含まれるファイルを各ファイルの種類に従ってまとめたもので、どんな種類のファイルが(例えば文書、音楽ファイル、ビデオあるいは画像)最もメモリを使用するかが一覧で確認できる実用的な表です。

この表示は選択したドライブまたはフォルダに直接位置しているファイルだけでなく、そこに含まれるサブフォルダの中のファイルも対象となることに注意してください。ツリービューで枝分かれの各レベルを選択することで、表示される情報をいつでも限定できます。

特定のファイルの種類でまとめられた個々のファイルを見たい場合は、テーブルで該当するファイルの種類名をクリックしてください。すると、該当する表示のカテゴリ**ファイルの種類**に切り替わります。

○ **上位 10 個のファイル**

このテーブルは、メモリ領域を最も多く使用している上位 10 個のファイルをリストしているので、特に急にディスク領域が不足した場合に役に立ちます。以前のテーブルのように、この表示は選択したドライブまたはフォルダに直接位置しているファイルだけでなく、そこに含まれるサブフォルダの中のファイルも対象となっています。テーブルに表示されているファイル名、または**上位 100 個のファイルを表示**のリンクをクリックすると**上位 100 個のファイル**の表示に切り替わります。そこではファイルの移動、アーカイブ化、削除もできます。

• **目次**

この表示では、ツリービューで選択したコンテンツの要素のリンクに直接ジャンプできます。名前や種類といった Windows エクスプローラにあるような基本情報の他に、各要素に対しそのサイズや潜在的なメモリ使用率も表示されます。見やすい棒グラフで、どのファイルやフォルダが大部分の領域を使用しているかがすぐにわかるようになっています。

フォルダをダブルクリックすると、下のレベルに移動しコンテンツの詳細が表示されます。

• **ファイルの種類**

概要とファイルの種類

既定では便利なファイルの種類の詳細が閉き、最も多くメモリ領域を使用しているファイルが一目でわかります。

ウィンドウの上端に、**画像、ドキュメント、圧縮されたファイル、音楽ファイル、ビデオファイル**とその他のボタンが表示されます。これらのボタンの1つをクリックするか、概要で該当するエントリをクリックすると各ファイルの種類にあるすべてのファイルが表示されます。

詳細：対象となるファイル拡張子は？

各ファイルの種類の後には、例えば画像の場合は .bmp, .jpg, .gif, .tif und .png. のような多数のさまざまな**ファイル拡張子**が隠されています。対象となる拡張子の詳細リストは、**AVG Disk Space Explorer**により自動的にシステムに適合するように調整されます。ウィンドウの右上にある**詳細**のボタンをクリックすると、リストが表示されます。これは、チェックボックスを無効にするだけで合わせることができます。

その他には、どのファイルの種類にも分類できない他のファイルがすべて表示されます。

ここでは、**詳細**ボタンで表示できるファイル拡張子のリストは、下のリストにどのファイルを表示するか設定できるので、特に役立ちます。

コンテキストメニュー（ファイル拡張子のリストを右クリックして開く）では、すばやくすべて選択したり現在の選択を反転したりできます。

探求の好奇心を働かせ、利用できる表示をクリックして、ディスク空き領域が確保できる候補を識別してみてください。ファイルのサイズや最後にアクセスした日付順に並べ替えることで、興味深いファイルが見つかることもあります。それにはマウスで該当する欄のグレーのタイトルをクリックします。

クリーンアップのヒント:特定のファイルの種類に限定して最近アクセスした日付ごとに分類すると、例えばもう視聴しないような古いMP3ファイルやビデオを掘り出すことができます。

• 上位 100 個のファイル

多くのユーザーにとって、この表示が最も興味深いかもしれません。ここでは、ツリービューで選択された場所にあるファイルのうち、サイズが大きい順に 100 個が表示されます。その際、すべてのサブフォルダの中身も対象になるので、システムのデータ量により数百メガバイトから数ギガバイトまでを、わずかなクリックだけで解放できます。

9.6.3. AVG Disk Space Explorer を設定する方法

AVG Disk Space Explorer は、システムの外観をカスタマイズするオプションを提供します。該当するオプションをカスタマイズするには、**ファイル、設定**の順にクリックしてください。

ファイルとフォルダを分析

非表示のファイルとフォルダセクションでは、非表示のファイルとフォルダが**AVG Disk Space Explorer**で表示されるべきか否かを指定できます。既定では、Windows Explorer 設定が適用されます。もし Windows Explorer から外れた設定を指定したい場合は、**ユーザー定義の設定**の項目を選択し、希望に従ってオプションを設定します。デフォルトでは、**AVG Disk Space Explorer**がシステムフォルダ内のすべての要素を保護し、大事なシステムファイルの誤った削除や移動を防ぎます。システムに関し完璧に精通しているユーザーであれば、**保護されたシステム要素**のセクションで、この保護をオフにすることもできます。それには、**保護を無期限に無効にする**のチェックボックスを有効にします。

削除方法

削除方法セクションでは、デフォルトとして**AVG Disk Space Explorer**がどの方法で削除を行うかを設定できます。既定で設定されている削除方法**ごみ箱へ移動**は、誤って削除してしまったファイルの復元ができるので、特に初心者におすすめされます。

しかし Windows のごみ箱は、無限にデータを入れられるものではない、ということに注意してください。データのごみ箱の容量を超えるか、あるいは Windows がもっと空き容量を必要とすると、ごみ箱の古いファイルは最終的に削除されます。

削除方式 **決定的に削除** を選択すると、削除するファイルは Windows のごみ箱に入らず、直接削除されます。この方法を使用した場合、後にファイルを復元することが出来るかどうかは運次第ですが、**AVG Undelete** のような特別なソフトウェアがあれば可能となります。

その他の 3 つの削除方式では、**AVG Shredder** が使用され、削除されたファイルの復元は実現不可能となります。

9.6.4. ファイルをアーカイブする方法

AVG Disk Space Explorer でファイルをアーカイブする

コンピュータの中を探すうちに、不要だがまだ削除したくないファイルが見つかった場合、**AVG Disk Space Explorer** はそのジレンマを解決する便利な機能を備えています。

Windows Explorer とのスムーズな連携により、例えば、見つけたファイルを削除の前に USB スティックや外付けハードディスクに問題なくコピーすることなどができます。

1. 選択したファイルをクリックし、メニューの **編集でコピー** を選択するか、ショートカットキー [Ctrl + C] を押します。
2. Windows Explorer でコピー先のドライブを開き、コピーしたファイルをメニューの **貼り付け** をクリック、またはキーボードで [Ctrl + V] を押して、そこに貼り付けます。

主要な CD/DVD 作成プログラムがすべてサポートされているため、ファイルを CD または DVD に簡単にコピーすることができます。希望のファイルをマウスキーを押しながら (ドラッグ & ドロップで) 焼付けプログラムのリストに引き入れます。

アーカイブされたファイルを AVG Disk Space Explorer で削除する

ファイルを無事アーカイブ保存したら、**AVG Disk Space Explorer** で削除して、貴重なディスク領域を確保することができます。それには、ファイルを選択し、ツールバーの **削除** をクリックします。

9.7. データを確実に削除する

この章では、**どのように AVG Shredder** モジュールを使用して、ファイルやフォルダ、ごみ箱を完全に削除するか、またそれが**どうして重要**であるのかを説明します。

データを後から確実に削除する

機密のファイルを「通常」の方法で削除してある場合は、**AVG Shredder** を使用して削除しなおすことはできません。ただし、ここでヒントを紹介しましょう

ハードディスクのデフラグを行うと、通常は、**削除済みのファイルが上書きされてもはや復元不可能**になります。後から通常の削除方式の確実性を高めるため、まず **AVG Drive Defrag** をお使いください。([ハードディスクをデフラグする方法](#) を参照。)

削除したファイルは、通常、ごみ箱に移動します。Windows のごみ箱は、削除の対象であるファイルを集めたフォ

ルダに過ぎません。ごみ箱からファイルを取り出すのは簡単で、頻繁にごみ箱を空っぽにしたり、ごみ箱に送ることなく直接ファイルの削除を行い、ファイルが安全に削除されたと思い込んでいます。

ファイルの削除を行う際、Windows は全体を削除するわけではなく、実際はハードディスクにコンテンツが残っています。Windows はファイルシステムからそのファイルを単に「削除済み」としてマークし、ファイルが取っていたスペースを再び使用できるようになるだけです。このディスク領域が新たに使用されない限り（例えば、AVG PC TuneUp -> 削除されたファイルを復元するを使って）、そこにあったファイルを復元することは難しくありません。

大切なファイルを、プロでさえ復元不可能になるように確実に削除したい場合は、AVG Shredderを使って、ファイル、フォルダ、ごみ箱を完全に削除することができます。削除方法の中から適切なものを選択できます。

9.7.1. データを確実に削除する方法

AVG Shredderモジュールを起動するには、スタートセンターのクリーンアップより、ディスク使用量を分析してデータを削除にあるデータを確実に削除を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターのすべての機能で、ハードディスクにあるデータを確実に削除を選択します。

何を削除しますか？

ファイル

1. ファイルを選択します。

このオプションでは、コンピュータにあるファイルを検索し、削除対象を選択することができます。

2. 追加をクリックして、削除するファイルをリストに入れてください。

Explorer が開きます。削除するファイルをダブルクリックすると、リストに追加されます。または、開いた Explorer またはデスクトップからファイルをドラッグし、リストにドロップ（ドラッグ&ドロップ）することもできます。それには、ファイルを選択し、マウスボタンを押したままリストまで移動させます。

割り当てられた空き領域を削除するのオプションは、ファイルの削除によって解放されたディスク領域を上書きし、削除の確実性を高めます。

ファイルを誤ってリストに追加してしまった場合は、そのファイルを選択し、削除ボタンを押せば削除できます。

3. 入力内容を確認し、次へをクリックします。

次に、希望の削除方法を選択します（削除方式を参照）。

フォルダ

1. フォルダを選択します

このオプションでは、コンピュータにあるフォルダを検索し、削除対象を選択することができます。フォルダを削除すると、その中に含まれているファイルもすべて削除されます。削除するフォルダを選択する際、サブフォルダがあるかどうかを確認され、サブフォルダを検索対象から除外することができます。

2. 選択をクリックします

フォルダのツリービューが開きます。削除するフォルダを選択し、**OK**をクリックします。また、削除するフォルダの完全パスをテキストボックスに入力する方法もあります。

割り当てられた空き領域を削除するのオプションでは、選択したフォルダのファイルのために保留されていたディスク領域が上書きされるため、削除の確実性が高まります。

選択したフォルダにサブフォルダがある場合は、サブフォルダを検索対象から除外することができます。**サブフォルダを含む**チェックボックスのチェックを外します。

3. 入力内容を確認し、**次へ**をクリックします。

次に、希望の削除方法を選択します (削除方式を参照)。

ごみ箱

1. **ごみ箱**を選択してください。

このオプションでは、ごみ箱が表示され、空にすることができます。ごみ箱に入っているファイルの総数や、ごみ箱が使用しているディスク領域のサイズの情報が表示されます。また、削除する前に中身を表示することができます。

2. **内容を表示**をクリックします。

ごみ箱のサイズと中に含まれているファイルの総数が表示されます。ごみ箱の中に大切なファイルが含まれていないか確認するため、削除の前に中身を表示させることができます。

割り当てられた空き領域を削除するのオプションをオンにすると、ごみ箱の中のファイルのために保留されていたディスク領域が上書きされるため、削除の確実性が高まります。

3. 入力内容を確認し、**次へ**をクリックします。

次に、希望の削除方法を選択します (削除方式を参照)。

9.7.2. 削除方法

AVG Shredderには、次の3つの削除方法が用意されています。3つの方法の違いは、削除にかかる時間と削除の確実性にあります。各削除方式の削除プロセスを繰り返すことで、さらに確実性を高めることができます。ただし、削除にかかる時間は長くなります。

すばやい削除

データが単一の文字で上書きされます。ファイルに保存されていた元のテキストは失われ、無限の縦の列に並べられた特定の文字に取って代わります。

DoD 5220.22-M 方式による確実な削除

米国防総省準拠方式 (政府ガイドライン DoD 5220.22-M) が使用されます。ファイルは削除前に特定のデータパターンによって何度も上書きされ、これで元の内容は確実に破棄されるので、特別実験室で高価なドライブの磁気構造スキャンを行っても上書きされたデータは修復できなくなります。

Gutmann (グートマン) 方式による確実な削除

考案者のペーター・ゲートマンにちなんで名付けられたこの削除方法では、削除するデータがランダムな値によって特殊なパターンに基づいて35回上書きされた後、削除されます。この方法は最も確実だとされていますが、同時にソフトウェアによるデータ削除方法の中でも最も時間のかかる方法でもあります。

10. 問題の修正

コンピュータで作業をしていると、ときには思ったとおりに行かないこともあります。問題の修正は、AVG PC TuneUp に生じた問題を検出し修正する様々な機能を備えています。さらにこのプログラムは、誤って削除したファイルを復元するのにも役立ちます。よく修正される問題には、最もよく使うトラブルシューティング機能があり、クリックすることで開くことができます。

上級ユーザーにはプロセスを管理しシステム情報を表示する領域で、実行中のプロセスを管理したり、システム情報を表示することができるようになっています。

システムへの変更はすべてAVG Rescue Centerによって監視されており、必要に応じて変更を取り消すことも可能です。



典型的な問題の修正

AVG Repair Wizard はコンピュータや表示の典型的な問題を即座に修正します。Windows ユーザーから頻繁に報告される問題のリストから、該当する問題を選択し、わずかなクリック操作だけで修正することができます。たとえば、デスクトップ上に表示されていないアイコンを、クリック1つで再び表示させることができます。

詳細は、[典型的な問題の修正](#)をご覧ください。

ハードディスクエラーを検査

AVG Disk Doctor モジュールは、システムのドライブを分析し、ファイルシステムに欠陥やエラーがないか検査します。問題が見つかった場合、AVG Disk Doctor がその問題を瞬時に修正します。

詳細は、[ハードディスクエラーを検査](#)をご覧ください。

削除されたファイルの復元

AVG Undelete モジュールで、既に削除したファイルをごみ箱から復元することができます。さまざまな基準で削除されたファイルを検索することができます。ここで特に興味深いのは、外部記憶媒体 (USB スティックなど) にファイルを復元できることです。

詳細は [削除されたファイルの復元](#) をご覧ください。

動作プロセスを表示または閉じる

AVG Process Manager モジュールは実行中のプロセスと開いているファイルの詳細を表示します。実行中のプロセスを制御することで、プロセッサ使用率、メモリ使用率、および開いているファイルを正確に管理することができます。

詳細は、[実行中のプロセスを管理する](#)をご覧ください。

システム情報を表示する

AVG System Information は実行中のプロセスと開いているファイルの詳細を表示します。実行中のプロセスを制御することで、プロセッサ使用率、メモリ使用率、および開いているファイルを正確に管理することができます。

詳細は、[システム情報を表示する](#)をご覧ください。

10.1. 典型的な問題の修正

この章では、**なぜ典型的な問題の修正が有用なのか**、またどのようにAVG Repair Wizard モジュールを使用して、簡単に典型的な問題を修正できるのかを説明します。どのような問題が生じたかを選択するだけで、AVG Repair Wizardが修正を実施します。

コンピュータで日常的に作業を行っているとき、さまざまな問題が発生します。何もしていないのに予告なしで誤ったアイコンが Windows によって表示されたり、デスクトップに表示されているショートカットが消えたり、タスクバーが表示されなくなったりします。

お使いのコンピュータに同様の問題が生じ、自分で解決できない場合は、この機能が役立ちます。コンピュータの典型的な問題のリストから、お使いのPCに生じた問題を選び、AVG Repair Wizardは即座に修正します。

10.1.1. 典型的な問題を修正する方法

AVG Repair Wizardモジュールを起動するには、スタートセンターの**問題の修正**カテゴリより、**システムをチェックして問題を修正するの典型的な問題を修正する**を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターの**すべての機能**から、**Windowsの典型的な問題を修正する**を選択します。

修復したい問題を選択します。AVG Repair Wizardにより Windows に生じる典型的な問題をわかりやすくまとめた一覧が表示されます。一覧にある項目を選択すると、ウィンドウの右側に詳しい説明が表示されます。お使いのコンピュータで生じている問題のチェックボックスをオンにしてください。

次へをクリックすると修正が開始されます。選択した問題の一覧が表示されるので、確認してから次へをクリックします。修復が開始されます。

終了 をクリックして、モジュールを閉じます。

10.2. ハードディスク エラーを検査

AVG Disk Doctor モジュールを使用してドライブを分析する方法となぜそれが重要であることを説明します。

コンピュータでの作業の際には、テキスト書類を編集するのでも、画像を見るのでも、ただアプリケーションを起動するにしても、常にファイルの読み取りと書き込みが行われます。そのためWindows は必要な情報にいつでもすぐアクセスできるように、特別なファイル システムの中にすべてのファイルを保存しています。

システム ファイルについての詳細

ファイル システムは、各 ファイルとフォルダをドライブに記録して、名前・容量・最後に使用した日付・ファイルの保存場所などのリストを保存します。

ハードディスク、USB メモリスティック、メモ리카ード (例えばデジタルカメラの)、ディスクのため Windows で使用されているファイル システムは FAT やNTFS と呼ばれています。2つのファイル システムで新しい方の NTFS は FAT に比べ、アクセス許可のような追加の情報の保存が可能なので、大容量の最新のドライブにより適しています。

年月が経つにつれ、古くなったディスクの欠陥、停電、あるいはソフトウェアのクラッシュなど、知らないうちに複雑なシステム エラーが生じてきます。そのようなエラーを早めに見つけて修復しなければ、エラー メッセージやプログラムの問題が生じ、最悪の場合は大事なデータを完全に失ってしまいます。

AVG Disk Doctor は、ドライブとそこに含まれるファイル システムの徹底的なスキャンを実行します。スキャン中にエラーが発見された場合には、自動的に修復されます。それにより、データの損失を防ぐことができます。

10.2.1. ハードディスクを検査する方法

AVG Disk Doctor モジュールを起動するには、スタートセンターの問題の修正カテゴリに行き、システムをチェックして問題を修正する領域のハードディスクエラーの検査を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターですべての機能に移動し、ハードディスクにあるエラーをチェックを選択します。

AVG Disk Doctor によってどのドライブを検査するかを選択し、次へをクリックします。

通常 の分析または詳細な分析を選択します。

大容量ドライブの場合、詳細な分析には時間がかかるので、たいいてい場合は選択したドライブの通常 の分析を実行すれば十分です。これなら通常 1、2分で終了します。

それでもシステムにエラーが生じたり Windows による読み取り・書き込み処理に問題がある場合は、詳細な分析実行してください。

次へをクリックして、分析を開始します。

分析実行中、AVG Disk Doctor が進行状況をグラフィック表示します。表示されたボックスは、各ドライブの使用領域を表しています。

エラーが検出されない場合、終了してモジュールを閉じます。

たいいていの場合、分析を正しく行うため、あるいはコンピュータを修復するために再起動が必要となります。これは例えば、実行中のプログラムまたは Windows 自体が選択したディスクにアクセスしているため、AVG Disk Doctor の独占的なアクセスが妨げられている場合などに、起こることがあります。

AVG Disk Doctorによりメッセージが表示された場合には、再起動が必要になります。その際、ただちに再起動するか、後で手動で再起動するかを決めることができます。

10.2.2. 標準 対 詳細な分析

標準分析

通常分析は約1～2分で通常十分です。

通常分析は複数のステップに分けて実行されます。以下の表にすべてのステップが示されています（通常分析で行われるのは、最初の3行のステップのみです）。

詳細な分析

詳細な分析ではまず通常分析で行われるすべてのステップが含まれています。それに加えて、ドライブの物理的な問題が分析されます。

ドライブの空き領域は、通常 512 バイトのいわゆる [セクター] に分かれています。ドライブの物理的な欠陥を調べるために、詳細な分析ではこの各セクターの機能のパフォーマンスを調査します。

この分析にかかる時間は、種々の要因、たとえばドライブの容量や断片化の度合いによって異なります。いずれにせよ、最低 5 分から 20 分かかります。

以下の表ですべてのステップを確認できます。

分析ステップ	説明
通常分析と詳細な分析	
ファイルとフォルダを分析 (NTFS と FAT)	ファイルシステムの各要素を分析します。その際、すべてのファイルとフォルダの構造が正しいかどうかを検証されます。
インデックスの確認 (NTFS のみ)	NTFS ファイルシステムのフォルダのインデックスを確認します。インデックスが損傷している場合は、そのフォルダはファイルシステムに表示されなくなります。ファイルあるいはフォルダが突然見えなくなった場合は、ファイルシステムを修正すると解決できることがあります。
セキュリティデスクリプターの確認 (NTFS のみ)	NTFS ファイルシステムのファイルおよびフォルダは、セキュリティ記述子によって保護されており、登録されていないユーザーからのアクセスを防ぎます。分析によりこの記述子にエラーが確認された場合には、修正されます。
詳細な分析のみ	
ファイルデータを確認 (NTFS のみ)	現在データが格納されているディスクのすべてのセクターが分析されます。これにより、ファイルを扱う際に読み取りエラーが起こらないようにします。データ読み取り時

	に複数回の読み取りが必要となったことが検出されると、そのセクターに含まれるファイルデータは、エラーが無いセクターに移動されます。そして一度で読み取りができなかったセクターを損傷ありとします。将来的な問題を軽減させることが可能となります。
ディスク領域の確認 (NTFS とFAT)	ドライブ内の、ファイルの存在しないすべてのセクターを確認し、エラーなしで読み取りができるかどうかを調査します。この調査でエラーが確認された場合には、そのセクターは損傷ありとされ、それによりその後ファイルが使用されることを防ぎます。

10.3. 削除されたファイルの復元

この章では、どのように AVG Undelete モジュールを使用して、誤って削除したファイルを復元できるかを説明します。

誤って削除してしまった大切なファイルを復元したい。ごみ箱の中を調べても見つからない。

そんな場合はAVG Undeleteの機能が役に立ちます。削除されたファイルが占めていたディスク領域をWindowsが上書きしていない間は、復元が可能です。

ファイル復元の重要なヒント

おおまかな規則として、ファイルの削除から時間がたてばたつほど、その後コンピュータで行った作業が多ければ多いほど、ファイルを完全に復元できる可能性は低くなります。それゆえ間違いに気付いたら、直ちにAVG Undeleteで復元を試してください。

どんなことがあっても、削除済みファイルの復元のためにソフトウェアをシステムにインストールしないでください!!ソフトウェアをインストールする際に、重要なデータが上書きされ、永久に失われる可能性があるからです。

たとえアプリケーションを別のドライブにインストールしたとしても、一時インストールファイルによって削除済みデータに危険が及びます。このためAVG Undeleteのようなデータ復元ソフトウェアは、事前にインストールされ、いつでも使用できる状態であればなりません。そうすれば、仮に問題が生じても準備万端の状態であることができます。

10.3.1. 削除されたファイルを探し出す方法

AVG Undeleteモジュールを起動するには、スタートセンターの問題の修正カテゴリから、システムをチェックして問題を修正するにある削除済みファイルの復元を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターのすべての機能から、ハードディスクの削除されたファイルを選択します。

削除されたファイルを検索したいドライブを選択します。

外部記憶媒体 (USB スティックなど) のファイルを復元したいときは、それも選択肢に含まれます。

ファイルのあった場所が思い出せない場合は、すべてのドライブを選択します。

検索対象を絞ります。検索は、検索語を入力して対象を絞ることができます。これは、ファイル名やその一部を覚えているときに効果的です。

検索のヒント: プレースホルダの "*" や "?" を使用しましょう

検索単語を入力する際、いわゆる**プレースフォルダ**を使用することができます。使い方は一般の検索エンジンと同じです。

ファイルの明確な名前が思い出せないときや、特定の**ファイル拡張子**だけを探したいとき、検索にプレースホルダを使用すると便利です。

* と? はプレースホルダであり、* は複数の文字を表し、?は単一の文字を表します。

プレースホルダの使用例:

- **photo*** で検索すると **photo** で始まる名前のすべてのファイルの種類が見つかります: photo_01.jpg、photo.bmp、photo_paris.tif など。
- **photo***を検索するあるいは**foto** (プレースホルダなし)での検索では **foto** が名前につくすべてのファイルの種類が見つかります: foto.jpg、foto.doc、foto.tif など。
- ***.doc**で検索すると、拡張子が .doc のファイルがすべて見つかります。
- **photo_??** で検索すると、photo_ で始まって名前にさらに2文字つく全てのファイルの種類が見つかります: pfoto_01、photo_09 など。

なぜ 0 バイトのファイルを検索する必要があるのですか?

0 バイトのファイルは、ファイル名だけから成ります。そのようなファイルの内容を復元することはできません。たとえば、極秘のファイル名を持ったファイルを削除した後、そのファイルが絶対に人の目に触れないことを確実にしたい場合は、0 バイトのファイルを検索対象に含めます。

状態の良いファイルだけを検索するのはなぜですか?

状態の良いファイルは、完全に復元できる可能性が高いからです。

次へをクリックすると検索が開始されます。

AVG Undeleteは選択された各ドライブを検索します。ハードディスクの容量が大きく、検索語を入力しなかった場合は、検索処理に多少時間がかかります。

検索結果は、ファイル名、元の保存場所 (フォルダ)、サイズ、ファイルの種類、最後に変更を加えた日時、**ファイルの状態の査定**が表示されます。

10.3.2. ファイルの復元

削除されたファイルの状態

削除された各ファイルについて、**AVG Undelete**がどのような状態にあるのかを査定します。その時点でユーザーがもっとも知りたいこと、つまりファイルが完全に復元可能かどうか、正確に予測されます。

良好な状態

ファイルの状態が良好と査定されるのは、そのファイルが占めていたハードディスクの領域がまだ別のファイルに使用されていないときです。この場合、高い確率でファイルを完全に復元することができます。

悪い状態

ファイルの状態が悪いと査定されるのは、そのファイルが占めていたハードディスクの領域が、一部すでに別のファイルによって上書きされている場合です。それでも、少なくともファイルの一部を復元できる可能性があります。ただし、復元の結果がどうなるかは、この時点では正確に予測できません。

ファイルの復元

1. 復元したいファイルを選択します。

複数のファイルを選択する場合は、Ctrl キーを押しながら操作します。

2. **復元** をクリックして、ファイルの復元を開始します。

3. ファイルを元の場所に復元するか、別の場所に復元するかを指定します。

別の場所を選択した場合は、フォルダ構造が開き、フォルダを選択するか、新しいフォルダを作成できます。入力内容を確認し、**OK** をクリックします。

AVG Undeleteにより、選択したファイルが指定の場所に復元されます。

ダイアログはいつでも**キャンセル**のボタンをクリックすれば閉じることができます。

復元が正常に実行されましたか？

復元処理が完了したら、そのファイルを通常の操作で開いてみます。うまく開いた場合は、ファイルの復元が成功したことになります。開かない場合は、そのファイルがすでに他のファイルによって上書きされていると思われます。

すべてを試みた後、他のプログラムを使って削除済みファイルを復元したい場合、対象のファイルが保存されているのと同じハードディスクにインストールしないことを強くお勧めします。

10.4. 実行中のプロセスを管理する

この章では、どのようにAVG Process Managerモジュールを使用して、実行プロセス、システムキャパシティと開いたファイルを監視・管理できるのか、さらに、なぜそれが重要なのかを説明します。

AVG Process Managerを使用すると、システムで実行中のプログラムやプロセスを常に把握し、システムの活動を概観することができます。

これにより、現在どのプロセスによってどのメモリが使用されているのかを見つけ出し、数多くの詳細情報を把握し、不要なプロセスをクリック1回で終了できます。

絶えず更新されるリアルタイムグラフィックで、プロセス使用率やメモリ使用率の変化を観察し、システムの現在の状態に関するさまざまなデータを見ることができます。

10.4.1. 実行中のプロセスを管理する方法

AVG Process Manager モジュールを起動するには、スタートセンターの**問題の修正**カテゴリより、**プロセスを管理してシステム情報を表示**の実行中のプロセスの表示と終了を選択します。

このモジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターの**すべての機能**から、**Windowsの実行中のプロセスの表示と終了**を選択します。

AVG Process Managerは、システムの現在のステータスに関する様々な情報を表示します。個々のファクトは3つのタブにまとめてあります：

プロセス

モジュールの起動後、**プロセス**のタブに現在実行中のすべてのプログラムとプロセスが表示されます。このとき、プロセス名とその優先度、そして当面のCPU使用率を一覧にて確認できます。このモジュールでは、各プロセスがメモリ内でどれだけの使用しているかも表示されます。

一覧からプロセスを1つ選択すると、**詳細を表示**によって各アプリケーションの詳細情報を表示できます。**プロセスを終了**をクリックすると、アプリケーションは強制的に閉じられます。これは少々大胆な方法ですが、プログラムがクラッシュしたあと、あるいはスパムのダイアラーを除去したい場などに役立ちます。

ユーザーアカウント制御が有効な場合は、ユーザーが自分で起動したプロセスだけを最初に表示することができます。その他のユーザーのプロセスとシステムプロセスそのものを表示するには、この場合ウィンドウの下のヘリにある**すべてのプロセスを表示**のボタンをクリックしてください。

リストでプロセスを選択すると、**編集**メニューの**プロセスの優先度を設定**で、Windowsがそのプロセスにパフォーマンスをどのくらい割り当てるか指定することができます。

開いているファイル

開いているファイルのタブには、現在開いているファイルとフォルダの一覧があります。一覧にはファイルの種類、ファイルやフォルダがどこに存在するか、また現在どのプロセスによって開かれているかが表示されます。

リストにファイルが複数回表示されることがあります。ファイルやフォルダは、同時に複数のプロセスにより開かれることがあります。さらに、明らかに"開いている"ファイルがリスト表示されないことも珍しくありません。Microsoft Word やテキストエディタの Notepad のようなアプリケーションは、コンテンツを読むまたは保存のために少しの間だけ開き、作業中ずっと開いておくことはすべきではありません。

ヒント: ファイルを削除しようとして、現在使用中というエラーメッセージが出る場合は、どのプロセスが関係しているかをここで見つけ出し、終了することができます。こうすることで、その後正常に削除できます。

パフォーマンス

パフォーマンスのタブには、システムに関する多数のファクトがあります。

現在のプロセッサ使用状況と過去数秒間のプロセッサ使用状況をグラフで閲覧できます。過去数秒間のメモリ使用状況を示すグラフも表示されます。ページファイルとメモリの現在の使用状況がキロバイトで表示されます。

また、メニューバーとツールバーも用意されています。ここで使用できる機能の一部は、アクティブなタブの内容に合わせて動作します。これについては、上記のそれぞれの項目に説明があります。**ファイル**、**ツール**、**ヘルプ**の各メニューには、一般的な機能が常に表示されています。

メニューバーの一般機能

メニュー"ファイル"

ファイルメニューの **新規アプリケーション** をクリックすると、Windows の [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開き、新しいアプリケーションを起動したり、ファイルを開いたりできます。**Windows を終了** では、コンピュータをシャットダウンしたり、再起動したり、新しい設定を有効にすることができます。

特に注目の機能は **タスクマネージャを置換する** で、システム上の Windows タスクマネージャを **AVG Process Manager** に置き換える働きをします。これはショートカットキーの Ctrl+Alt+Del で呼び出すか、タスクバーの何もないところを右クリックしてコンテキストメニューから選択できます。タスクマネージャを置換を再び元に戻したい場合は、同じメニュー項目をクリックし、表示されているチェックマークを取り除いてください。

[ツール] メニュー

ツールメニューでは、コンピュータ上での **AVG Process Manager** の表示形式を設定できます。たとえば、システム実行時のプロセッサ使用率を監視するために、常に手前に表示させることができます。ウィンドウを最小化したときに、デスクトップ右下の通知領域に **AVG Process Manager** が表示されるように設定できます。通知領域に表示されたアイコンをクリックすると、いつでもすばやく最大化できます。

[ヘルプ] メニュー

ヘルプメニューでは、いつでもプログラムヘルプを開いたり、AVGウェブサイトアクセスしたり、**AVG PC TuneUp** の更新の有無を確認したり、**AVG PC TuneUp** のバージョン情報を表示することができます。

10.5. システム情報を表示する

この章では、どのように **AVG システム情報** モジュールを使用してシステム情報を表示するのかを説明します。

AVG システム情報 は、コンピュータの内部を調べ、ハードウェアやソフトウェア、コンピュータの性能についてさまざまな統計と情報をまとめます。

これらの情報は、コンピュータをアップグレードしたいときや、コンピュータに特定のコンポーネントが内蔵されているかどうかを知りたいときなどに役立ちます。

10.5.1. システム情報を表示する方法

AVG システム情報 モジュールを起動するには、**スタートセンターの問題の修正** より **プロセスを管理のシステム情報を表示** の **システム情報を表示** を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、**スタートセンターのすべての機能** から、**コンピュータのシステム情報を表示** を選択します。

システムについて個々のデータが次のような新しいタブに表示されます：

概要

ここではコンピュータの主要なコンポーネントについての情報がまとめて表示されます。どんなプロセッサが内蔵されているか、メモリの状態、ビデオカードの性能、使用しているマウス、ドライブについて表示できる統計データの種類などが一目でわかります。

Windows

ここで、Windows のバージョン、前回 コンピュータを起動したのはいつか、Internet Explorer のバージョンがわかります。

ディスプレイ

ここではすべての基本情報、モニターとビデオカードによってサポートされている表示モードや機能が表示されます。

メモリ

ここで現在のメモリ使用量が見られ、現在読み込まれている各アプリケーションのメモリ使用量が表示されます。

パフォーマンス

プロセッサ使用率、物理メモリ ページング ファイルのサイズについてすべてのデータが表示されます。これらの情報は、3 つのリアルタイム グラフで表示されます。

ドライブ

ここではメモリ使用領域とハードウェアのドライブごとの情報が得られます。ファイルシステムでは、ドライブのファイル編成についての情報が表示されます。

I/O デバイス

ここでは、主要なポート、インストールされているプリンタ、オーディオ デバイスが表示されます。

通信

オンライン接続中、2 つのリアルタイム グラフによって毎秒の送受信データがキロバイト単位で表示されます。

システム デバイス

ここにはプロセッサとBIOS に関する情報が表示されます。プロセッサの詳細のリンクをクリックすると、プロセッサ性能の特徴を詳細に見ることができます。

11. カスタマイズ

カスタマイズカテゴリを使用して、Windows の外観や動作を詳しく設定し、コンピュータをカスタマイズすることができます。よく使われる設定では、ユーザーにより頻繁に変更された要素とWindows の領域が表示されており、簡単なクリックで開くことができます。

システムへの変更はすべてAVG Rescue Centerによって監視されており、必要に応じて変更を取り消すことも可能です。



Windows の設定を変更する

オプションと動作を別々にカスタマイズには、視覚効果、ユーザーログオン、デスクトップ環境などをユーザーのニーズと好みに合わせて調整できるAVG System Controlモジュールがあります。

詳細は、[オプションと動作を個々にカスタマイズ](#)をご覧ください。

Windows の外観を変更する

Windows の外観をカスタマイズするには、モジュールAVG Stylerモジュールがあり、これを用いてWindows のインターフェイスをお好みにカスタマイズできます。例えば、アイコン、ログオン画面、ウインドウとボタンの外観、その他多数を全く簡単に変更できます。

全く新しいデザインにしたい場合は、インターネットのからデザインのパッケージ全体をダウンロードすることができます。そのためには、[新しいWindowsのデザインを無料でダウンロードする](#)をクリックするだけです。

詳細は[Windowsの外観をカスタマイズする](#)をご覧ください。

11.1. オプションと動作を個々にカスタマイズ

AVG System Controlモジュールを起動するには、スタートセンターのカスタマイズカテゴリより **Windows の設定を変更するのオプションと動作を個々にカスタマイズ**を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターの**すべての機能**より **Windows**にあるWindows の設定を変更するを選択します。

AVG System Controlウインドウの左側に、設定オプションを含むさまざまなカテゴリが表示されます。

各カテゴリはサブカテゴリに分かれています。サブカテゴリをクリックすると、右側に設定オプションを含んだタブが表示されます。

そこには、すべての設定オプションについての詳しい情報が、カテゴリ別にウインドウの左側に表示されています。

ディスプレイ

ここでは Windows の視覚効果の詳細設定およびファイルの種類に関する設定、またフォルダウインドウとエクスプローラの外観と動作の設定が実行できます。

ここでは、設定オプションの詳細が、ウインドウ左側でサブカテゴリに分類されて表示されます：[表示](#)

操作

マウスとキーボードの設定、スタートメニューの要素やサブメニューを開く速度、タスクバーの外観と動作の設定を行うことができます。

ここでは、設定オプションの詳細が、ウインドウ左側でサブカテゴリに分類されて表示されます：[使用](#)

通信

このカテゴリでは、ネットワーク上の Windows の動作を設定でき、Internet Explorer や Outlook Express、Office Outlookなどをニーズに合わせてカスタマイズ、Web上のサーフィンをスピードアップ、プライバシーを保護、そして特定のプログラムが自動的にユーザーの検索習慣を自動的に送信するのを阻止することができます。

ここでは、設定オプションの詳細が、ウインドウ左側でサブカテゴリに分類されて表示されます：[通信](#)

管理

AVG System Control のこのカテゴリを使用すれば、多数のシステム内部の設定をチェックすることができます。例えば起動プロセスやユーザー ログオンをカスタマイズし、CDの自動再生やシステムパス、ユーザー情報を設定し、またコマンドプロンプトのデフォルト設定もカスタマイズすることができます。

ここでは、設定オプションの詳細が、ウインドウ左側でサブカテゴリに分類されて表示されます：[管理](#)

ウィザード

ここに [設定をコピーする] のウィザードがあります。このウィザードは、ユーザーの設定を他のユーザー アカウントや Windows のログオン画面にコピーします: [ウィザード](#)

11.1.1. ディスプレイ

アニメーションと効果

効果

ここでは Windows インターフェースの表示と操作方法に関連した設定を変更できます。

設定のセクションでは、多数のオプションが一覧になっており、これらをチェックボックスで有効あるいは無効にすることができます。

それぞれのオプションについて詳細を参照するには、該当するオプションを選択してください。説明のセクションでは、長い説明が開きます。

不要な効果をオフにすると、システムの性能によっては速度の向上につながる場合があります。Windows が提示する素晴らしい画面スタイルをすべて表示して選択したい場合は、**デザインを優先** をクリックしてください。パフォーマンスの方が重要である場合は、**パフォーマンスを優先** をクリックします。**デフォルト設定** で、Windows の設定をデフォルト値に戻すことができます。

アニメーション

ウィンドウおよびメッセージのアニメーションのセクションでは、ウィンドウまたはツールチップをアニメーションとして表示するかどうかを指定します。ここでは、ウィンドウを最大化や最小化するときにアニメーションをオンにすることができます。

がツールチップがオンの状態でアニメーションを使用する場合、リストから希望の効果を選択します。

要素のアニメーションのセクションでは、どの表示及びコントロール要素の場合にスクロールをアニメーションにするか、そして展開をアニメーションにするかを選択することができます。リストビューとツリービュー、リストボックスおよびドロップダウンリストの3つのオプションを切り替えられます。

パフォーマンスを優先 をクリックすると、効果のみを追求したオプションはすべてオフになります。**デフォルト設定** を選択し、Windows のデフォルト設定に戻すことができます。

メニュー外観

アニメーションのセクションでは、メニュー項目をクリック後に非表示にするかどうかを決定できます。また、一覧の中から表示効果を選択できます。

効果のセクションでは、Windows のフラット 2D メニューを使用するか、開かれたメニューの下側に 3D のドロップシャドウを表示するかどうかを選択できます。

フォントスムージング

コンピュータ上でフォントをより読みやすくするため、好みのフォントスムージングを選択することができます。特に注目のスムージングスタイルは、**ClearType** です。これは、液晶ディスプレイ (TFT、LCD) に適したスタイルで、サブピクセルを利用して小さな文字も読みやすくスムージングします。ClearType スムージングをディスプレイに合わせて最適に設定するには、**ClearType** を選択し、**Clear Type の設定** をクリックします。

ファイルの種類

メニュー操作

ドライブおよびフォルダのセクションでは、そのコンテキストメニューを設定します。

項目[ここでコマンド プロンプト]を表示するは、希望の場所にコマンド プロンプトを開きます。コマンド プロンプトでは、DOS コマンドが実行できます。

ファイルとフォルダのセクションでは、ファイルとフォルダのコンテキスト メニューにどのコマンドを表示するかを指定できます。ここでは必要に応じて、送信、フォルダに移動、フォルダにコピー、暗号化/解読を表示できます。すでに有効なコマンドは、チェックボックスがオンになっています。

デフォルト設定で、Windows の設定をデフォルトに戻すことができます。

メニュー「新規作成」

ここではデスクトップ、Explorer、そして[保存] ダイアログにおけるコンテキスト メニューの**新規作成**サブメニューに、どのファイル タイプを表示するかを選択できます。チェックボックスで、どのファイルの種類を表示するかを設定できます。

削除をクリックすると、選択した項目が一覧から削除されます。追加...を選択して、その他のファイルタイプをリストに追加します。

オプションで、デスクトップやフォルダ ウィンドウの空白部分に表示されるコンテキスト メニューに[新規作成]メニューを含めるかどうかを設定できます。

ファイルを開く

ここでは、不明な拡張子を持つファイルを開く際の Windows の動作を指定します。**デフォルト アプリケーション**のセクションでは、[プログラムから開く] ダイアログを表示するか、ファイルを自動的に特定のプログラム(メモ帳など)で開くかを指定します。特定のプログラム開く場合は、ボックスに希望のプログラムの起動名を入力します。また、変更でプログラムを選択することもできます。

アドバンス

ここでは、新しく作成したショートカットを自動的にショートカットとしてマークするかどうかを指定できます。Windows XP では、ショートカットには既定により「へのショートカット」というテキストが付き、Windows Vista と7 では、「~のショートカット」という既定のテキストがショートカットの名前の後に付きます。

また、Windows XP では**Windows 画像**と**FAX ビューア**のセクションもあり、画像や FAX ファイルをダブルクリックしたときに、Windows 画像と FAX ビューアに自動的にロードするかどうか選択できます。

フォルダ オプション

表示

ここでは、フォルダ ウィンドウとその中の要素をどのように表示するかを指定します。

ウィンドウのセクションでは以下の項目を指定します。

- (Windows XP) フォルダ ウィンドウに常にディレクトリのツリー ビューを表示するかどうか、最後に開

いたフォルダ ウィンドウをログオン時に復元 するかどうか、圧縮された ZIP アーカイブをフォルダとして表示 するかどうか、詳細バーを表示 するかどうかを指定 します。

- (Windows 7)フォルダ ウィンドウに常にメニュー バーを表示 するかどうか、圧縮された ZIP アーカイブをフォルダとして表示 するかどうか、詳細バーを表示 するかどうかを指定 します。
- (Windows Vista - Windows 7 と同じオプションに加えて)最後に開いたフォルダ ウィンドウをログオン時に復元 するかどうかを指定 します。

表示設定 (Windows XP のみで使用可能)スライド調節により、保存するフォルダ ビューの数を設定 できます。

リスト

ここでは、フォルダ ウィンドウでの追加情報の表示 をカスタマイズ できます。

詳細情報のポップアップのセクションでは、フォルダ ウィンドウのファイルやフォルダの上にマウス ポインタを置いた際に、詳細情報を示すバルーンを自動的に表示 するかどうかを指定 できます。

アイコンの整理 セクションでは、フォルダ内のファイルをアルファベット順だけで並べ替えるか、数値順とアルファベット順に並べ替えるかを指定 します。

暗号化・圧縮された要素のセクションでは、暗号化されたファイルと圧縮されたファイルが自動的にカラー表示されるように設定 できます。既定では、圧縮されたファイルは青色、暗号化されたファイルは緑色で強調 されます。

Windows XP とWindows Vista では、**編集** ボタンを使用し、必要に応じて色の割当 を設定 できます。

サムネイル (Windows XP のみ)

Windows では、フォルダ内で画像収集に適した小さなサムネイル プレビューを表示 することができます。ここでは、サムネイルのサイズと画質 を指定 します。既定のサイズは 96 ピクセルです。その他の任意の値を入力 することも可能です。画質は、スライダで調整 します。

画質が良いほど、より多くのメモリが使用 されます。**キャッシュ**のセクションでは、サムネイルを THUMBS.DB というキャッシュメモリに入れるどうかを設定 することができます。これらのファイルも同様にフォルダに置かれ、その後サムネイルを特に迅速に読み込むのに役立ちます。

選択

ここでは、フォルダ ウィンドウの選択範囲の色 を設定 することができます。複数のファイルを同時に選択した場合、範囲にはクリックしたマウスボタンの進行状況 が示 されます。

また、Windows Vista とWindows 7 では、要素を選択するためのチェックボックスを表示 して、Ctrl キーや Shift キーを使わなくても、マウスで選択 して複数のファイルおよびフォルダを選択 できるようにするかどうかも指定 できます。

アドバンス

ここでは**デスクトップとコンピュータ**(または Windows XP では**マイコンピュータ**)にどの要素を表示 するかを指定 します。簡単にドライブ自体を非表示にしたり Windows エクスプローラや Internet Explorer、[ファイル名を指定して実行] ダイアログにある**アドレスバー**の動作 を設定 したりできます。

11.1.2. 使用

入力オプション

マウス機能

マウス ボタンをスワップのセクションでは、マウスの右 ボタンと左 ボタンを入れ替えることができます。入れ替えると 右 ボタンがクリック用になり 左 ボタンでコンテキスト メニューが開きます。

最近では多くのマウスにホイールが付くようになりました。Microsoft IntelliMouse や類似 モデルのマウスに合わせて、**スクロール ホイール**のセクションでホイールの動作を指定できます。既定では3行のスクロールが有効です。スクロールする行数や画面数を変更したり スクロールをオフにしたりできます。

ポインタを自動設定のセクションでは、ダイアログ ボックスが開いたときに、強調されたボタンをすく押せるようにマウスポインタがそこへ移動するよう設定できます。

マウスの感度

ダブルクリックとドラッグのセクションでは、ダブルクリックの際にどのくらいマウスを動かせるか、どのくらいまでマウスを動かすとオブジェクトのドラッグを開始できるかを指定できます。値の単位はピクセルです。

ヒント: テスト アイコンを使って新しい設定を試してみましょう

ホバリング効果のセクションでは、ホバリング効果を表示するのに必要なマウス ポインタの滞留時間と移動の許容範囲が変更できます。この効果は、マウス ポインタが特定の時間アイコン上に静止していると起こります。

ヒント: ここにもテスト アイコンが用意されています。このアイコンはマウス ポインタがその上で止まると点灯します。

アクティブ ウィンドウ トラッキング

アクティブ ウィンドウのトラッキングは、あまり知られていない Windows の機能ですが、ウィンドウの操作を一新してしまう可能性を秘めています。

この機能をオンにすると、マウス ポインタがアクティブではないウィンドウ上を通過するだけでウィンドウがアクティブになり、各プログラムでの作業がすくりに可能になります。つまり、ウィンドウをアクティブにするためのクリック操作が不要になります。

前景のセクションにあるこのオプションをオンにすると、すくりにアクティブなウィンドウが手前に表示されるようになります。

キーボード

カーソルの点滅のセクションでは、入力の準備ができた場所 (例えば、テキスト編集 プログラムなどで) の点滅を設定できます。

ヒント: 右側に表示される小さなプレビューで、現在の設定と変更を確認できます。

スライダを使って点滅の頻度を設定します。また希望によっては**カーソルの幅**もカスタマイズすることが可能で、その場合は新しい値をピクセルで入力してください。

最近のキーボードには、Windows のロゴが付いた Windows キーが装備されています。Windows キーを使

うと Windows のスタートメニューを開くだけでなく、他のキーとの組み合わせにより特殊機能が実行できます。たとえば、Windows + M キーですべてのウィンドウを最大化したり、Windows + E キーでマイ コンピュータ (Windows Vista 以降ではコンピュータ) を表示したりできます。

これらのショートカット キーが必要でないか、あるいはキーの配列のために時々間違っ て押してしまう場合は、このオプションをオフにします。

スタートメニュー (Windows 8 では利用できません)

一般

サブメニューの展開の**セクション**では、マウス ポインタをメニュー項目の上に置いた (ポイントした) だけでサブメニューが自動的に開くようにするか、クリックして初めて開くようにするかを指定します。さまざまなオペレーティング システムの間には大きな差があるので、ここで明確に立ち入っておきます。

Windows XP:

ディスプレイ上でメニューが開くまでにマウスポインタがどのくらいの時間アイテムの上に留まっているかを設定できます。

ユーザーのセクションでは、スタートメニューの上部にユーザー名を表示するかどうかを設定できます。**シャットダウン**ボタンに加え、ユーザーを替えるための**ログオフ**ボタンを表示または取り消すことができます。

Windows 7:

セッションの終了セクションでは、セッションを終了するボタンをクリックしたとき、実行されるべきアクションを設定できます。規定では、コンピュータは**シャットダウン**されます。

休止状態と**省エネモード**では、開いているすべてのドキュメントとプログラムの状態がそのまま維持されます。そのため、再びスイッチを入れたときに、中断したときの状態からそのまま作業が続けられます。省エネモードでは少量の電力が必要なのに対し、休止状態ではコンピュータにまったく電力が送られません。その代わりに 休止状態の切替操作は省エネモードより時間がかかります。

このボタンには、その他にも再起動の実行、コンピュータのブロック、現在のユーザーのログオフ、ユーザーの切り替えといった動作を割り当てることができます。ユーザー自身の習慣に合わせて決定してください。

ただし、更新プログラムのインストール準備ができたときは、このボタンに例外的に **コンピュータをシャットダウンする**機能が割り当てられます。これは、重要なプログラムの更新作業が忘れられないようにする措置です。

Windows Vista:

電源スイッチのセクションでは、電源スイッチをクリックしたときに実行されるアクションを設定できます。デフォルトでは、コンピュータは**省エネモード**に切り替わります。

それより先コンピュータをすばやくシャットダウンしたい (または Windows Vista でこの機能がもともと用意されていない) 場合は、**コンピュータをシャットダウンする**に設定してください。そうすれば、まずサブメニューを開いて **シャットダウン**を選択する手間が省けます。3 つ目の選択肢は、コンピュータを休止状態にすることです。

休止状態と**省エネモード**では、開いているすべてのドキュメントとプログラムの状態がそのまま維持されます。そのため、再びスイッチを入れたときに、中断したときの状態からそのまま作業が続けられます。省エネ

ードでは少量の電力が必要なのに対し、休止状態ではコンピュータにまったく電力が送られません。その代わり、休止状態の切替操作は省電モードより時間がかかります。

最近使用された

デフォルト設定 ボタンを使うと、Windows のデフォルト設定に復元できます。

Windows XP:

最近使ったファイルセクションでは、スタートメニューの **ドキュメント** に最近使ったファイルを表示するかどうかを指定したり、表示されるドキュメントの数を指定したりできます。また、ログオフ時にリストが自動的に空になるようにも設定できます。

Windows Vista とWindows 7:

最近使ったファイルセクションでは、スタートメニューの **最近使ったファイル** に最近使ったファイルを表示するかどうかを指定したり、リストの内容を削除したりできます。リストの内容を削除することもできます。

最近使ったプログラムのセクションでは、スタートメニューに最近使ったファイルを表示するかどうかを指定できます。Windows Vista では、**設定** のボタンから、どのプログラムをスタートメニューに表示するかを指定できます。既定では、最近使ったプログラムがすべて表示されます。

ショートカット

ショートカットの移動および編集 のセクションでは、ショートカットの移動を可能にするかどうかを設定できます。

ここから **AVG Shortcut Cleaner** を起動することもできます。

アドバンスト (Windows XP のみ)

AVG Styler モジュールを新しいウィンドウで起動することができ、そこから Windows の外観をカスタマイズできます (フォルダとメニューアイテムのアイコンを変更する等)。

タスクバー

ボタンの点滅

テキストやその他の内容の入力中、他のウィンドウの作動はストップします。タスクバーのアイコンが点滅し、他のソフトウェアでの作業が中断されていることが通知されます。点滅機能をオンにしている場合は、**点滅するタスクバーボタンを有効にするオプション** を有効にする必要があります。

点滅速度 のセクションでは、タスクバーのボタンの点滅頻度が設定できます。選択できるオプションは2つあります: 1つ目のオプションでは、タスクバーにあるウィンドウのボタンを、クリックされるまで点滅させておくことができます。2つ目は、ユーザーが設定した回数だけ点滅させるというものです。ここでの基準値は7に設定されています。

全般 のセクションでは、最後にキーを押してからその他のプログラムのウィンドウを再びアクティブにするまでの時間を設定できます。

ボタン表示

ここでは、タスクバーのボタンを使用してウインドウを表示するか、そしてその場合はどのように表示するかを指定することができます。

ディスプレイのセクションでは、ボタンの希望する最大幅をピクセル数で指定します。既定値は 154 ピクセルです。オプションの**アニメーションでボタンを表示**をオフにすると Windows によって新しいウインドウを開く際に付属のタスクバーボタンがアニメーション表示されなくなります。これにより、捕捉的なシステムパフォーマンスがその他のタスクへと回されます。

グループ化のセクションでは、1 つのプログラムで複数のウインドウを開いたときにそれをグループ化してタスクバーに表示するかどうか、また、どのような場合にグループ化するかを指定できます。

Windows の最小化

プログラムのウインドウを最小化すると、そのタイトルバーだけが自動的に画面下部に表示されることがあります。

位置と配置のセクションでは、このバーの正確な位置を設定できます。デフォルトの設定は左下で、複数のバーが左右に並んで表示されます。

間隔のセクションでは、各バーの間隔をピクセルにて指定することができます。

アドバンス

通知領域(時計の隣)には、しばしばバルーンで重要なイベントの通知や、使用されていないショートカットの削除など、やるべきことを示すバルーンが表示されます。ここでは、バルーンに関するオプションを設定できます。

11.1.3. 通信

ネットワーク

マイネットワーク

ここでは、共通の表示にかかわるいくつかの設定を、ネットワーク環境にカスタマイズすることができます。たとえば、共有設定を行っていないのに、コンピュータが他のコンピュータのマイネットワークに表示されたり(パスワードを使用して)コンピュータの全ドライブにアクセスされたりする事態を防ぐことができます。

アドバンス

セクションユニバーサル プラグ & プレイでは、ネットワークデバイスを自動認識する Windows のサービスをオフにすることができます。この自動検出はセキュリティ上潜在的なリスクがあり、必要としなければ無効にしたほうがよいでしょう。

Quality of Service (QoS) サービスのセクションでは、Windows が必要に応じてインターネット接続帯域の一部を重要なパッケージのために確保するのを阻止することができます。常に帯域を確保したい場合は、オプションの**帯域を確保する**を無効にしてください。

パスワード (Windows XP のみ)

パスワードを保存するということは、インターネットまたは保護されている共有場所にアクセスする度にパスワードの入力が必要なくなります。しかし、ハッカーによるアクセスやパスワードが不正利用される恐れがあります。ここでは、それゆえ自動保存を阻止することができます。

インターネット時間

ここでは、コンピュータ時刻がインターネットを通じて時々電波時計と同期され、いつも実際の時刻を表示できるようにします。このためには、次のオプションがオンになっている必要があります：**インターネット タイム サーバーと自動同期する**

利用できるタイム サーバーのセクションでは、広く知られている標準的タイム サーバーがいくつか挙げてあります。他のインターネット アドレスがわかっているならば、それらを**追加**をクリックして追加できます。

インターネット

ここでは、ユーザーのログアウト時における、既存のダイヤルアップ ネットワーク接続動作の設定とともに、Windows のファイアウォールを無効にできます。

Windows XP では、インターネット接続のさまざまな詳細 オプションを設定するために、**設定** ボタンをクリックすることもできます。

Internet Explorer

Explorer バー

ここでは Internet Explorer においてバーがどのような動作をするかを設定することができます。常に Google™ の検索バーで検索し、アドレスバーにオートコンプリートを指定することができます。

表示

セクション**タイトルバー**では、Internet Explorer のタイトルバーにどのテキストが表示されるかを入力します。

お気に入り

ここではお気に入りのフォルダとその内容を表示または非表示にでき、不必要なフォルダを隠すことができます。ここではお気に入りフォルダの内容は表示されず、在るフォルダだけがリストされることにご注意下さい。さらに、フォルダは名前別に並べることができます。

メニュー

ここでは、Internet Explorer のメニューバーをカスタマイズし、**設定** ボタンによって、すべての Web サイトでマウスの右クリックで利用できるコンテキストメニューに多くの有益なコマンドを追加できます。

ソースコードを表示のセクションでは、**ソースコードを表示**を選択した場合に Web サイトを Internet Explorer で開くか、あるいは例えば Windows のエディタ (notepad.exe) のような他のプログラムで開くかの設定ができます。

ナビゲーション

Web サイトの動作のセクションでは、リンクから呼び出した場合の Internet Explorer の動作を設定することができます。これにより、ポップアップやその他のプログラムで開かれたリンクを、現在のウィンドウ内の新しいタブで開くことができます。

セクションスタートページでは、Internet Explorer を起動した時、自動的にどの Web サイトが表示されるかを指定できます。その際、複数のサイトを選ぶこともできます。上へ と下へ のボタンでページの順を変えることができます。

セキュリティ

ここでは、Internet Explorer のセキュリティ関連の設定を取り上げます。

ユーザー エージェント文字列のセクションでは、Internet Explorer がユーザーの訪れた Web サイトをどのように識別するかを指定することができます。

ダウンロードの確認では、特定のファイルタイプについてInternet Explorer がダウンロードを許可するかどうかが指定できます。それらのファイルがダウンロードされる前に確認をするには、**ファイルのダウンロード前に常に確認**を選択します。

パフォーマンス

ここでは、インターネット接続の帯域幅に最適なプロファイルを設定します。**最大接続数**のセクションでは、どれだけ数のサーバー接続を確立できるか指定できます。

Mozilla Firefox

一般

ここでは、インターネット ブラウザの Mozilla Firefox 用に次の一般設定が可能です。

テキストアニメーションのセクションでは、絶えず点滅したり Web サイトの流れ文字パナーのような煩わしいテキスト効果をオフにすることができます。オプションの**点滅テキストを無効にする**と**スクロール テキスト (流れ文字)を無効にする**をオンにすることで、煩わしい効果を無効にすることができます。

エラー メッセージのセクションでは、Web サーバーへの接続時に生じたエラーについてのメッセージを、ウィンドウ (ダイアログ) として表示するか、それとも Web サイトのページとしてブラウザ ウィンドウに表示するかを設定することができます。

サイドバーの位置のセクションでは、サイドバーがブラウザのウィンドウの右か左かのどちらかに表示されるべきかを設定できます。既定の設定では、ブックマーク、履歴、ブラウザのダウンロードがサイドバーに表示されています。

操作

ここでは、Mozilla Firefox の操作について設定することができます。

アドレスバーのセクションでは、アドレスがアドレスバーに自動的にコンプリートされるように設定できます。つまり アドレス欄に最初の2、3文字を入れただけで (このサイトを既に一度閲覧していることが条件ですが)、インターネット アドレスが自動的に完成されます。

Mozilla Firefox 2 以降でも同様に、ここでアドレスバーの横に**アドレスをロードする**のボタンを表示するかどうかを設定できます。

サブメニューの展開のセクションでは、マウス ポイントが上を通過したとき、サブメニューが自動的に展開するまでにどれだけかかるかを指定できます。

Windows

ここでは、Mozilla Firefox でポップアップ ウィンドウとリンクがどのように表示され、このポップアップ ウィンドウの表示にどの程度 Web サイトへの影響を許すか設定できます。

リンクから開くセクションでは、リンクをクリックした時内容を、現在のウィンドウ、あるいは新しいウィンドウで表示するか決めることができます。

Javascriptのセクションでは、許可されたウィンドウ操作で、ポップアップウィンドウがWebサイトに現れるのを許す変更を制限できます。Webサイトの中には、ポップアップウィンドウのナビゲーションバーを隠し、メッセージウィンドウに見せかけようとするものもあります。ここではそれを禁止することができます。

タブ (Mozilla Firefox 2 以降のバージョン)

ここでは、Mozilla Firefox でタブの動作の設定をすることができます。

[閉じる] ボタンのセクションでは、タブを閉じるボタンをどこに表示するかを設定できます。選択は4つの異なる位置から可能です。

最小幅のセクションでは、Mozilla Firefox 2 以降、タブの最小幅を定めることができます。複数のタブが開かれている場合、各タブの幅はここで設定された最小幅まで自動的に縮小されます。さらに複数のタブが開かれると、現在表示されていないタブへとスクロールできるように、右側にスクロールバーが表示されます。

アクティブ タブの色のセクションでは、色で強調するのオプションで、現在ブラウザでアクティブなタブをどの色で強調するかを定めることができます。変更ボタンをクリックし、アクティブなタブの端上下を強調する独自の色を選択してください。

パフォーマンス

ここでは、Mozilla Firefox のパイプライン機能を有効にできます。このパイプラインとは、ブラウザが接続を介して Web サーバーに複数のダウンロード照会を一度に送信するという実験的な機能です。ただ、残念なことにはすべての Web サーバーからはサポートされていません。

Opera

タイトルバー

ここでは、Opera のタイトルとロゴの表示の設定ができます。

ウィンドウ タイトルのセクションでは、タイトルフィールドで Opera ブラウザのタイトルバーに表示されるテキストを指定します。適用または OK をクリックする際に入力フィールドが空白のままだと、既定のエン트리 Opera が自動的に設定されます。

Opera アイコン セクションでは、Opera を示す赤い "O" の代わりにハードディスクにある別のアイコンを選択できます。このアイコンは、Windows のタスクバーと Opera のアプリケーションウィンドウに表示されます。

有効なロゴ (icoファイル) を選択すれば、それがすくに表示されます。無効なファイルを選択すると、Opera の既定のアイコンが使用されます。

操作

ここでは、Opera を操作するための設定ができます。

Web アドレスのオートコンプリートのセクションでは、アドレスがアドレスバーに自動的にコンプリートされるように設定できます。つまり、アドレス欄に最初の2、3文字を入れただけで (このサイトを既に一度閲覧していることが条件ですが)、インターネットアドレスが自動的に完成されます。たとえば、1つの語のみが入力されると、語の末尾に .de や .com などの上位レベルドメインが付加され、語の先頭に www. が付加さ

れます。この機能を無効にすると、Opera の動作が少し速くなります。

ソースコードを表示のセクションでは、Web サイトのコンテキストメニューから **ソースコードを表示** を選択した場合に、Opera の内部エディタ、または Windows のエディタ (Notepad.exe) など別のプログラムを使うべきかを設定できます。

パフォーマンス

ここでは、Opera 9 以降、標準として自動モードに設定されているクイックナビゲーションを、再びオンにすることができます。

自動モードを選べば、ブラウザ履歴をナビゲーション時に、[進む] / [戻る]のナビゲーションでページをキャッシュから読み込むか、あるいはWeb ページをその都度新たにダウンロードすべきかをブラウザに通知する、Web サーバーの設定が考慮されるよう設定できます。後者は、例えば多くのショップサイトの正常な機能に必要です。しかし、必要のない場合でもウェブサーバーからページを再度ダウンロードすることをサーバーが求めることがあります。

互換モードを選べば、ブラウザ履歴をナビゲーションする際に、サーバーのデフォルトに関わらず、サイトをブラウザのキャッシュからではなく、常にWeb サイトから新たにダウンロードするように設定できます。通常、この設定は不要であり、高速サーフィンのためには推奨できません。

クイックモードを選べば、すでにコンピュータに存在するWeb サイトをいつもキャッシュから読み込むように設定することができます。この方法には、進む/戻るナビゲーションの速度が急にまた非常に速くなるだけでなく、インターネット接続を介してロードする必要があるデータ量が少なくて済むという利点もあります。また、通常は、ブラウザ履歴をナビゲーション時のフォーム フィールドへの入力維持されます。けれども有効なサイトコンテンツで Web サイトが正しく機能するためには、Web サイトを定期的に手動で新たに読み込む必要があります (例えば、F5 キーで)。

検索

Opera が一般にそしてクイック選択においてどの検索エンジンを使うべきか、またクイック選択はどのように表示されるべきかを設定することができます。

既定の検索エンジンのセクションでは、Opera がどの検索エンジンを使うかを設定できます。既定の検索エンジンは、検索フィールド、アドレスバー、選択されたテキストのコンテキストメニューの [検索]、およびアドレスバーへの複数語の入力において、自動的に選択されます。

クイック選択の既定検索エンジンのセクションでは、クイック選択サイト (スピードダイヤル) の新しい空白のタブに既定で表示される検索エンジンを変更することができます。

メールおよびチャット

Outlook Express (Windows XP のみ)

ここではアプリケーションのタイトルバーに表示されているフォントを変更できます。また、アプリケーションの起動時にスプラッシュ画面を表示するかどうかも指定できます。

ここではメールに添付された実行ファイルをブロックするセキュリティ機能も管理できます。このブロックを煩わしく感じる場合はこの機能を単にオフにします。しかしながら危険な添付物をクリックして、ウイルスがアクティブになることもあるのでご注意ください。

Windows Mail (Windows Vista のみ)

ここではアプリケーションのタイトルバーに表示されているフォントを変更できます。また、アプリケーションの起動時にスプラッシュ画面を表示するかどうかも指定できます。

ここではメールに添付された実行ファイルをブロックするセキュリティ機能も管理できます。このブロックを煩わしく感じる場合はこの機能を単にオフにします。しかしながら危険な添付物をクリックして、ウイルスがアクティブになることもあるのでご注意ください。

Office Outlook (Windows 7 のみ)

Outlook を最小化するのセクションでは、Outlook 2003/XP でウィンドウを最小化する際に、アイコンをタスクバーか、あるいはタスクバーの通知領域 (時計の隣) のどちらに配置するかを選択できます。通知領域を選択した場合、オプションの **Outlook を通知領域に最小化する**オプションがオンになります。

メール添付ファイルのセキュリティのセクションでは、**設定** ボタンをクリックしてウィンドウを開き、自動的にブロックされる添付ファイルの種類を指定できます。

Windows Messenger (Windows XP のみ)

実行のセクションでは、Windows Messenger を自動的に実行するか、そしてそれはどのようなイベントの際かを指定できます。Windows Messenger の実行をまったく許可しない場合は、オプションの **Windows Messenger の実行を許可しない** を選択してください。

また、Windows Messenger をまったく使用しない場合は、システムから完全に取り除くことも可能です。これには、単に **アンインストールのオプション**を使います。

プライバシー

一般

ここでは、コンピュータでの作業の際の、プライバシーとセキュリティのために重要な設定を行うことができます。

Windows の自動更新のセクションでは、Windows を自動的に Microsoft と接続が確立してよいかどうか、設定することができます。オプションの **Windows 自動更新を有効にする**がオンになっている場合、Windows はインターネット接続が確立されると、自動的に Microsoft サーバーと連絡を取り、システムへの更新の有無を確認します。

Windows が使用可能な更新をインターネットから取り込む前に許可を求めさせるには、オプションの **更新をダウンロードする前に通知する**をオンにしてください。

足跡を消去

ここでは、ドキュメントでの作業やインターネットサーフィンの際に、足跡を消去するよう設定することができます。

履歴の一覧を削除のセクションでは、**今すぐ削除**をクリックすれば、スタートメニューの最近開いたファイルのリストを削除することができます。

ブラウザを閉じ次第 Web ブラウザのキャッシュを消去すべきであれば、**Internet Explorer のキャッシュを消去する**のセクションで、オプションの **Internet Explorer キャッシュを終了時に空にする**をオンにします。これはなるべく、ユーザーのセキュリティ意識が非常に高く、キャッシュにあるデータによって第三者にインターネットでの作業情報を再生されたくない場合のみ、使用してください。

Internet Explorer

ここでは、ユーザーのプライバシーに関して、セキュリティの設定をすることができます。

組み込まれた SmartScreen フィルタのセクションでは、**SmartScreen フィルタ**を有効にして、アクセスしたウェブサイトが疑わしいサイトや既知の詐欺サイトでないかどうか、Internet Explorer が必ずチェックするよう設定することができます。

セクション **組み込まれた Windows 認証** では、**組み込まれた Windows 認証をオフにする**のオプションを有効にして、Internet Explorer が Windows 認証によって自動的にインターネットサイトにログオンしないように指定することができます。

Windows Media Player

ここでは、プライバシーに重要である Windows Media Player の設定を行うことができます。

Windows Media Player はインターネットと頻繁に通信します。**設定**のセクションでは、前回かけたメディアファイルのリストも再生メディアあるいは音楽ファイルについての情報も保存されないように指定することができます。**高度のセキュリティ**のボタンをクリックすると、すべてのオプションがまとめてオンになります。

詳細のボタンをクリックすると、Windows Media Player のためのデータ保護設定へ移動します。ここでは、スクリプトコマンドの実行をブロック、自動的ライセンス取得を阻止、コーデック自動的ダウンロードを無効化、インターネットサイトによるプレイヤーの識別を阻止することができます。

アドバンス

ここでは、プライバシーのためのその他の設定ができます。

ページング ファイルのセクションでは、**[メモリの管理]へ移動**をクリックして、システムのシャットダウンの際に、Windows ページング ファイルを自動的に削除するように設定することができます。

インターネット時間のセクションでは、Windows システム時計のインターネットの時計との自動同期をオフにすることができます。

エラー報告のセクションでは、Windows がクラッシュ時にPC システム設定とともに Microsoft へエラーを報告するかどうかを定めることができます。**エラー報告**のボタンから様々な報告を開き、クリックして無効にすることができます。

11.1.4. 管理

ユーザーのログオン

一般

Windows XP:

ここでは、ログオン画面とログオン プロンプトのいずれかが選択できます。Windows XP 既定の設定では、利用可能なユーザー名の一覧が表示されているログオン画面が採用されており、マウスをクリックするだけでログオンできるようになっています。別の方法としては**以前のログオンを使用する**をオンにすることができます。これによって、安全性の高いログオンプロンプトが設置され、データをマニュアルで入力しなければならなくなります。

また、ログオン画面の動作や外観に関連するその他のオプションを指定することもできます。

Windows Vista と Windows 7:

ここでは、ログオン画面およびログオンプロンプトの動作や外観をカスタマイズできます。**カスタマイズ**のボタンをクリックし、個々のオプションを設定します。

自動 ログオン

特定のユーザーが自動的にログオンできるようにすることで、システムのログオンをスキップできます。それには、オプションの**自動 ログオンを有効にする**をオンにし、その下のプレースホルダに、自動 ログオンを行うユーザーのアクセスの詳細を入力します。

セキュリティのセクションでは、Shift キーでログオンのスキップを許可するか、しないかを指定します。また、ログオフ直後に再びログオンするようシステムを設定することもできます。

メッセージ

ログオン前にメッセージを表示するのセクションでは、ログオンの前にユーザー全員に事前定義されたメッセージを表示することができます。これは例えば、仕事中にネットサーフィンをしないようにという上司からの注意などです。それには、オプションの**ログオン前にメッセージを表示する**を有効にし、ヘッダーとメッセージの本文をフィールドに入力してください。

ログオンとログオフ時の診断のセクションでは、オンにすると、ログオンとログオフのプロセスで詳細なステータスメッセージを表示することができます。

ツアー (Windows XP)

初級ユーザーは、システムの起動後に Windows XP ツアーに参加することができます。このツアーでは、ユーザーに重要な Windows モジュールのすべてが紹介されます。コンピュータの起動後にこのツアー案内が表示されないようにするには、**ログオン後に Windows のツアーを表示**のオプションをオフにします。また [範囲] では、このオプションを現在のユーザーのみに適用するのか、またはすべてのユーザーに適用するのかを指定できます。

ウェルカム センター (Windows Vista) / はじめに (Windows 7)

新規にPCを使うと **ウェルカム センター** (Windows Vista の場合)あるいは**はじめに**が表示されます。これは、システムの調整を簡単にし、インターネット上での詳細情報と提供しているものへのリンクを表示するためのものです。ここでこれらの表示をオンやオフにすることができます。

ドライブ

一般 (Windows XP のみ)

ここにはドライブに関連する設定がいくつかあります。わけても、ドライブへのアクセス速度を改善する UDMA66 のサポートを有効にすることができます。

NTFS ファイル システムのセクションでは、新しい Windows ファイル システム NTFS に関連した次の2つのオプションを設定することができます:**ファイルへ 前回 アクセスした日付を保存**と**短縮 (DOS-)ファイル名を保存**これらのオプションを無効にすると、ハードディスクのデフラグの効率と、旧式ソフトウェアとの互換性に対してマイナスの影響を与えるため、両オプションを有効にしておくことを推奨します。

メモリの容量

ドライブ上の使用可能なディスク容量が少なくなると Windows は自動的に警告を發します。この警告を表示したくない場合は、ここでオプション**ディスク容量が少ない時に警告を表示**を無効にすることができます。

自動再生

取り替えたメディアの監視のセクションでは、オプションのCD ドライブでのメディアの取り替えを監視を**オンにすることができます**。この場合、CD ドライブは Windows によって監視されます。新しいディスクが挿入されると Windows はこれを読み取り、その内容を自動的に起動しようとします。

自動再生のセクションでは、**詳細**をクリックしてウインドウを開き、音楽 CD などさまざまなドライブの再生を設定することができます。

アドバンス

AVG Styler のセクションでは、**AVG Styler**を起動をクリックしてモジュールを呼び出し、それを使って個々のドライブのアイコンを取り替えられます。

AVG Drive Defragで、**Start AVG Drive Defrag**の起動をクリックして、ドライブのデフラグおよびドライブ上のファイルを最適に整理するモジュールを開きます。

コンピュータ (Windows XP では**マイコンピュータ**)のセクションでは、**設定**をクリックして、Windows の(マイ)コンピュータにあるどのドライブを表示させるかを指定できます。

メモリとキャッシュ

メモリの管理

ここでは物理メモリと仮想メモリの管理の設定を扱います。

仮想メモリのセクションでは、必要に応じてドライバや Windows システムのコアをスワップしたり、あるいは常にメモリに確保しておくことができます。

ページングファイルセクションでは、**AVG PC TuneUp**が Windows のページングファイルの内容を常に「0」で上書きし、システムのシャットダウン時に内容が削除されるように設定できます。

推奨をクリックすると、**AVG PC TuneUp**に推奨される設定を承認することとなります。

メモリ使用率

ここでは、プログラムかあるいはシステム キャッシュのためにコンピュータはメモリを確保するべきかを指定することができます。

アドバンス

ここでは該当するボタンをクリックして、**AVG StartUp Manager** および **AVG Process Manager** モジュールにアクセスし、システムの起動を設定したり、実行中のプログラムを管理することができます。

スタートアップおよびメンテナンス

システム スタート アップ

ここでは、システム起動の際の Windows の処理や動作に関する一般設定を行うことができます。

ブート デフラグのセクションでは、**ブート デフラグを有効にする**のオプションを有効にして、ブートに必要なファイルをハードディスクに整理し、それらを特に迅速に見つけ出せるようにすることができます。

ブートロゴとエラーメッセージのセクションでは、**オリジナルのブートロゴとエラーメッセージを非表示にする**のオプションを有効にして、起動プロセス中に Windows がブートロゴだけでなく、エラーメッセージの表示も伏せるように指定することができます。

ディスク スキャンの待機時間のセクションでは、ユーザーが検査プログラム CHKDSK の非実行を決める前の待機時間を設定できます。このプログラムは、コンピュータがその前に正常に終了しなかった場合自動的に開始され、ハードディスクにあるデータに破損がないかどうか点検します。

終了 (Windows XP のみ)

ここでは、個々のプログラムがクラッシュした場合の Windows の動作を指定します。

応答なしの待機時間のセクションでは、応答を表示するためにシステムがプログラムに認める時間を、ミリ秒単位で指定できます。プログラムは、タスクマネージャで、またはコンピュータのシャットダウン時に強制終了されます。

プログラムを自動的に終了するのセクションでは、アプリケーションを自動的に終了するか、あるいは**プログラムを終了する**のダイアログを表示するかを設定することができます。

デスクトップとタスクバー

ここでは、デスクトップとタスクバーの安定性に関する設定ができます。

独自のプロセスでのデスクトップとタスクバーのセクションでは、オプションの**デスクトップとタスクバーを独自のプロセスで実行する**を有効にして、Explorer がクラッシュしたあとのシステムの安定性を改善することができます。これにより高い安定性が得られますが、さらに 8 MB のディスク領域が必要になります。

デスクトップとタスクバーを自動的に再起動するのセクションでは、提供されているオプションを有効にすることで、デスクトップとタスクバーがクラッシュしたあと、両方のモジュールが自動的に再起動するようにすることができます。これで引き続きシステムの操作ができます。

エラー

ここでは、エラーの場合システムの措置方法を設定できます。

音によるエラーメッセージのセクションでは、**エラーを音で知らせる**のオプションを有効にし、エラーメッセージや間違った入力の際に音を出すように指定することができます。

システムエラーのセクションでは、ドロップダウンリストからシステムが重大なシステムエラーのために停止してしまった場合、どうなるべきかを選択することができます。さらに、その結果をシステム プロトコルに登録するのを有効にすることができます。

エラー報告のセクションでは、Windows がクラッシュの後、Microsoft にエラー報告するべきかどうかを設定できます。その際エラー情報とともにお使いのシステムの情報も送信されます。

システム

一般

Windows のユーザー登録 では、Windows の現在のバージョンに登録されているユーザー名と会社名を変更することができます。この場で、お使いの Windows ライセンスのシリアル番号あるいはプロダクトIDも読み取ることができます。

Windows インストーラー - ユーザー情報 のセクションでは、ユーザー名と会社名を入力すると新しいソフトウェアのインストール時に自動的にユーザー情報に登録されます。

サポート情報 のセクションでは、**設定** のボタンで設定のウィンドウを開き、システムのプロパティに表示されている情報をカスタマイズできます。

共通のダイアログ

ここで、ファイルを開いたり保存する際の共通のダイアログの外観を設定できます。

ファイル名 のセクションでは、既定のダイアログに、シンプルなファイル名入力欄ではなく、最近使用されたファイルのあるダウンメニューを表示するかどうかを設定できます。

Windows XP では、**フォルダナビゲーション** を選択し、共通のダイアログで操作を簡単にするために、どのナビゲーション要素を表示するか指定できます。ここで、**[戻る]** ボタンを表示するかどうか、および共通のダイアログの左側にナビゲーションバーを表示するかどうかを選択できます。

検索 (Windows XP のみ)

ここでは、検索ダイアログの画面スタイルと動作を定義できます。

インデックスサービスを無効にする のオプションでは、アイドル時に自動的に実行されたドキュメントのカタログ化が、インデックスサービスによって阻止されます。

エクスプローラのクラシック検索を使用 のオプションをオンにすると、検索ダイアログは最新式スタイルのかわりに再びなじみのクラシックなスタイルで表示されるようになります。

検索されたファイルの種類 のセクションでは、**ファイルの種類** のボタンを使い、どの種類のテキストファイルで特定のコンテンツを検索するかを指定できます。

特別フォルダ

ここでは、「マイドキュメント」のような特殊フォルダは、どの物理的パスを参照すべきか指定します。あらかじめ設定されたパスを選択して**変更** をクリックし、希望に応じてカスタマイズしてください。

コマンドプロンプト

ここでは、コマンドプロンプトの外観とリアクションを指定する設定ができます。

完了から、ファイルおよびフォルダ名にどの組合せを使用するかを指定できます。

詳細設定 のセクションでは、**詳細** のボタンをクリックして、視覚的表現やコマンドプロンプトの起動フォルダを指定するウィンドウを設定できます。

セキュリティ

ユーザー アカウント制御 (Windows Vista とWindows 7 のみ)

ユーザー アカウント制御 (User Account Control) は、システムに変更が加えられようとしているときに、管理者権限を持つユーザーがそれを許可するかどうかを確認し、非承認の変更がコンピュータに加えられないようにします。ユーザー アカウント制御をオンにした場合、通常のユーザーがシステムに変更を加えようとすると、管理者パスワードの入力が要求されます。

ここでは、システムに変更が加えられようとしていることを管理者として登録されているユーザーにどのように通知するか、そのユーザーからどのようにして承認を得るかを指定できます。

その際 Windows はユーザー自身で行う変更 (例えばセキュリティに必要な設定など) と、変更を実行できるプログラムの起動とを区別しています。ここでは、どの変更の場合に承認を請求するか、パスワードの入力が必要かを詳細に設定することができます。

その際、セキュリティのために必須である設定に関わるので、ユーザー アカウント制御を有効にしたままで、少なくともパスワード入力なしで承認を請求 (Windows Vista の場合) あるいはプログラムによる変更の場合は、パスワード入力なし (Windows 7 の場合) の行動を選択してください。

ユーザー アカウント制御の目的は、ユーザーが気付かないうちにバックグラウンドでプログラムが起動されるのを防ぐことです。Windows は、プログラムが起動されるたびにコンピュータに変更が加えられる可能性があるかどうかを確認します。可能性がある場合、ユーザー アカウント制御がアクティブであれば、プログラムの起動に対する管理者の承認が請求されます。この機能は、例えば見知らぬプログラム (場合によっては悪意ある) が、ユーザー自身の知らないうちに起動した場合などのため、セキュリティの重要なステップの一つです。

セキュリティセンター (Windows Vista) / メンテナンス (Windows 7)

セキュリティセンターあるいは Windows 7 でいうメンテナンスセンターは、バックグラウンドで定期的にコンピュータのセキュリティ状態を点検し、セキュリティに問題の可能性があると警告を発します。

コンピュータにこの警告が誤って表示された場合や、基本的にセキュリティセンターやメンテナンスセンターからの警告表示を希望しない場合は、この警告をここでオフにすることができます。

アドバンス

スクリーンセーバーのパスワードの確認のセクションでは、パスワードの確認が必要になるまでに、スクリーンセーバーを最低どれだけの時間有効にしておくかを定めることができます (このオプションが有効の場合のみ)。あらかじめ設定された基準値は 5 秒となっています。

11.1.5. ウィザード

このカテゴリには設定をコピーのウィザードがあります。このウィザードは、ユーザーの設定を他のユーザー アカウントや Windows のログオン画面にコピーします。

設定をコピー

AVG System Control を使って、視覚とシステムの動作に関する数多くの設定をユーザーの希望にそって行うことができます。ただ、残念なことに通常この設定は現在のユーザー アカウントにしか適用されません。

設定をコピーのウィザードを使って、ユーザーの設定をその他のユーザー アカウントや Windows のログオン画面に

コピーすることが可能です。

ウィザードにより、コピー可能な設定の一覧が作成されます。一覧から設定を選択し、次へをクリックしてください。

選択した設定のコピー先を選ぶことができます。ターゲット (選択した設定によります) はログオン画面です。複数のユーザーをセットアップしている場合、その他のユーザーはコピー先候補として表示されます。希望のターゲットを選択して次へをクリックすると、コピーのプロセスが開始します。

コピーが完了したら、終了をクリックしてウィザードを閉じます。

11.2. Windows の外観をカスタマイズする

以下の章ではAVG Styler モジュールを使用して Windows の外観をカスタマイズする方法について説明します。

ただし、カテゴリの [ブート画面] と [ブートロゴ] は、Windows Vista でのみ使用できます。

グラフィックな ユーザーインターフェースなしには Windows の魅力が半減してしまいます。魅力的なユーザーインターフェースがどれだけ重要かは、Windows Vista や Windows 7 の新しいデザインに象徴されています: オペレーティングシステム全体が新鮮で洗練された雰囲気となっています。

しかし、流行が移り変わる中で、最新のデザインにもそのうち飽きがきます。もちろん、最初から気に障る甘ったるいデザインに関しては言うまでもありません。

AVG Styler を使って、Windows のさまざまな要素の外観を自分の好みに変更することができます。自分で設定できる要素は、実は驚くほどたくさんあるのです。詳細は、対応するサブチャプターをご覧ください。

1. [Windows の外観を変更する方法](#)
2. [ブート画面](#)
3. [ブート画面の設定のヒント](#)
4. [ブートロゴ](#)
5. [ログオン画面](#)
6. [システム要素](#)
7. [アイコンパッケージの管理](#)
8. [ファイルシステム](#)
9. [表示](#)
10. [修復](#)
11. [視覚スタイル](#)

11.2.1. Windows の外観を変更する方法

AVG Styler モジュールを起動するにはスタートセンター内の**カスタマイズする** カテゴリから、**Windows の外観を変更する** の **Windows の外観をカスタマイズする** エントリを選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターの**すべての機能** から、**Windows**にある**Windows の外観を変更する**エントリを選択します。

AVG Styler のスタートページが開き、そこからモジュールの調整 オプションのすべてにアクセスできます。

変更を行いたい領域をクリックしてください。創造力を働かせて Windows システムを自分の好みにデザインしてみましょう。

11.2.2. ブート画面

Windows の起動中、既定では黒い画面が表示されます。AVG Stylerを使用すれば、マウスを何度かクリックするだけで、このブート画面を他のブート画面と交換することが可能です。あるいは創造力を自由に発展させ、好みの写真を入れるなどして **オリジナルのブート画面** を作成できます。

Windows 7 および 8 ではブート画面は使われないため、この機能は利用できません。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはスタートセンター内の**カスタマイズする** カテゴリから、**Windows の外観を変更する** の **Windows の外観をカスタマイズする** エントリを選択します。

ウインドウの左側にあるナビゲーションバーで**ログオン画面** をクリックします。

AVG Stylerはすべてのブート画面を一覧表示します。モジュールを初めて使用する場合、ここにはWindows の既定ブート画面だけが表示されます。

新しいブート画面 を、最終的にそれに決めるまで取りあえずリストに追加しておくことができます。これを実行するには次のオプションがあります：

既に作成されたブート画面をダウンロードする

左上の**ブート画面** にある**追加** をクリックします。

AVG Onlineからブート画面をダウンロードを選択します。

ウェブサイト上にさまざまなブート画面が表示され、これを利用して、起動プロセスを自分の好みに合わせてカスタマイズできます。

ブート画面をクリックします。

その画面が自動的にAVG Stylerと同時に開き、リストに追加されます。

ファイルからブート画面を追加

左上の**ブート画面** にある**追加** をクリックします。

ブート画面をファイルから読み込むを選択します。

Explorer が開いたら、コンピュータ上の任意のファイルを選択します。使用できるファイル形式は、次のとおりです。

種類	ファイルの拡張子	説明
AVG ブート画面	.TBS	AVG Stylerの個別フォーマット
Stardock Bootskin	.BOOTSKIN	www.wincustomize.com のような、Web サイトの多くのブート画面の形式
画像	.BMP; .PNG; .GIF; .JPG; .JPEG	これらの形式の画像を選択すると、自動的にブート画面を作成のダイアログが開き、画像が表示されます。そこで画像に調整を加えることができます。
Ntoskrnl.exe ファイル	.EXE	ブート画面が組み込まれた Windows XP のシステム コア AVG Styler

新しいブート画面を選択し名前を付けると、ファイルはその名前で**AVG Styler**のリストに表示されます。

作成者の名前を付けることもできます。新たに追加したログイン画面がリストに表示されます。さらに他のブート画面を追加することもできます。

ブート画面を作成する

ブート画面で**新規作成**をクリックします。

画像を検索し調整できるウィザードが開きます。コンピュータまたは外部記憶媒体にある画像を選択することができます。

また、カメラやスキャナから画像を転送したり、直接**AVG Styler**から Google™ 画像検索を開始することもできます。どちらの場合も、希望の画像を見つけやすいようにひとつの場所に保存し、**ローカルドライブを検索**をクリックして、今保存した画像を読み込みます。

新しい画像の外観を最適化する

用意されている調整オプションは、画像がまだブート画面に適したサイズ (640x480 ピクセル) にされていない時にのみ、効果が表示されます。背景では、画像で隠れない領域を何色で表示するかを指定できます。

技術上の理由から、プログレスバーの背景もこのうちに入ります。さらに、位置、前景色、フレームの色も全く好みに応じて設定できます。プログレスバーは、画像の全体的な印象の邪魔にならないように配置してください。

新しいブート画面は、自分で名前を付けて**AVG Styler**のリストに保存します。

作成者の名前を付けることもできます。新たに追加したログイン画面がリストに表示されます。

デフォルトに戻す

しばらくして新しいブート画面を変更したくなった場合は、いつでもWindows既定の画面に戻すことが可能です。

デフォルトに戻す ボタンをクリックします。

リスト内で自動的に既定のブート画面が選択され、プレビューが表示されます。

適用するには、**適用** をクリックします。

ブート画面をプレビューするにはリストから選択します。**適用する** をクリックしてください。**AVG Styler** 新しいブート画面を承認します。

11.2.3. ブート画面の設定のヒント

これらは Windows XP のみに適用されることにご留意ください。

Windows XP の技術的条件下にあるブート画面はすべて16色しか利用できず、そのうち幾つかは指定できないものもあります(黒など)。**AVG Styler**もまた**ブート画面を保存** をクリック後、作成された画像を豊かな色彩(通常 1670 万色)から極めて少ない色数に削減しなければなりません。

AVG Stylerでは、最も画像に適した16色を自動的に突き止める、という実に優れた方法を使用することができます。画像内に異なる色が多数ありすぎる場合には、必ずしも満足のいく結果に仕上がらないこともあります。

経験則では、数色でのみ構成されたブート画面が最も良い結果となっています。ブルーを基調にした配色と数色のコントラストカラーからなる画像は、美しいブート画面になるでしょう。

画像の一部にある色をプログレスバーのフォアグラウンドカラーに入れてください。これにより、貴重な16色が進行バーのためだけに使用されるのを防ぐことができます。ブート画面に肌色を使用するのはできる限り避けてください。肌色を使用した画像は16色だけでは上手く表示されないことがほとんどです(グラフィックデザイナーに尋ねてみてください)。ただし、時には偶然上手くいくこともありますので、試す価値はあります!

11.2.4. ブートロゴ

Windows XP、Windows 7、および8ではブートロゴは使用しないため、この機能を使用できるのは Windows Vista のみであることにご注意ください。

ログオンの直前にWindowsロゴの短いアニメーションが表示されます。**AVG Styler**を使用すると、これまではリストの高い作業であったブートロゴの変更が、簡単に実行できます。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはスタートセンター内の**カスタマイズする** カテゴリーから、**Windowsの外観を変更する** の **Windowsの外観をカスタマイズする** エントリを選択します。

ウィンドウの左側にあるナビゲーションバーで**ブートロゴ**をクリックします。

AVG Stylerは使用できるブートロゴをクリックします。ここで、他の作成済みのブートロゴをリストに追加するか、**独自のブートロゴ**が作成できます。

まず**新しいブートロゴ**をリストに追加してから、**最終的に適用**します。これを実行するには次のオプションがあります:

既に作成したブートロゴをダウンロードする

左上のブートロゴにある追加をクリックします。

AVG Onlineからブートロゴをダウンロードを選択します。

Web サイトに移動すると、さまざま幅広く揃ったブートロゴが表示され、これを利用して起動プロセスを全く自分の好みに飾ることができます。AVG Web サイトでブートロゴをクリックします。すると AVG Stylerで自動的に開き、リストに追加されます。

このスマートなブートロゴはファイルとしても(拡張子 .tla)、例えば USB スティックなどに保存できます。保存したブートロゴはAVG PC TuneUpをインストールした任意のコンピュータ上で追加やファイルからのブートロゴを読み込むをクリックすることで Windows のシステムに組み込むことができます。

ファイルからブートロゴを追加

左上のブートロゴにある追加をクリックします。

ブートロゴをファイルから読み込むを選択します。

Explorer が開いたら、コンピュータにあるファイルの中から、ブートロゴとして使用したい画像を選択します。300x300 ピクセルフォーマットで最高の画質が得られます。

新しいブートロゴを選択して名前を付けると、その名前でAVG Stylerにリスト表示されます。

作成者の名前を付けることもできます。追加したブートロゴがリストに表示されます。さらに他のブートロゴを追加することもできます。

独自のブートロゴを作成する

ブートロゴにある新規作成をクリックします。

エクスプローラーが開いたら、コンピュータまたは外部記憶媒体にある画像を選択します。

新しいブートロゴをAVG Styler リストに名前を付けて保存します。

作成者の名前を付けることもできます。追加したブートロゴがリストに表示されます。

デフォルトに戻す

しばらくして新しいブートロゴが気に入らなくなった場合は、いつでも Windows のデフォルトのロゴに戻すことが可能です。

デフォルトを使用をクリックします。

リスト内で自動的にデフォルトのブートロゴが選択され、プレビューが表示されます。

適用するには、適用をクリックします。

リスト内から選択して、候補のブートロゴをプレビューします。再生 ボタンをクリックすると、プレビューがアニメーションとして表示されます。

適用するをクリックしてください。AVG Stylerが新しいブートロゴを使用します。

11.2.5. ログオン画面

Windows 8 ではログオン画面を使用しないため、この機能は使用できません。

コンピュータのユーザーが複数存在する場合や、ユーザー アカウントがパスワードで保護されている場合、Windows のログオン画面が現れます。AVG Styler を使えば、ログオン画面を自由にカスタマイズすることができます。

ログオン画面には、すべてのユーザー アカウントの一覧が表示されます。ユーザーがこのリストから自分のアカウントを選び、パスワードを入力する(もし設定してあれば)と、システムにログインできます。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはスタートセンター内の**カスタマイズする** カテゴリーから、**Windows の外観を変更する** の **Windows の外観をカスタマイズする** エントリを選択します。

ウィンドウの左側にあるナビゲーションバーで、**ログオン画面** をクリックします。AVG Styler は使用可能なログオン画面をリスト表示します。モジュールを初めて使用する場合、デフォルトの Windows ログオン画面だけがここで見られます。

新しいログオン画面 を、最終的にそれに決めるまで取りあえずリストに追加しておくことができます。これを実行するには次のオプションがあります:

すでに作成されたログオン画面をダウンロードする

左上の**ログオン画面**にある**追加**をクリックします。

ログオン画面をAVG Onlineからダウンロードを選択します。

これにより、独自のスタイルでシステムを使用できるように、さまざまなログオン画面が見られるWebサイトにアクセスします。

ログオン画面をクリックします。

その画面が自動的にAVG Stylerと同時に開き、リストに追加されます。

ファイルからログオン画面を追加する

左上の**ログオン画面**にある**追加**をクリックします。

ブート画面をファイルから読み込むを選択します。

エクスプローラーが開いたら、コンピュータ上の任意のファイルを選択します。AVG Styler形式のファイル(拡張子 .TLS)だけがサポートされています。

また、Logonui.exe として用意されているログオン画面や Starlock LogonStudio 形式 (LOGONXP) は、直接読み込むことができます。

新しいログオン画面を選択し、名前を付けます。ファイルは、その名前**AVG Styler**のリストに表示されます。

作成者の名前を付けることもできます。新たに追加したログイン画面がリストに表示されます。さらに他のログイン画面を追加することもできます。

独自のログイン画面を作成する

Windows XP ではこの機能が利用できないのでご注意ください。

ログイン画面で、新規作成をクリックします。

画像を検索し調整できるウィザードが開きます。コンピュータまたは外部記憶媒体にある画像を選択することができます。

また、カメラやスキャナから画像を転送したり、直接 **AVG Styler** から Google™ 画像検索を開始することもできます。どちらの場合も、希望の画像を見つけやすいようにひとつの場所に保存し、**ローカルドライブを検索** をクリックして、今保存した画像を読み込みます。Google™ の画像検索で見つけた画像は、著作権によって保護されていることがあるのでご注意ください。それゆえ、著作権によって保護されていない画像だけを使用してください。

新しい画像の外観を最適化する

用意されている調整オプションは、画像がまだログイン画面に適したサイズ (640x480 ピクセル) にされていない時にのみ、効果が表示されます。背景では、画像で隠れない領域を何色で表示するかを指定できます。

新しいログイン画面は、名前をつけて **AVG Styler** のリストに保存します。

作成者の名前を付けることもできます。新たに追加したログイン画面がリストに表示されます。

デフォルトに戻す

しばらくして新しいログイン画面が気に入らなくなった場合は、いつでも Windows のデフォルト画面に戻すことが可能です。

デフォルトに戻すボタンをクリックします。

リスト内で自動的にデフォルトのログイン画面が選択され、プレビューが表示されます。

適用するには、**適用** をクリックします。

リスト内で任意のログイン画面を選択すると、プレビューが表示されます。

適用する をクリックしてください。

ログイン画面のほとんどは英語になっています。このため、選択されたログイン画面のテキストを適用すると Windows ログイン時のメッセージがこれまでと違う言語になってしまうことがあります。つまり例えば「ユーザー名をクリックしてログインする」ではなく、「Click your user name to log on」となっていることがあります。

この場合、選択されたログイン画面にあるテキストを適用するか、あるいは既定のログイン画面の日本語テキストを使いたいのか、という質問をされることがあります。

AVG Styler が新しいログイン画面を適用します。ここで、Ctrl+Alt キーを押すと、ログイン画面がテストできます。

11.2.6. システム要素

このカテゴリでは、典型的な Windows アイコンを新しいモチーフに置換えることができます。

手順：

AVG Styler モジュールを起動するにはスタートセンター内の**カスタマイズする** カテゴリから、**Windowsの外観を変更する** の **Windowsの外観をカスタマイズする** エントリを選択します。

ウインドウの左側にあるナビゲーションバーで、**アイコンのシステム要素** をクリックします。

AVG Stylerにより、右側に以下の領域のタブが表示され、そこでシステム要素を変更することができます。

デスクトップ、スタートメニュー (Windows 8 ではご利用いただけません)、エクスプローラ、コントロールパネルのすべての要素のアイコンが変更できます。また、ファイルの種類を示すアイコンもカスタマイズできます。

多数の要素には新しい名前を指定することもできます (例えば、ごみ箱やネットワーク環境など)。

たとえば、Windows XP で使用していたマイ コンピュータという名称を復活させたい場合は、Windows Vista の "コンピュータ" を "マイ コンピュータ" に変更することができます。

タブを1 つずつクリックし、変更したい要素を選択します。

アイコンを取り替える をクリックします。

アイコン ライブラリが開き、そこには選択した要素の現在のアイコンがあります。たいていは既に Windows と一緒にインストールされたライブラリです。コンピュータに独自のアイコン ライブラリがある時は参照でそのライブラリの内容を読み込むことができます。

新しく使用したいアイコンを選択しておきます。

変更は、まずリストの各要素にオレンジ色の星印で表示されます。

まだ適用していない変更はいつでも破棄できます。それには、リストでそのような星印が付いた要素を選択し、**この要素に行なわれた未保存の変更を破棄** をクリックします。

変更を実際に行うするには、ウインドウの右下端にある **適用** をクリックします。

変更を元に戻す方法

要素に対するまだ適用していない変更はいつでも破棄できます。それにはリストからそれを選択し、**この要素に行われた未保存の変更を破棄** をクリックします。

既に要素に適用した変更を元に戻したい場合は、要素を選択し、**要素を Windows の既定値にリセット** をクリックします。このリンクは、要素が実際に目下 Windows の既定のものとは異なる場合にのみ表示される、ということにご注意ください。

一度に複数の変更を元に戻す場合は、**カテゴリをリセット** と **すべてのカテゴリをリセット** のリンクが用意されています。最初の要素では、現在選択されているタブの要素だけがリセットされ、**AVG Styler** で変更可能なシステム要素すべてが対象となります。

双方のリンクをクリックするとダイアログが開き、ここで全要素を Windows 既定のものにリセットするのか、またはこれらの要素にまだ保存されていない変更のみを取り消すのかを選択できます。後者の選択可能性は、まだ保存

されていない変更があるときだけです。

11.2.7. アイコン パッケージの管理

Windows のアイコンをすべて、ひとつひとつ置換えるというのはもちろん大変骨の折れる作業です。AVG Stylerはそれゆえ、古くなった Windows アイコンすべてを、新しいアイコンと一気に置き換えることができるようにしました。

アイコンパッケージの追加

ウインドウの左側のアイコンの下、AVG Stylerから、**システム要素**をクリックします。それから下の**アイコン パッケージ**をクリックしてください。

新しいウインドウが開き、使用できるアイコン パッケージが一覧されます。ここで、新しいアイコン パッケージをリストに追加するか、リストに含まれているものをインストールすることができます。

追加をクリックします。

このようにしてその他のアイコン パッケージをリストに入れることができます。その際、コンピュータ上にあるアイコン パッケージを使用するか、あるいは新しいパッケージをダウンロードするかを選べます。さまざまな趣向を凝らしたアイコン パッケージがダウンロード用に用意されています。

Web サイトでアイコン パッケージをクリックし、それをAVG Stylerで開きます。数秒でパッケージがリストに表示されます。

新しいアイコン パッケージを作成

その他の方法として、お持ちの現在のアイコンの構成から独自のアイコンパッケージを作成し、保存したり友人と交換することもできます。

リストの上端にある**新規 パッケージを作成**をクリックします。

ウィザードが開き、次のステップでアイコン パッケージの作成を行うことができます。

作成者に関する情報：ここでは希望に応じてアイコン パッケージに、ユーザーの名前やメール アドレス、そしてホームページ情報などを記入することができます。

パッケージ名と説明：ここに気の利いたパッケージ名を指定します。また説明フィールドにパッケージに関する補足情報を記入して保存することも可能です。

パッケージサイズの最適化：このステップのオプションを使うと、アイコン パッケージのサイズが抑えられるので、メールでも支障なく送信できます。

アイコン パッケージが作成されます：アイコンが構成され、これらから続いてアイコン パッケージが作成されるよう場合によっては最適化されます。

ウィザードの終了：アイコン パッケージ作成が正常に完了したら、アイコン パッケージ一覧の**終了**をクリックすることで追加されます。**フォルダを開く**をクリックすると、Stylerのアイコンパッケージ フォルダに移動し、アイコンパッケージを別の場所にコピーしたりメールに添付したりできます。

11.2.8. ファイル システム

Windows ではそれぞれのドライブ、ファイル、フォルダ、スタートメニュー フォルダ、そしてブックマーク エントリに既定のアイコンが割り当てられています。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはスタートセンター内の**カスタマイズする** カテゴリーから、**Windows のデザインを変更する** の **Windows の外観をカスタマイズする** エントリを選択します。

ウインドウ左側にあるナビゲーションバーで、**アイコンのファイルシステム**をクリックします。

ドライブおよびフォルダのツリー ビューが開きます。ツリー ビューの個々の要素をクリックして、それぞれのアイコンに付け加えたい要素を選択します。

アイデアとヒント:

- 最初の節の下に、例えば、ゲーム用ドライブには特に奇抜で面白いアイコン、オフィスのプログラム用ドライブにはむしろ地味なアイコンを割り当てることができます。
- フォルダも同様に扱うことができます。内容に合ったアイコンを割り当てておけば、ドライブがいっぱいになっても内容を簡単に一覧することができます。
- スタートメニューのフォルダのアイコンも、内容に合ったものに取り替えることができます。
- また、Internet Explorer の [お気に入り] にも独自のアイコンをつけることができます。これにより、たいいてい長いリストとなっている [お気に入り] をすばやく見つけることが可能になります。

ツリー ビューのさまざまな要素をクリックして、クリエイティブなアイコンをにしたい要素を選択します。

アイコンを取り替えるをクリックします。

これに対しては、[コンピュータ]、[スタートメニュー]、[お気に入り]の3つの要素は取り替えられないのでご注意ください。

アイコン ライブラリが開き、そこには選択した要素の現在のアイコンがあります。たいいていは既に Windows と一緒にインストールされたライブラリです。コンピュータに独自のアイコン ライブラリがある場合は、その内容を参照で見つけることができます。

アイコンを選択します。

OKをクリックすると、変更が今すぐ適用されます。

個々の変更を戻す

変更を元に戻すには、リスト内で要素をクリックし、**要素を Windows のデフォルト値にリセット**をクリックします。

複数の変更を元に戻す

同時に複数の変更を元に戻したい場合は、場合によってはリンク以前のセッションからバックアップを復元が役に立つかもしれません。AVG Rescue Centerが起動され、ある時点においてAVG Stylerで行った変更を元に

戻すことができます。

11.2.9. アイコンの外観

ここでは、デスクトップ上のアイコンの表示を変更することができます。

手順：

AVG Styler モジュールを起動するにはスタートセンター内の**カスタマイズする** カテゴリから、**Windowsの外観を変更する** の **Windowsの外観をカスタマイズする** エントリを選択します。

画面左側のAVG Styler、**アイコン**の下から、**アイコンの外観** をクリックします。

AVG Styler は、デスクトップ上にある変更可能な要素のプレビューが表示されます。

デスクトップ上の要素のサイズ (Windows XP のみ)、要素間の間隔を設定し、ショートカットに矢印を表示するかどうかを指定します。

11.2.10. 修復

Windows のアイコンを変更し、そこに独自の設定を行うのは楽しいことでしょう。しかし、希望のアイコンが思ったような外観で表示されない、誤ったアイコンが表示されるなどのトラブルも生じることがあります。AVG Stylerは2つの修復機能を有しています。

動作の詳細について

AVG Styler モジュールを起動するにはスタートセンター内の**カスタマイズする** カテゴリから、**Windowsの外観を変更する** の **Windowsの外観をカスタマイズする** エントリを選択します。

AVG Stylerで、画面左側の**アイコン**の下にある**修復** をクリックします。

アイコンの再読み込み をクリックします。

通常は、この機能は混乱を整理し、Windows システムのスタイル変更を続行できるようにします。アイコンを再読み込みしても正常に表示されない場合は、アイコンのキャッシュに深刻な問題が生じている可能性があります。

アイコンのキャッシュを修復 をクリックします。

アイコンのキャッシュとは、Windows により、かつて読み込まれたアイコンが将来いつでも使用できるように収納されているファイルです。このファイルにエラーが紛れ込むと、場合によってはすべてのアイコンが破損してしまいます。このエラーは、AVGStylerを使用すればすぐ修復することが可能です。

ただし、修復作業では再起動または再ログインが必要になることがあります。

11.2.11. 視覚スタイル

Windows 8 ではこの機能が利用できないことにご注意ください。

ここでは、視覚スタイルが変更できます。視覚スタイルとは、Windows のウインドウとボタンの外観を定義したものです。

手順：

AVG Styler モジュールを起動するにはスタートセンター内の**カスタマイズする** カテゴリから、**Windows の外観を変更する** の **Windows の外観をカスタマイズする** エントリを選択します。

インターフェイスの下、ウインドウの左側にある**AVG Styler**で、**視覚スタイル**をクリックします。

AVG Stylerは利用できるすべての視覚スタイルのリストを表示します。右側にはプレビューとその他の詳細を、リスト上で選択された形で見ることができます。

新しい視覚スタイルはひとまずリストに追加し、その後最終的に適用します。これを実行するには次のオプションがあります：

AVG Online から視覚スタイルをダウンロードする

左上の **視覚スタイル**にある **追加** をクリックします。

AVG Online から**視覚スタイルをダウンロード**を選択します。

これにより、多くの視覚スタイルが選べるウェブサイトアクセスし、ここから無料でいつでもダウンロードできます。

特に気に入った視覚スタイルを選び、クリックしてください。

その画面が自動的に**AVG Styler**と同時に開き、リストに追加されます。

視覚スタイルをファイルから追加する

左上の **視覚スタイル**にある **追加** をクリックします。

ファイルから視覚スタイルを読み込むを選択します。

Explorer が開き、コンピュータまたは外部記憶媒体に保存されている視覚スタイルを選択することができます。標準的なファイル形式はほとんど**AVG Style**で認識され、サポートされています：

種類	ファイルの拡張子	説明
AVG視覚スタイル	.TVS	AVG Stylerの個別フォーマット
Microsoft Visual Styles	.MSSTYLES	この Microsoft フォーマットには、たいてい同じフォルダレベルやサブフォルダ内にあるその他のファイルが含まれていません。
圧縮されたアーカイブ	.RAR, .ZIP	アーカイブファイルではリストされているファイルの種類すべてが検査され、場合によっては自動的に解凍されます。
自己解凍型アーカイブ	.EXE	このファイルは、ファイルの種類の特徴に従って圧縮アーカイブが扱われる、RAR か ZIP フォーマットで保存されているアーカイブの検査がおこなわれます。

新しい視覚スタイルを選択し、名前を付けます。ファイルはその名前で**AVG Styler**リストに表示されます。

作成者の名前を付けることもできます。追加した視覚スタイルがリストに表示されます。

デフォルトに戻す

しばらくして新しい視覚スタイルが気に入らなくなった場合は、いつでも Windows 既定の画面に戻すことが可能です。

デフォルトに戻す ボタンをクリックします。

既定値の視覚スタイルはそれに基づいて自動的にリストから選択され、プレビューもそれに応じて変更されます。

適用する をクリックしてください。

視覚スタイルをプレビューするにはリストから選択します。

適用する をクリックしてください。

AVG Stylerによって、新しい視覚スタイルの適用処理が行われる間、一時的に画面が暗くなります。ほんの短時間、画面が暗くなった後、Windows システムが装い新たに表示されます。

視覚スタイルの削除

視覚スタイルを完全にコンピュータから削除したい場合は、それを選択して**削除** をクリックしてください。

12. すべての機能

スタートセンターの右端にある**すべての機能**のメニューをご覧ください。このメニューを開くとAVG PC TuneUpに備わっている全機能の一覧が、アプリケーション領域により分類されて表示されます。項目の後にあるスパナをクリックすると各項目の設定が開き、個人のニーズに合わせて設定することができます。



大抵のこれらの機能はこのビューにも、5つのカテゴリにもあります。

ですが以下の機能はこのメニューにしかありません:

インストール済みのプログラム

無効にする

現在使用しておらず、アンインストールしたくないプログラムを無効にできます。

[プログラムを無効にする方法](#) もご覧ください。

スタートアッププログラムを無効にする

システム起動時にバックグラウンドで自動的に起動するプログラムを無効にし、システム起動をスピードアップできます。

[システムの起動を設定する方法](#) もご覧ください。

アンインストール

PCにインストールされているすべてのプログラムと詳細情報を表示し、アンインストールするプログラムを選ぶことができます。

[プログラムをアンインストールする方法](#) もご覧ください。

ハードディスク

デフラグ

ハードディスク内のデータブロックを新たに整理し、ディスクの空き領域を増やしてドキュメントやプログラムの読み込みをスピードアップします。

[ハードディスクをデフラグする方法](#) もご覧ください。

エラーをチェック

ハードディスク表面とそこに含まれるファイルシステムの構造を点検、エラーをチェックし、修正してデータの損失を防ぎます。

[ハードディスクを検査する方法](#) もご覧ください。

データを確実に削除

プロでさえ復元不可能なようにファイルやフォルダを末梢することができます。

[データを確実に削除する方法](#) もご覧ください。

削除されたファイルを復元

ハードディスクやポータブルドライブから消去したファイルを探し出して復元します。

[削除されたファイルを探し出す方法](#) もご覧ください。

重複ファイルを検出して削除

ハードディスク上の重複ファイルを見つけ出し、削除できます。

[重複ファイルの検索方法](#) もご覧ください。

大容量のデータを検出して削除

保存メディアにある大容量データを検出して削除し、ディスク領域を増やすことができます。

[分析を実行する方法](#) もご覧ください。

使用データ

Windows とプログラムを整理する

システムに障害なくハードディスクから削除できる、不要なファイル、プロトコル、履歴リスト、バックアップファ

イル、一時ファイルに的を絞って探し出します。

[Windows とプログラムを整理する方法](#) もご覧ください。

ブラウザをクリーンアップする

キャッシュ、クッキー、ブラウザのインターネット履歴をクリーンアップし、ネット閲覧の形跡を確実に削除します。

[ブラウザをクリーンアップする方法](#) もご覧ください。

破損したショートカットを削除する

システムをくまなく探し、無効になったショートカットや参照を削除します。これにより、そのような参照先を呼び出した際のエラーメッセージを回避できます。

[無効なショートカットを削除する方法](#) もご覧ください。

レジストリ

デフラグ

Windows システムの中央データベース (レジストリ) を書き直し、隙間や構造エラーを除去してシステムを安定にします。

[レジストリをデフラグする方法](#) もご覧ください。

クリーンアップ

Windows システムの中央データベース (レジストリ) で壊れたエントリを探し、修復または削除してシステムを安定にします。

[レジストリをクリーンアップする方法](#) もご覧ください。

編集

AVG Registry Editor でレジストリキーやレジストリ値をすばやく楽に検索し、的を絞って変更することができます。ただし、この機能は経験を積んだユーザーのみが使用してください。

[レジストリを編集する方法](#) もご覧ください。

コンピュータ

エコノミー モードをオンにする

省エネの可能性を最も有用に活用してコンピュータの電力消費を低減させます。

[エコノミー モード](#) もご覧ください。

スタンダード モード

すべてのチューニング サービスと機能を制限なく利用できるようにします。

[スタンダードモード](#)もご覧ください。

ターボモードをオンにする

不要なバックグラウンドのプログラムやメンテナンスを一時的にオフにして、コンピュータのパフォーマンスをさらに向上させることができます。

[ターボモード](#)もご覧ください。

ワンクリックメンテナンスを開始

システム上で最適化の可能性をチェックし、引き続いてすぐ最適化を実行できます。

[ワンクリックメンテナンス](#)もご覧ください。

自動メンテナンスを設定する

メンテナンスの措置が、定期的間隔で自動的に実行されるように設定できます。

[メンテナンス設定を変更](#)もご覧ください。

システム情報を表示する

ハードウェアとソフトウェア及びコンピュータのパフォーマンスについて重要な情報を表示します。

[システム情報を表示する方法](#)もご覧ください。

推奨事項

パフォーマンスを向上させる

ハードウェアとソフトウェア、インターネット設定、視覚効果の領域での変更により、システムパフォーマンスを向上できる推奨事項を表示します。

[コンピュータのパフォーマンスを向上](#)もご覧ください。

問題の修正

システムの状態に悪影響を及ぼす問題を表示し、問題修正の方法を提案します。

[問題の修正](#)もご覧ください。

システムの起動とシャットダウンを最適化

コンピュータを点検し、例えば不要なスタートアッププログラムを無効にするなど、システム起動やシャットダウンをスピードアップするための推奨事項があるかどうかをチェックします。

[システムを最適化](#)もご覧ください。

Windows

典型的な問題を修正する

Windows のよくある問題の一覧を表示し、生じた問題を簡単に修正することができます。

[典型的な問題を修正する方法](#)もご覧ください。

Windows の設定を変更する

視覚効果、ブラウザ オプション、デスクトップ、ユーザー ログオン、その他数多くを個々に設定できます。

[オプションと動作を個々にカスタマイズ](#)もご覧ください。

Windows のデザインを変更する

Windows のインターフェイスを個人の好みにしたがってカスタマイズできます。

[Windows の外観をカスタマイズする](#)もご覧ください。

実行中のプロセスの表示と終了

実行中のプロセスや開いているファイルを見たり、問題が起こった場合にはそれらを中止したり終了することが可能になります。

[実行中のプロセスを管理する方法](#)もご覧ください。

AVG PC TuneUp

変更を元に戻す

AVG PC TuneUp で行った変更を復元する、または Windows 復元ポイントまで復元することができます。

[変更を元に戻す](#)もご覧ください。

更新の確認

お使いの AVG PC TuneUp に新しい更新があるかどうかをチェックし、あればインストールします。

[更新を確認する方法](#)もご覧ください。

最適化レポートを表示する

最適化レポートは AVG PC TuneUp により今までに何が最適化されたかを表示します。

[AVG 最適化レポートを表示する方法](#)もご覧ください。

設定

AVG PC TuneUp を必要にあわせてカスタマイズし、メンテナンスを行い、ターボモード、AVG PC TuneUp の更新確認を設定することができます。

ライブ最適化を設定

最適化措置を2つ有効にし、応答とシステム起動をスピードアップすることができます。

[ライブ最適化を設定](#)をご覧ください。

12.1. レジストリの編集

以下の章では、どのように AVG Registry Editor モジュールを使ってレジストリを編集できるかを説明します。

この機能は、上級ユーザーのみを対象としています。

Windows レジストリは巨大な中央データベースです。ハードウェアやインストールしたソフトウェアの新しいアイテムはここに「レジストリ」されます。そして、時間が経つにつれてレジストリはどんどん大きくなり、複雑になっていきます。

問題を熟知し、Windows の内部構造を確認するための適切な手段を探し、手動で多数の設定を変更するようなユーザーは、AVG Registry Editorを使用できます。そのうえもちろん、行われたあらゆる変更をいつでも元に戻すことができるAVG Rescue Center保護も提供します。

12.1.1. レジストリを編集する方法

AVG Registry Editorモジュールを起動するには、スタートセンターのすべての機能から、レジストリにある編集を選択します。

レジストリは、Windows システムの中核となる要素です。レジストリに精通したユーザーだけが、レジストリに変更を加えるようにしてください。

左の欄にエディタがツリービューでレジストリを表示します。レジストリは、テーマごとにさまざまなカテゴリに分類された、数えきれないほどのキーによって成り立っています。それらのカテゴリはフォルダやサブフォルダで示されています。

キーを表示

左の欄のフォルダをダブルクリックすると、そのサブフォルダが表示されます。階層の最後のレベルに達した場合は、右側に個々のキーが表示されます。

キーを編集

キーのコンテキストメニューでさまざまな編集機能を選択します。こうしてキーを削除し名前を変更して、クリップボードにコピーできます。また、キーの値を変更することも可能です。

新しいキーを作成するには、フォルダのコンテキストメニューで **新規** をクリックします。

レジストリを閲覧

ツリービューにあるフォルダのコンテキストメニューで、**検索** をクリックすると、レジストリ内で検索を開始できます。AVG Registry Editorは、包括的な検索オプションを提供します。

ブックマークを設定 ブックマークを表示 / 設定する

ツリービューにあるフォルダのコンテキストメニューで**ブックマークを設定**を選択すると、後で個々のフォルダをすばやく見つけられます。

その他の機能

メニューバーには、レジストリを編集するためのその他の機能が多数含まれています。たとえば、個々の領域またはレジストリ全体をエクスポートしたり印刷したりできます。ツールバーの項目を使ってレジストリを編集することもできます。

12.2. 更新の確認

本章ではどのようにAVG Update Wizardモジュールを使用してAVG PC TuneUpを最新の状態に保つのか、またそれが重要である理由を説明します。

AVG PC TuneUpは、個々の機能を拡張するだけでなく、最新の技術に合わせた調整や、エラーがあった場合のエラー修正など、常に改良が続けられています。新しいバージョンが利用可能になるとインターネット上で提供されます。

自動的に更新を確認させたり、手動で確認することもできます。

設定の変更

更新確認の設定を変更するには、メニューバーの**設定**、それから**更新**をクリックします。ここでは、AVG PC TuneUpが定期的な自動更新をするかどうかを決めることができます。さらに、どのくらいの時間間隔で見つかった更新の通知をもらうかも指定できます。

手動で更新を確認

AVG PC TuneUpに更新の確認を自動実行させない場合は、この機能をオフにしてください。オフにした場合は、定期的に手動で更新を確認することをお勧めします。

12.2.1. 更新を確認する方法

AVG Update Wizardモジュールを起動するには、スタートセンターの**すべての機能**カテゴリから、AVG PC TuneUpの**更新の確認**を選択します。

モジュールを起動するもう一つの方法は、スタートセンターのメニューバーで**ヘルプとサポート**をクリックし、**更新を確認**を選択します。

AVG Update Wizardが起動し、更新の有無を確認するためにインターネット接続が確立されます。

更新がある場合

利用可能な更新のリストと新機能または変更された機能の簡単な説明が表示されます。

見つかった更新をインストールするには、**次へ**をクリックしてください。

更新がない場合

更新がない場合は、AVG PC TuneUpはすでに最新の状態にあるので、**終了**をクリックしてウィザードを

閉じます。

12.3. AVG 最適化レポートの表示

本章では、**AVG 最適化レポート**を活用して、**AVG PC TuneUp**が今日までに最適化したコンピュータ内の概要を見る方法を説明します。

AVG 最適化レポートは、これまでに**AVG PC TuneUp**で実行したすべての最適化処理を示します。このレポートは**AVG PC TuneUp**の多数の自動バックグラウンド最適化を使用する場合に特に役立ちます。コンピュータがこれまでに**AVG PC TuneUp**によってどの程度最適化されたかをいつでも確認することができます。

12.3.1. AVG 最適化レポートを表示する方法

AVG 最適化レポートを表示するには、スタートセンターのすべての機能から、**AVG PC TuneUp**にある**最適化レポートを表示**を選択します。

AVG PC TuneUpですでに実行された最適化についての概要が開き、それによる利点も表示されます。

最適化の1つにマウスポインタを置くと、小さな情報ウィンドウが開き、その最適化の効果に関する詳細や、それぞれの最適化の詳細が表示されます。

最適化レポートは、最近7日間または最近30日間に対して作成させることも、インストール以後の全期間に対して作成させることもできます。それには、該当するタブに移動してください。

13. プログラムの評価機能

便利な**プログラムの評価機能**をAVG Program Deactivator、AVG StartUp Manager、AVG Uninstall Managerモジュールでオンにすることができます。この機能は、インストール済みのプログラムについて、他のAVG PC TuneUp ユーザーがどれだけ有用と評価しているかを示します。日常の作業の際にどのプログラムが本当に必要か、即座により決断をするために、評価機能を利用してください。

この章では、**なぜプログラムの評価機能が有用なのか**、そして**どのようにプログラムの評価機能をオンにすることができるか**を説明します。

インストール済みのどのプログラムが日常の作業で本当に必要なかを決定しなければならない状況も時にはあるでしょう。この目的のため、**プログラムの評価機能が開発されました**。

多くのAVG PC TuneUp ユーザーの経験は、AVG Program Deactivator、AVG StartUp Manager、AVG Uninstall Managerモジュールにおいて、判断するための助けとなります。プログラムの評価機能は、どのプログラムが他のユーザーによって有用と判断されているかを示し、どのスタートアッププログラムを無効にし、どのプログラムを無効化、あるいはアンインストールするかを決めるのに役に立ちます。

ただし、**評価機能を使うにはインターネット接続が必要です**。

モジュールの評価機能を表示

評価機能をオンにしている場合、プログラムリストの別の欄としてAVG Program Deactivator、AVG StartUp Manager、AVG Uninstall Managerモジュールに統合されます。自己評価は**有用性の評価**の欄の青い星で見分けられます。まだ評価を行っていない場合、欄には他のAVG PC TuneUp ユーザーがプログラムにつけた評価の平均が表示されます。評価がまだつけられていない場合は、空欄になります。

マウスポイントが欄上にある間、自己の評価と他のAVG PC TuneUp ユーザーの評価を示す Quickinfo が表示されます。

評価機能をオンにする方法

AVG Program Deactivator、AVG StartUp Manager または AVG Uninstall Managerモジュールのいずれかを開始します。ダイアログ **プログラムの評価機能**が表示されます。OKをクリックします。

この時点でまだ決定したくない場合は、**後で決定する**をクリックします。モジュールが評価機能なしで起動します。評価機能をいつもオンにしておくには、ツールバーの**評価機能** から **オンにする** をクリックし、今度は有効化のダイアログでOKをクリックします。

評価機能をオフにする方法

ツールバー内の**評価機能** をクリックし、**オプションのオフにする** を選びます。次のダイアログでは、再度この機能を使う時のために、自分が出した評価を保存しておくかどうかを決めることができます。他のユーザーの評価はPCのデータベースから削除されるので、機能を新たにオンにする際は、サーバーから再びダウンロードする必要があります。

評価の出し方

1. マウスポイントを**有用性**の欄上で動かしてください。プログラムの評価をする場合は、少なくとも1つの星をつける必要があります。1つのプログラムに最高で5つまで星をつけられます。

2. そのプログラムにつけたい星の数をクリックしてください。たとえば星を3つ付けたい場合は、3番目の星をクリックします。
3. 評価は自動的に保存され、**AVG PC TuneUp**サーバーに転送されます。

評価を変更する場合にも、最初の評価の場合と同様の手順です。

14. AVG PC TuneUp ガジェット

AVG PC TuneUp のもう一つの機能は、ガジェットです。これは、Windows XP ではサポートされていないので、Windows Vista と Windows 7 でしか使用できません。

便利なガジェットをデスクトップに表示させることができます。ガジェットは、常にコンピュータの状態について報告します。AVG PC TuneUp を起動させることなく、**ダッシュボード**カテゴリで最適化の可能性があるかどうかを知ることができます。AVG PC TuneUp もここから起動することができます。

ガジェットではいつでも、どの**PC モード**が現在有効になっているかが確認でき、また3つのボタンによっていつでも他の**PC モード**をオンにすることができます。

本章では、**ガジェットが有用な理由**と、**どのようにAVG PC TuneUpガジェットをデスクトップに表示できるか**を説明します。

ガジェットとは

ガジェット (ウィジェットともいう) は、最新の情報を提供する小さなプログラムで、デスクトップに常時表示されません。

AVG PC TuneUpガジェットは何のためにあるのですか？

AVG PC TuneUp ガジェットは、AVG PC TuneUp を起動する必要なく、コンピュータのステータスを常に通知します。ガジェットはAVG PC TuneUpに組み込まれており、**ダッシュボード**カテゴリの現在の状態を表示します。

ガジェットの左上のアイコンをクリックすると、AVG PC TuneUp スタートセンターの**ダッシュボード**で開きます。そこですぐに生じている問題や推奨事項にあたることができます。

PC モード

AVG PC TuneUp ガジェットは3つのボタンを使って、さまざまな**PC モード**をオンにできるようにします。3つの**PC モード**のうちどれが今有効になっているかもいつでも表示しています。

AVG PC TuneUp ガジェットは、コンピュータの状態に関する情報を常に提供してくれます。さらに、AVG PC TuneUp のスタートセンターに直接アクセスする手段でもあります。

AVG PC TuneUp ガジェットの表示方法

AVG PC TuneUp ガジェットはいつでもデスクトップに表示することができます。

Windows Vista での手順は以下のとおりです：

1. Windows のスタートメニューで、**すべてのプログラム**にある**アクセサリ**フォルダをクリックします。
2. **Windows サイドバー**をクリックします。コンピュータにインストールされているガジェットが一覧されます。
3. ガジェットAVG PC TuneUpをダブルクリックで有効にします。

Windows 7 での手順は以下のとおりです：



1. デスクトップ上の何もない箇所でマウスの右ボタンをクリックし、コンテキストメニューが開いたら **ガジェット** をクリックします。
2. **AVG PC TuneUpガジェット**を選択し、ダブルクリックして有効にします。

15. タスクバー通知領域の AVG PC TuneUp

通知領域は、Windows タスクバーの右側の領域です。時刻、ステータス記号、プログラムへのショートカットなどが表示されます。**AVG PC TuneUp** には、システムの現在のステータスを表示し、**AVG PC TuneUp**へのエントリーポイントを提供する通知領域アイコンがあります。

通知領域アイコンをダブルクリックすると **AVG PC TuneUp** が起動します。

アイコンを左クリックすると、**フライアウト ウィンドウ**が **AVG PC TuneUp** 機能についての詳細と共に表示されます。

タスクバーの通知領域で通知を実施するかどうか、どのように通知するか、なにを通知するかについて、**AVG PC TuneUp** をユーザーが設定できます。

システム ステータス

システム ステータスのセクションでは、**AVG PC TuneUp** スタートセンターで最適化の可能性が示されているかどうかが見られます。**スタート AVG PC TuneUp** リンクを使用して、スタートセンターを表示できます。

スタートセンターに関する詳細は、[スタートセンター](#)をご覧ください。

自動 メンテナンス

自動 メンテナンスのセクションでは、前回の自動メンテナンスがいつ行われたかを知ることができます。リンクから自動メンテナンスの設定ダイアログにアクセスすることができます。

自動メンテナンスについての詳細は、[メンテナンス設定を変更する](#)をご覧ください。

ライブ最適化

ライブ最適化のセクションでは、最近行った2つのライブ最適化のの措置を見ることができます。リンクからライブ最適化の設定ダイアログに移動することができます。

ライブ最適化についての詳細は、[ライブ最適化を設定](#)をご覧ください。

PC モード

PC モードのセクションでは、今 **ターボモード**あるいは**エコノミーモード**がオンになっているかどうかを見ることができます。ここでは必要に応じて2つのモードの間で切り替えたりあるいは**スタンダードモード**をオンにすることができます。さらにリンクから設定ウィザードに行くことができます。

ターボモードの設定方法については、[ターボモードの設定](#)をご覧ください。

エコノミーモードの設定方法については、[エコノミーモードの設定](#)をご覧ください。

各モードの一般的な情報は、[PCモード](#)をご覧ください。

設定

タスクバーの通知領域で通知するかどうか、どのように通知するか、何を通知するかについて、**AVG PC TuneUp** をユーザーが設定できます。これには次の手順を実施します：

コンピュータに記号が表示されたら、その記号を右クリックしてください。表示されたコンテキストメニューで項目 **通**

知領域を設定するを選択してください。設定ダイアログが表示されます。このダイアログで設定を行うことができます。記号に加え、必要に応じてバルーンの形式で通知を表示することもできます。

コンピュータにアイコンが表示されない場合、**AVG PC TuneUp**スタートセンターの**設定メニュー**から、**通知領域アイコン**を選択して、このダイアログを呼び出します。